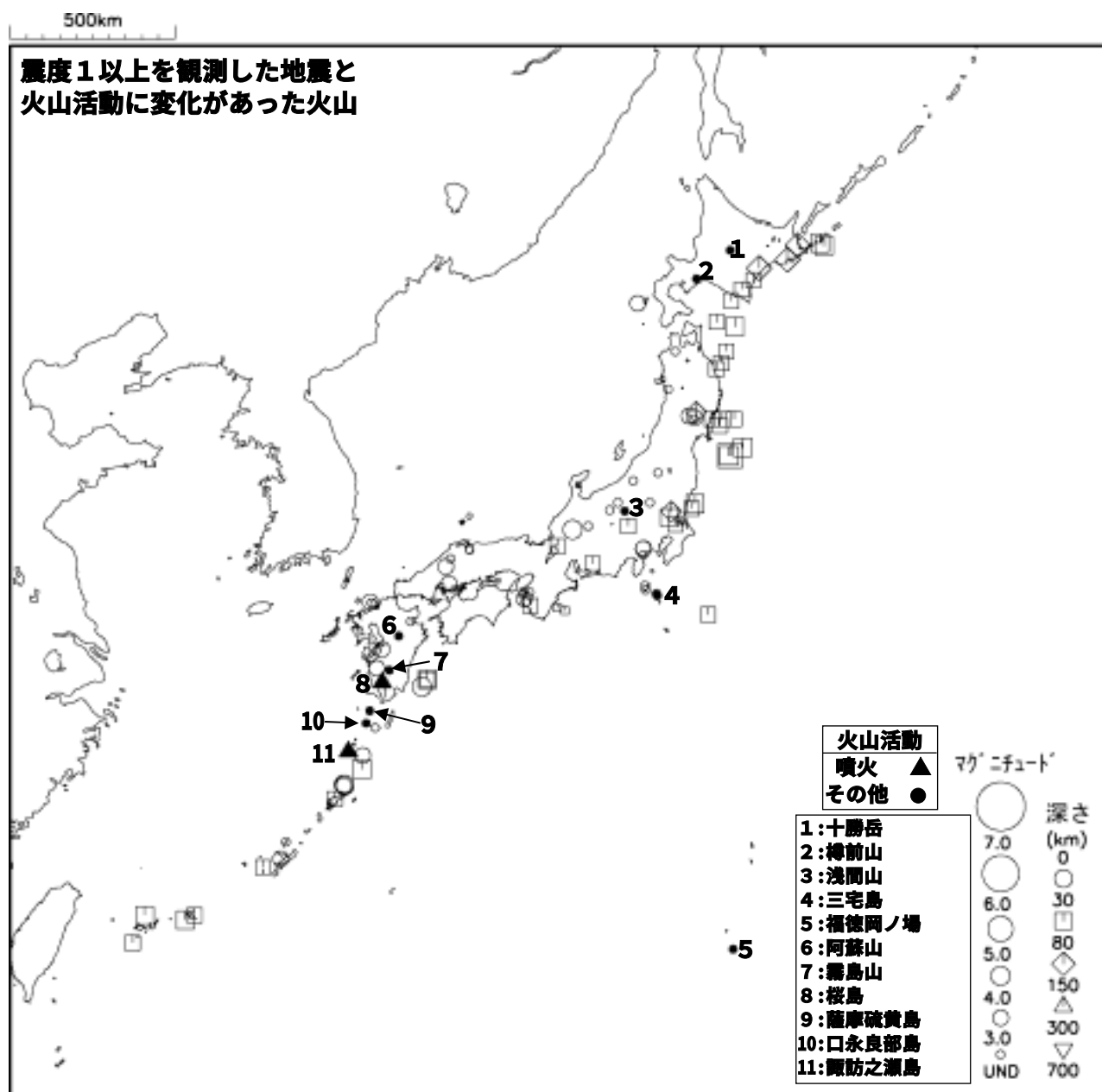


平成 18 年 1 月 地震・火山月報（防災編）

Monthly Report on Earthquakes and Volcanoes in Japan

January 2006



気 象 庁

Japan Meteorological Agency

2006

利用にあたって

本書は、地震・火山に関連した各種防災情報や地震・火山活動に関する分析結果の最新版を防災機関等における効果的な利用に供するため、毎月刊行している。

気象庁では、平成 9 年 11 月 10 日より、国・地方公共団体及び住民が一体となった緊急防災対応の迅速かつ円滑な実施に資するため、気象庁の震度計の観測データに合わせて地方公共団体及び独立行政法人防災科学技術研究所*から提供されたものも震度情報として発表している。

また、気象庁では、地震防災対策特別措置法の趣旨に沿って、平成 9 年 10 月 1 日より、大学や独立行政法人防災科学技術研究所等の関係機関**から地震観測データの提供を受け、文部科学省と協力してこれを整理し、整理結果等を、同法に基づいて設置された地震調査研究推進本部地震調査委員会に提供するとともに、気象業務の一環として防災情報として適宜発表する等活用している。

なお、地震・火山観測データの整理結果については、本編の姉妹編の「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載している。

本誌で使用している震源位置・マグニチュードは世界測地系（Japanese Geodetic Datum 2000）に基づいて計算したものである。

注* 秋田県、埼玉県、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県、横浜市（神奈川県）（以上 1 府 8 県、1 政令指定都市は平成 9 年 11 月 10 日から発表）、群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県及び愛媛県（以上 6 県は平成 10 年 6 月 15 日から発表）、青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県（以上 1 府 11 県は平成 10 年 10 月 15 日から発表）、東京都、長野県（以上 1 都 1 県は平成 11 年 7 月 21 日から発表）、栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）（以上 3 県、1 政令指定都市は平成 12 年 1 月 12 日から発表）、滋賀県（平成 12 年 3 月 28 日から発表）、富山県、香川県、大分県（以上 3 県は平成 12 年 7 月 18 日から発表）、佐賀県（平成 13 年 3 月 22 日から発表）、山梨県、川崎市（神奈川県）（以上 1 県、1 政令指定都市は平成 13 年 5 月 10 日から発表）、高知県（平成 13 年 7 月 19 日から発表）、福島県（平成 13 年 12 月 12 日から発表）、岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）（以上 4 県、1 政令指定都市は平成 14 年 3 月 20 日から発表）北海道、長崎県（以上 1 道 1 県、平成 14 年 7 月 29 日から発表）、沖縄県（平成 15 年 3 月 10 日から発表）の 47 都道府県、4 政令指定都市と独立行政法人防災科学技術研究所（平成 16 年 5 月 26 日から発表）。

注**平成 18 年 1 月末現在：国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人海洋研究開発機構、独立行政法人産業技術総合研究所、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び横浜市。

□本書利用上の注意

・震央分布図中の語句について

M：マグニチュード Depth：深さ（km）

UND：マグニチュードの決まらない地震が含まれていることを意味する。

N=XX：図中の地震数を表す（通常図の右肩上に示してある）

・発震機構解の図中の語句について

NP1：節面 1

NP2：節面 2

STR：走向（°：北から時計周り）

DIP：傾斜角（°：水平 0°、垂直 90°）

SLIP：すべり角（°：断層の走向から断層面に沿って反時計周り）

P：P 軸（圧力軸）

T：T 軸（張力軸）

N：N 軸（中立軸）

AZM：方位角（°：北から時計周り）

PLG：傾斜角（°：水平 0°、垂直 90°）

Mw：モーメントマグニチュード

Mo：地震モーメント（単位：Nm[ニュートン・メートル]）

・M-T 図について

縦軸にマグニチュード（M）、横軸に時間（T）を表示した図であり、地震活動の経過を見るために用いる。

・震央地名について

本書での震央地名は、原則として情報発表時に使用するものを用いる。情報発表時と異なる震央地名を用いた場合は、「異なる震央地名[情報発表時に使用する震央地名]」と併記した。

・地震の震源要素等について

地震の震源要素、発震機構解、震度データ等は、再調査された後、修正されることがある。確定された値、算出方法については「地震・火山月報（カタログ編）」「地震年報（CD-ROM）」を参照のこと。

・火山の活動解説の火山性地震回数等について

火山性地震や火山性微動の回数等は、再調査された後、修正されることがある。確定された値については、「地震・火山月報（カタログ編）」「火山報告（CD-ROM）」を参照のこと。

・本書で使用了地図等について

本書中の地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』、『数値地図 25000（地図画像）』、『数値地図 50000（地図画像）』、『数値地図 10m メッシュ（火山標高）』、『数値地図 50m メッシュ（標高）』、『数値地図 250m メッシュ（標高）』を使用したものである（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

また、震央分布図等に表記した活断層のデータは、「新編日本の活断層」（東京大学出版会、1991）を使用した。

・図版作成には一部 GMT(Generic Mapping Tool[Wessel, P., and W.H.F.Smith, New, improved version of Generic Mapping Tools released, *EOS Trans. Amer. Geophys. U.*, vol.79 (47), pp.579, 1998]) を使用した。

●日本及びその周辺で発生した主な地震

表 1

No.	震源時 月 日 時 分	震央地名	M	M H S T (注 3)	最大震度・被害状況等（注 4）	掲載 ページ
1	1 1 16 11	鳥島近海	5.9	・ ・ ・ T	震度 1 以上を観測した地点なし	9～10
2	1 1 22 56	福井県嶺北地方	4.1	・ ・ ・ ・	3：福井県 大野市朝日＊ ほかに 1 県 2 地点	11
3	1 11 00 07	根室支庁中部	4.4	・ ・ ・ ・	3：北海道 別海町常盤	5
4	1 14 15 30	茨城県南部	4.3	・ ・ S ・	4：栃木県 栃木二宮町石島＊	12
5	1 18 23 25	福島県沖	5.7	・ ・ ・ ・	3：宮城県 涌谷町新町 ほかに 2 県 39 地点	7

注 1) 主な地震とは、①M6.0 以上、②震度 4 以上、③内陸 M4.0 以上かつ震度 3、④海域 M5.0 以上かつ震度 3、⑤その他注目した地震を指す。

注 2) 震源時、震央地名、マグニチュードは再調査後、修正することがある。

注 3) M H S T の各項目について、M:M6.0 以上の地震、H:被害を伴った地震、S:震度 4 以上を観測した地震、T:津波を観測した地震、として該当項目にそれぞれの記号を記した。

注 4) 最大震度の観測点名にある＊印は地方公共団体もしくは独立行政法人防災科学技術研究所の震度観測点の情報であることを表す。被害の報告は総務省消防庁による。

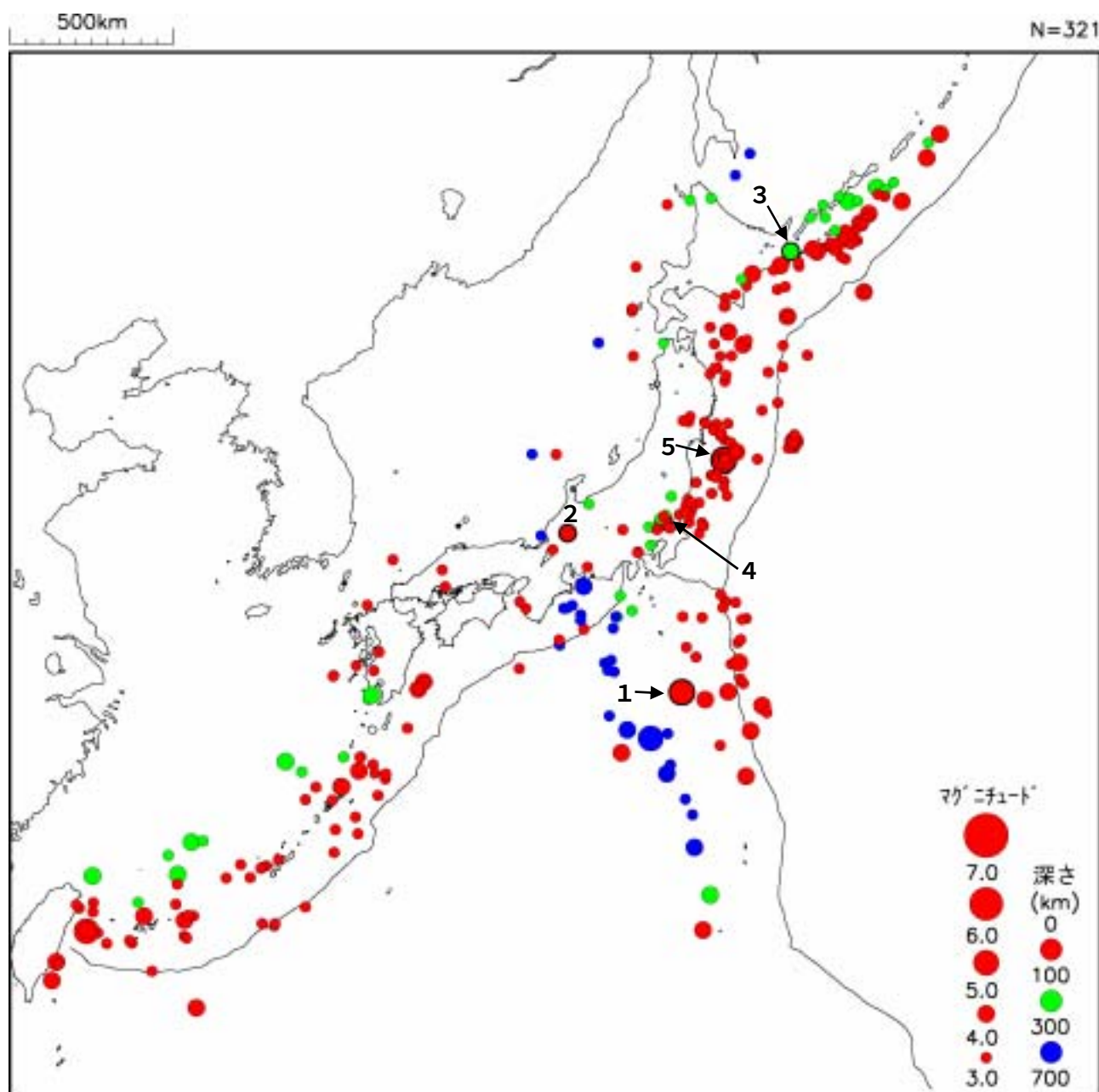
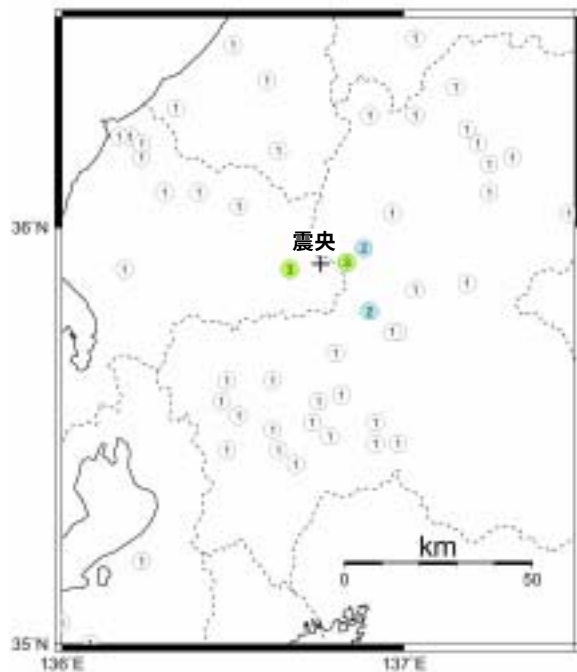
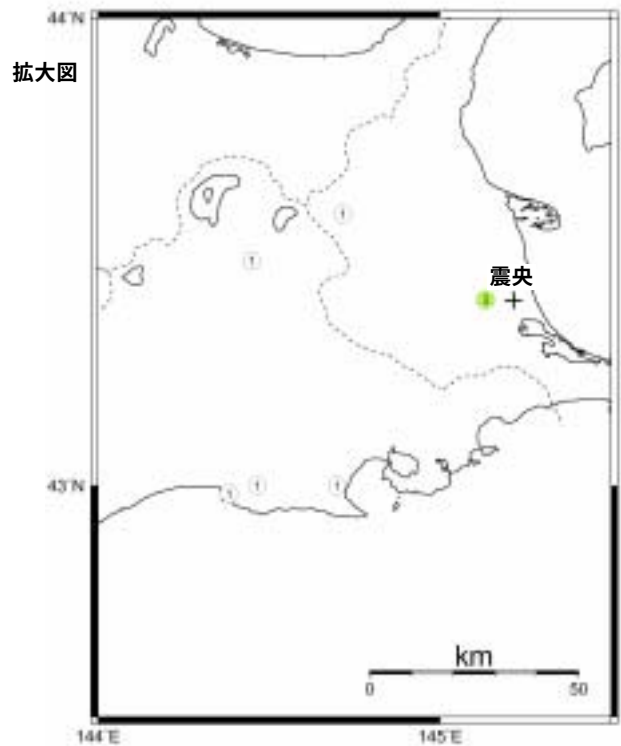


図 1 2006 年 1 月に日本及びその周辺で発生した M3.0 以上の地震の震央分布図
(図中の数字は表 1 の番号に対応する)

図 2 各観測点の震度分布図（数字は表 1，図 1 の番号に対応する。+印は震央を示す。）



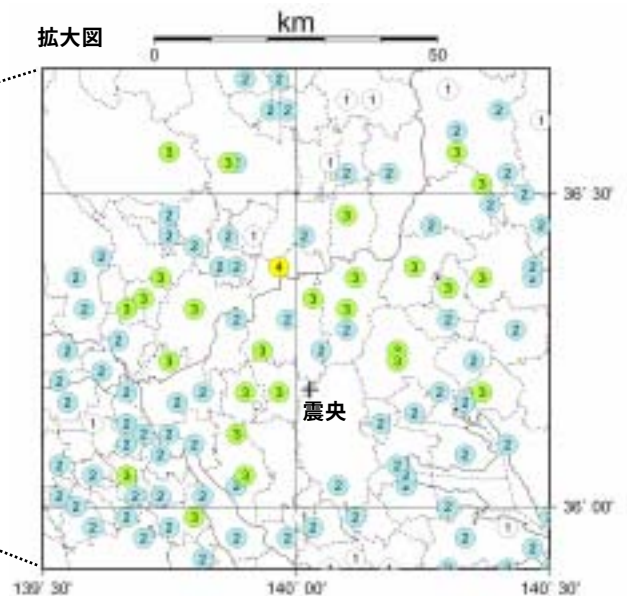
No. 2: 1/1 22:56 福井県嶺北地方
(M4.1, 深さ 10km, 最大震度 3)



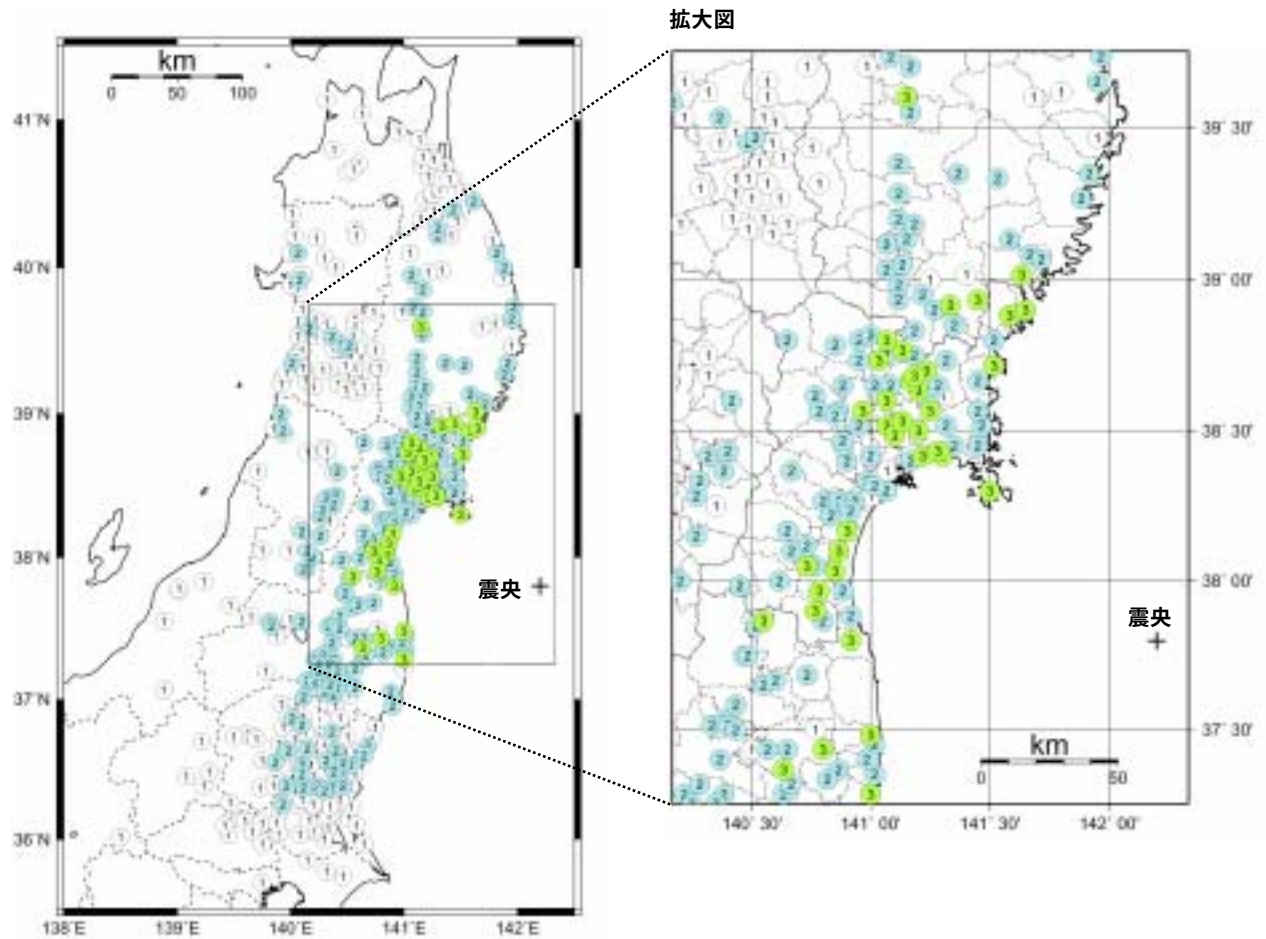
No. 3: 1/11 00:07 根室支庁中部
(M4.4, 深さ 118km, 最大震度 3)



拡大図



No. 4: 1/14 15:30 茨城県南部 (M4.3, 深さ 52km, 最大震度 4)



No. 5 : 1 / 18 23:25 福島県沖 (M5.7, 深さ 36km, 最大震度 3)



○北海道地方の地震活動

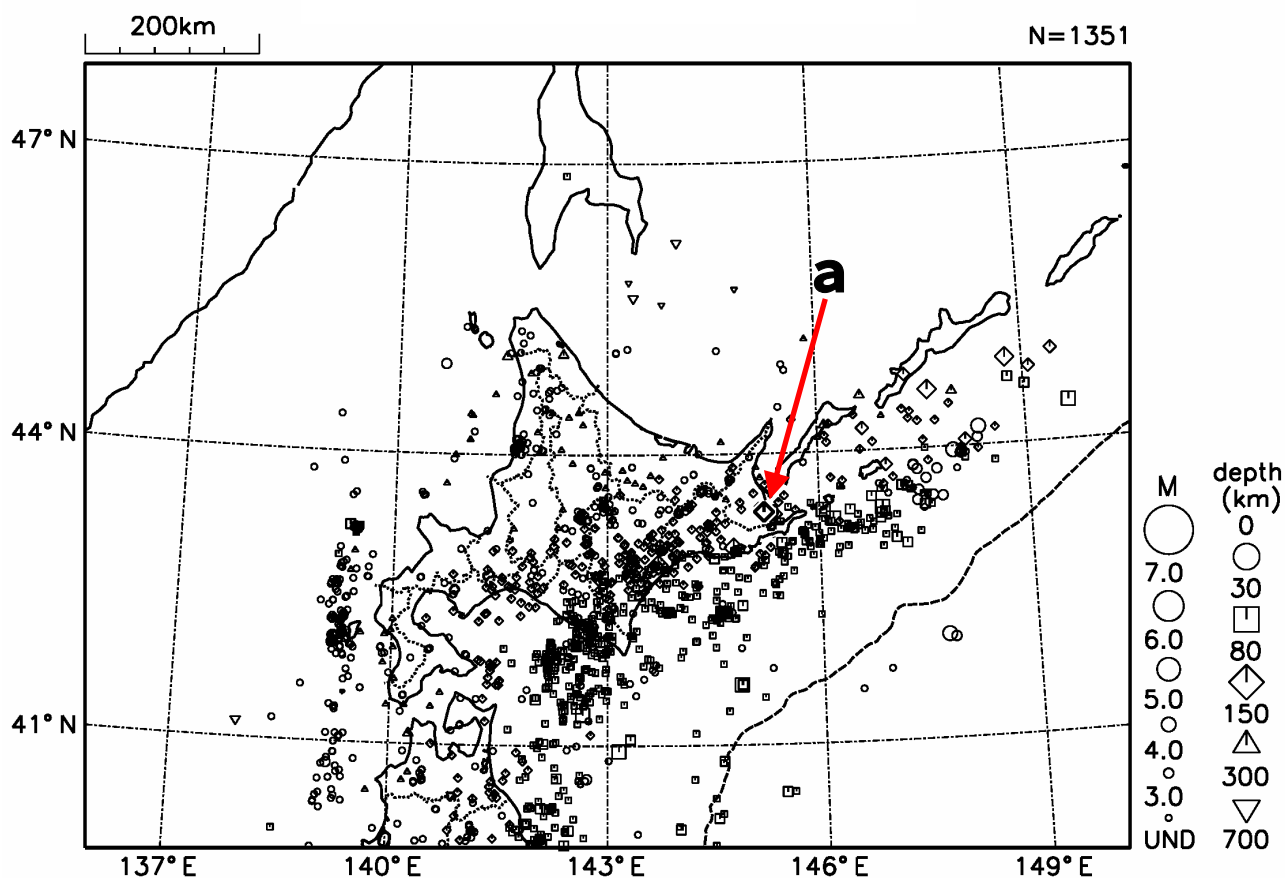


図3 北海道地方の震央分布図（2006年1月1日～1月31日）

[概況]

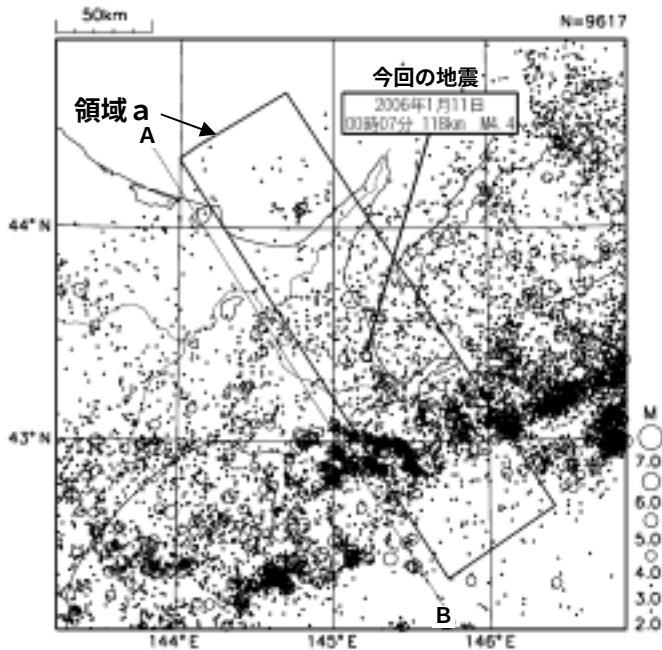
1月に北海道地方で震度1以上を観測した地震は10回（12月は9回）であった。
1月中の主な活動は次のとおりである。

1月11日00時07分、根室支庁中部の深さ118mでM4.4の地震（図3中のa）が発生し、北海道の別海町で震度3を観測したほか、北海道で震度1を観測した（p5を参照）。

1 月 11 日 根室支庁中部の地震

震央分布図

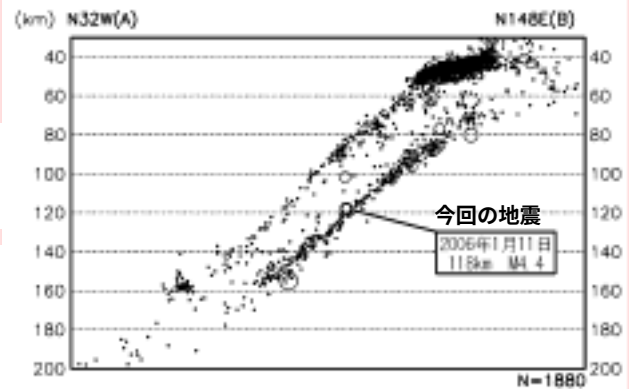
(1997 年 10 月 1 日以降、深さ 30~200km、 $M \geq 2.0$)



2006 年 1 月 11 日 00 時 07 分、根室支庁中部の深さ 118km で M4.4 (最大震度 3) の地震が発生した。この地震は太平洋プレートの沈み込みに伴う地震で、二重地震面の下面で発生した地震である。

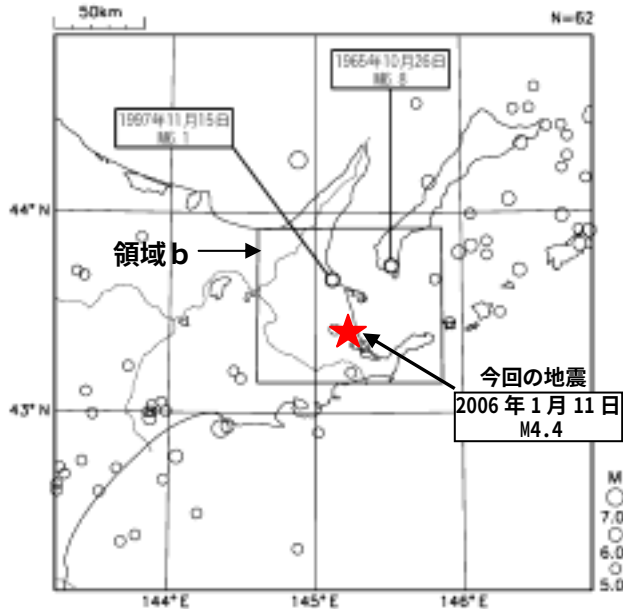
また、今回の地震の周辺 (領域 b 内) では、1965 年 10 月 26 日に M6.8 (最大震度 4)、1997 年 11 月 15 日に M6.1 (最大震度 4) の地震が発生している。

領域 a 内の断面図 (A-B 投影)

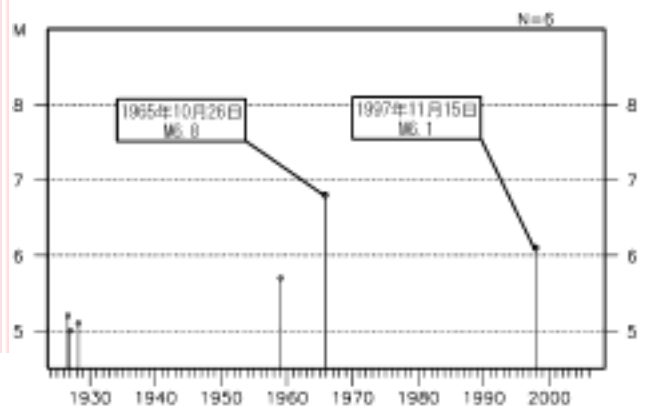


震央分布図

(1923 年 8 月 1 日以降、深さ 100~200km、 $M \geq 5.0$)



領域 b 内の M-T 図



○東北地方の地震活動

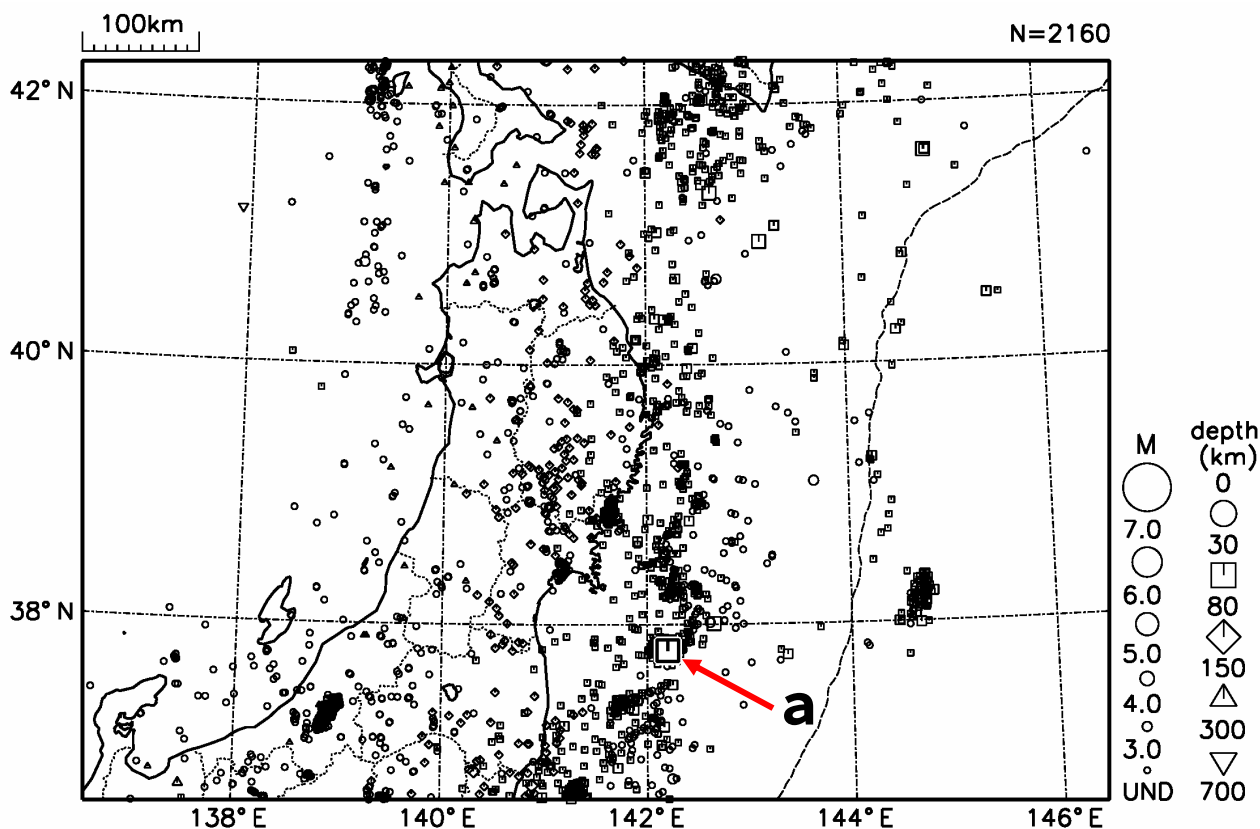


図 4 東北地方の震央分布図（2006 年 1 月 1 日～1 月 31 日）

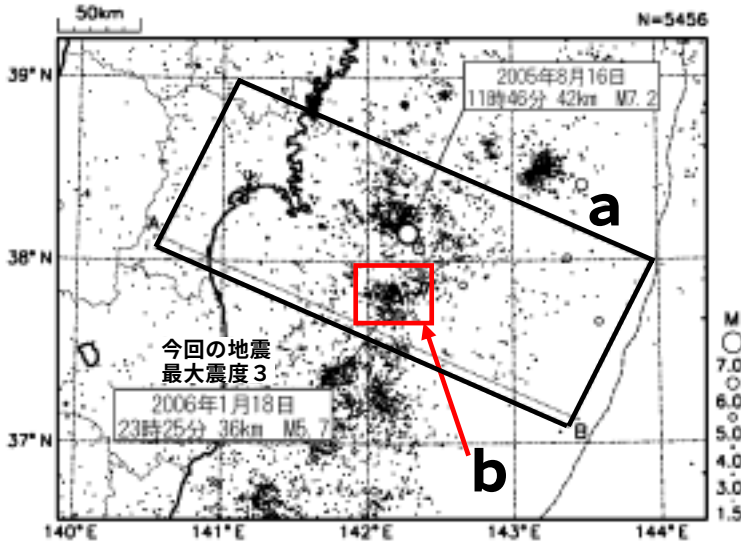
〔概況〕

1 月に東北地方で震度 1 以上を観測した地震は 22 回（12 月は 24 回）であった。
1 月中の主な地震は次の通りである。

18 日 23 時 25 分、福島県沖の深さ 36km で M5.7 の地震（図 4 中の a）があり、岩手・宮城・福島県の 40 地点で震度 3 を観測したほか、東北地方から中部地方の一部にかけて震度 2 ～ 1 を観測した（p 7 参照）。

1 月 18 日 福島県沖の地震

震央分布図
(2005 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 31 日
深さ 0 km～150km M $\geq$ 1.5)



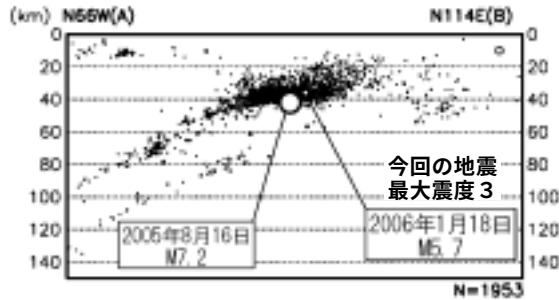
1 月 18 日 23 時 25 分に福島県沖の深さ 36km で M5.7 の地震 (最大震度 3) が発生した。

この地震の発震機構は、太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

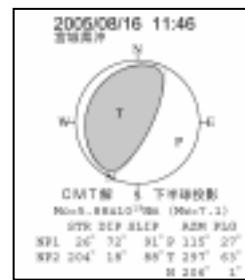
この地震は、2005 年 8 月 16 日の宮城県沖の地震 (M7.2) の余震域から南側に離れた場所で発生している。余震活動は一時活発化したが、順調に減衰している。

この付近では、これまでも M5.0 以上の地震は度々発生している。また、北側と南側では、M7.0 以上の地震の発生も見られる。

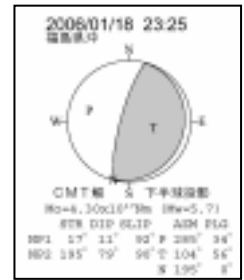
a 領域の A-B 投影断面図



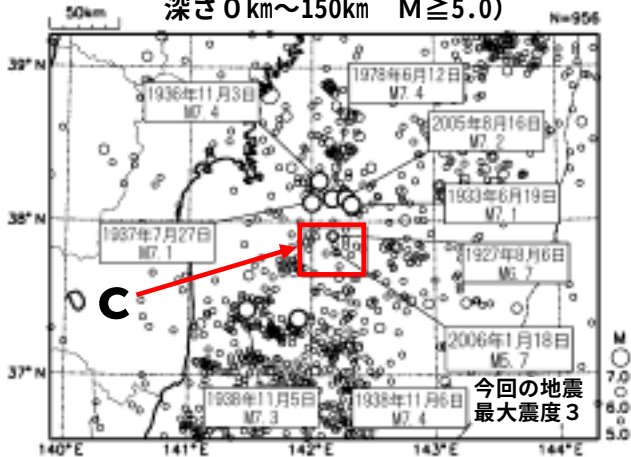
8 月 16 日の地震の発震機構 CMT 解



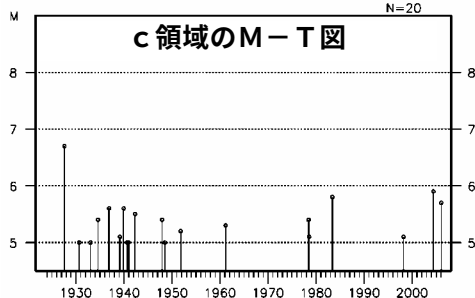
今回の地震の発震機構 CMT 解



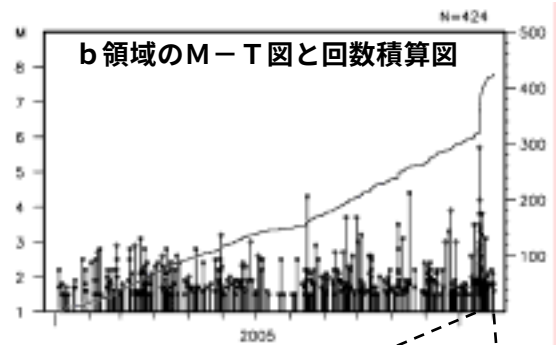
震央分布図
(1923 年 8 月 1 日～2006 年 1 月 31 日
深さ 0 km～150km M $\geq$ 5.0)



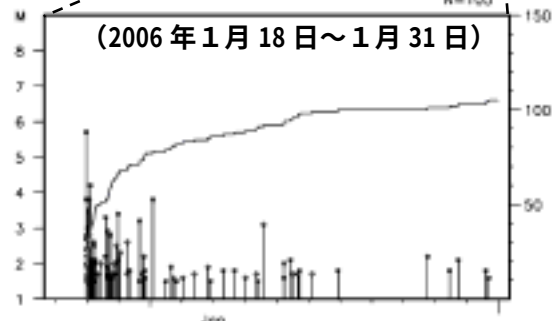
c 領域の M-T 図



b 領域の M-T 図と回数積算図



(2006 年 1 月 18 日～1 月 31 日)



○関東・中部地方の地震活動

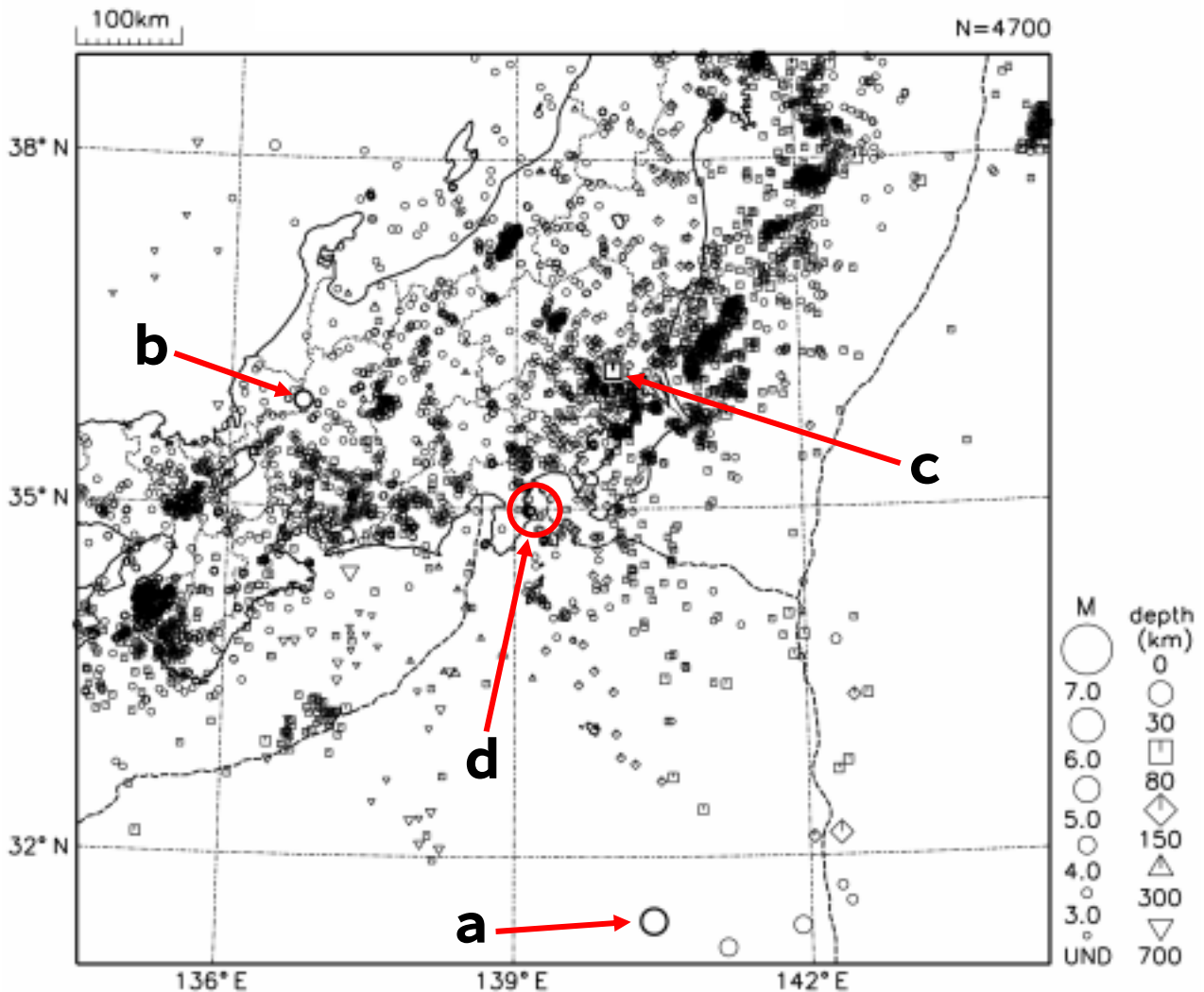


図5 関東・中部地方の震央分布図（2006年1月1日～1月31日）

【概況】

1 月に関東・中部地方で震度 1 以上を観測した地震は 24 回（12 月は 41 回）であった。
1 月中の主な活動は次の通りである。

1 日 16 時 11 分、鳥島近海で M5.9 の地震（図 5 中の a）があり、伊豆諸島などで微弱な津波を観測した（p 9～10 参照）。

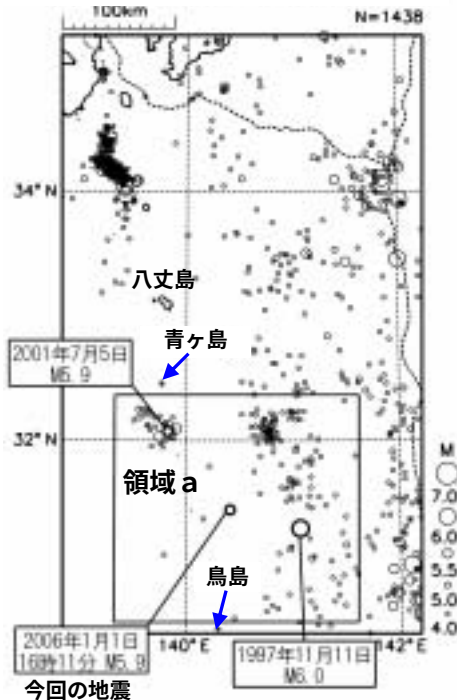
1 日 22 時 56 分、福井県嶺北地方で M4.1 の地震（図 5 中の b）があり、福井県大野市と岐阜県郡上市で震度 3 を観測したほか、福井県、岐阜県、富山県、石川県、滋賀県で震度 2～1 を観測した（p11 参照）。

14 日 15 時 30 分、茨城県南部で M4.3 の地震（図 5 中の c）があり、栃木県二宮町で震度 4 を観測したほか、関東地方を中心として福島県から静岡県にかけて震度 3～1 を観測した（p12 参照）。

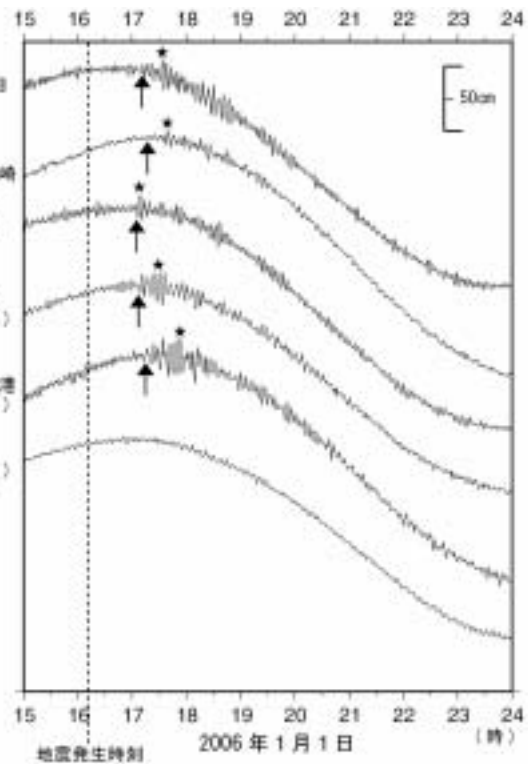
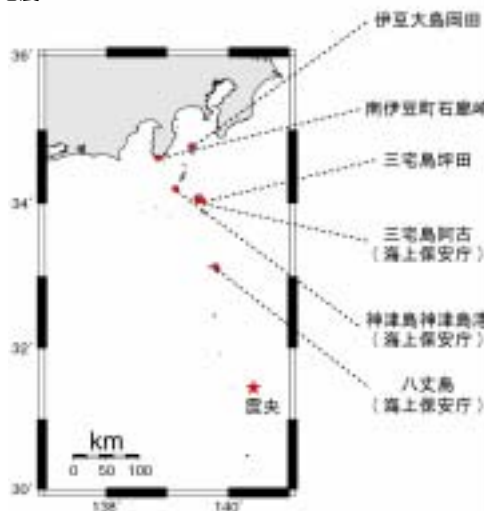
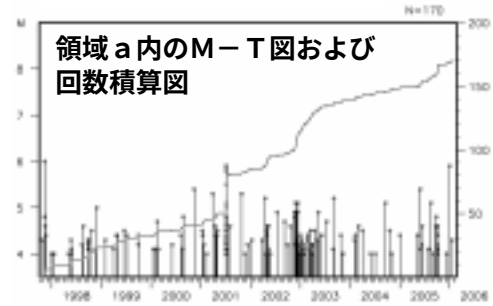
25 日から 31 日にかけて、伊豆半島東方沖で小規模な地震活動（図 5 中の d）があり、東伊豆の体積歪計で縮み変化（ 5×10^{-8} 程度）を観測した（p13 参照）。

1月1日 鳥島近海の地震

震央分布図
(1997 年 10 月 1 日～2005 年 1 月 31 日
深さ 0～100km、 $M \geq 4.0$)



2006 年 1 月 1 日 16 時 11 分に鳥島近海で M5.9 の地震が発生し、伊豆諸島などで微弱な津波を観測した。余震は観測されていない。今回の地震が発生した海域では、1984 年 6 月 13 日 (M5.9) と 1996 年 9 月 5 日 (M6.2) の地震においても、同様に M6.0 程度の規模にもかかわらず微弱な津波を観測している。



検潮所の位置 (左図) と検潮所で観測した津波の波形 (右図)

神津島神津島、三宅島阿古、八丈島観測点は海上保安庁所属である。右図において、点線、矢印、★印は、それぞれ本震の発生時刻、第一波の到着時刻、最大の高さの発現時刻を示す。

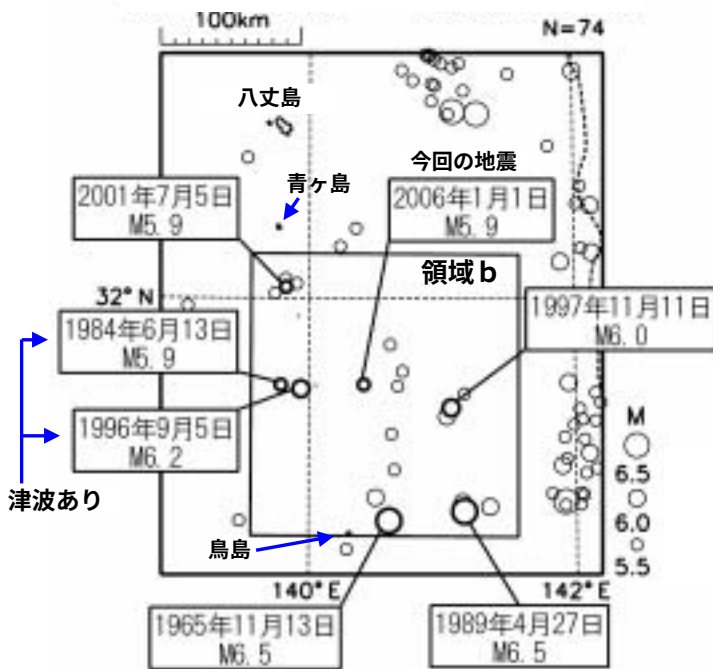
今回の地震に伴って観測した津波の観測値

今回の地震によって、観測された主な検潮儀における津波の観測値を示している。走時は、地震発生時刻から第一波到達時刻までの時間を示す。表中の値は暫定値であり、後日変更される場合がある。

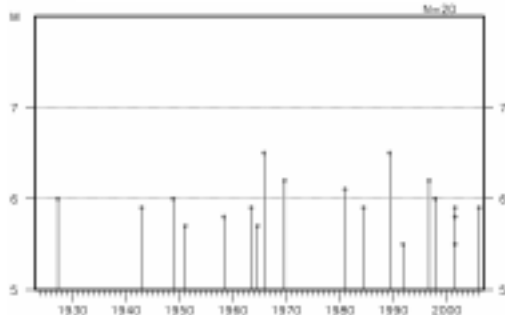
都道府県名	観測点名称	第一波			最大の高さ	
		到達時刻	走時 (分)	高さ (cm)	発現時刻	高さ (cm)
東京都	伊豆大島岡田	17時11分	60	6	17時33分	15
東京都	神津島神津島港	17時15分	64	5	17時53分	17
東京都	三宅島阿古	17時07分	56	13	17時29分	17
東京都	三宅島坪田	17時05分	54	15	17時08分	15
静岡県	南伊豆町石廊崎	17時17分	66	4	17時39分	8

1月1日 鳥島近海の地震（2）

震央分布図
(1923 年 8 月 1 日～2006 年 1 月 31 日
深さ 0～100km、 $M \geq 5.5$)



領域 b 内の M-T 図

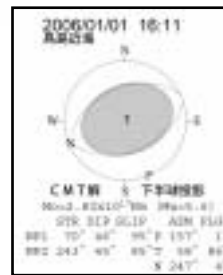


1923 年 8 月以降、今回の地震の震央付近では $M 6.0$ 前後の地震が時々発生しているが、今回の地震のように微弱な津波を伴った例が他に 2 例あり (1984 年 6 月 13 日 ($M 5.9$)、1996 年 9 月 5 日 ($M 6.2$))、いずれも今回の地震の近傍で発生している。

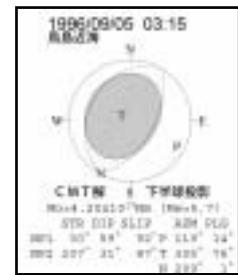
今回と 1996 年の地震の発震機構 (CMT 解) は比較的よく似ている。1984 年の地震も今回と同様なタイプの地震と考えられており、マグマの貫入を原因とする海底隆起によるものと推定されている (Kanamori *et al.*, 1993)。

参考文献

Kanamori, H., G. Ekström, A. Dziewonski, J. S. Barker, and S. A. Sipkin, 1993, *J. Geophys. Res.*, **98**, 6511-6522.



今回の地震の
発震機構
(CMT 解)



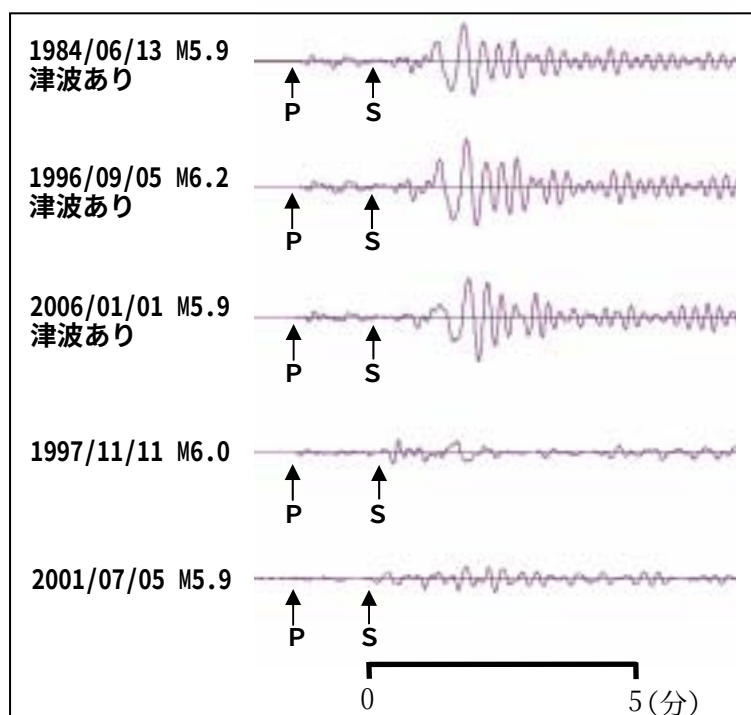
1996 年の地震の
発震機構
(CMT 解)

精密地震観測室（長野市松代）での 地震波形記録の比較（上下動成分）

P・S の矢印は、理論走時から推定される P 波、S 波の出現時刻を示す。

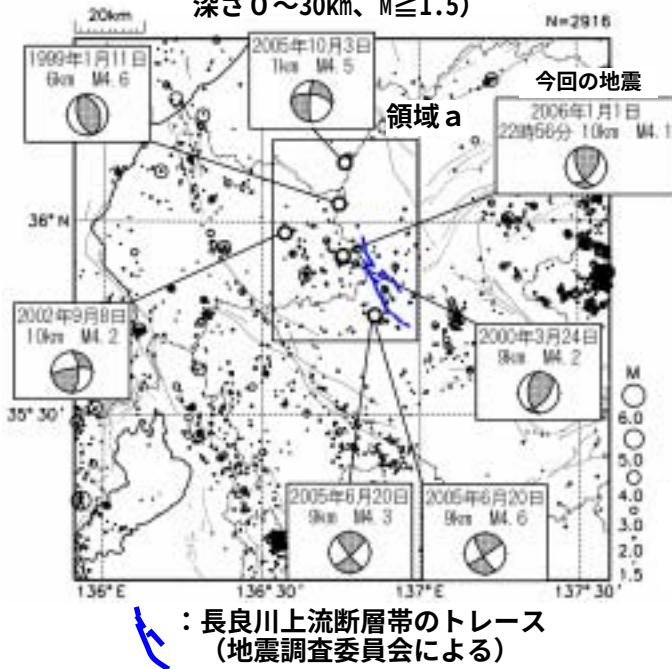
津波を伴った 1984 年 6 月 13 日の $M 5.9$ の地震、1996 年 9 月 5 日の $M 6.2$ の地震の波形と今回の地震の波形はよく似ている。

しかし、周辺で発生した同規模かつ津波を伴わなかった地震 (1997 年 11 月 11 日の $M 6.0$ の地震と 2001 年 7 月 5 日の $M 5.9$ の地震) の波形は、今回の地震の波形と似ていない。



1 月 1 日 福井県嶺北地方の地震

震央分布図
(1997 年 10 月 1 日～2006 年 1 月 31 日
深さ 0～30km、 $M \geq 1.5$)



発震機構分布図（P 軸表示）
(1990 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 31 日
深さ 0～30km、 $M \geq 4.0$)



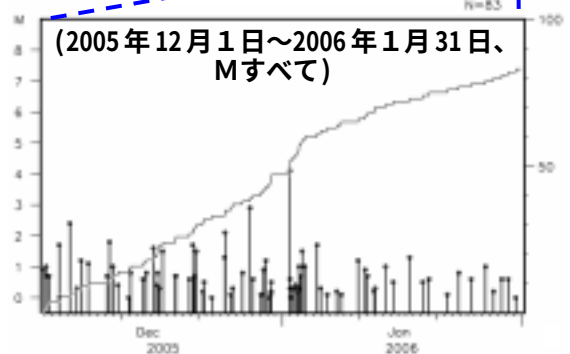
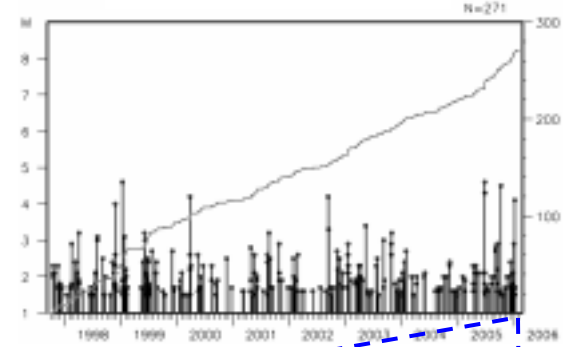
震央分布図
(1923 年 8 月 1 日～2006 年 1 月 31 日
深さ 0～60km、 $M \geq 4.5$)



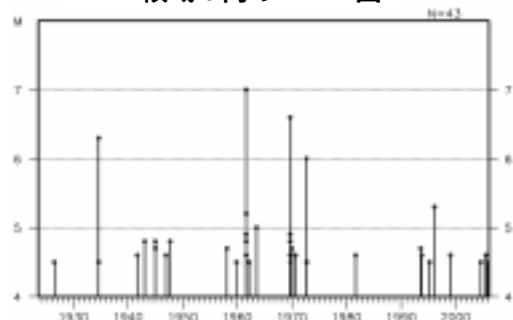
2006 年 1 月 1 日 22 時 56 分に福井県嶺北地方の深さ 10km で $M 4.1$ （最大震度 3）の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、圧力軸の方向はこの付近の地震によく見られる。余震は 3 日にはほぼ収まった。今回の地震の震源付近では 2000 年 3 月 24 日に $M 4.2$ の地震（深さ 9km、最大震度 3）が発生している。なお、今回の地震の震源の東側には長良川上流断層帯がある。

1923 年以降、今回の地震の震央付近（領域 b）では 1972 年 8 月 31 日に $M 6.0$ が発生するなど $M 6.0$ 以上の地震が 4 回発生している。最大は 1961 年 8 月 19 日に発生した $M 7.0$ の地震（北美濃地震）である。

領域 a 内の M-T 図および回数積算図



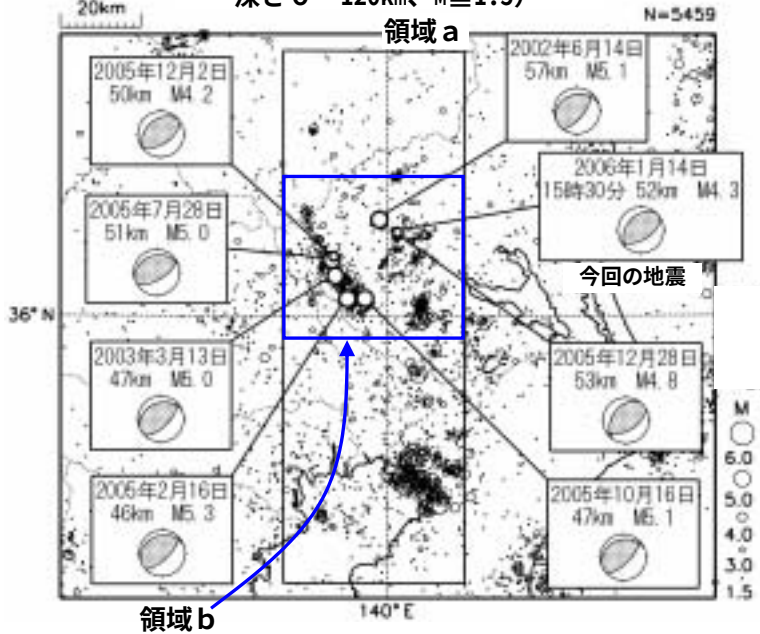
領域 b 内の M-T 図



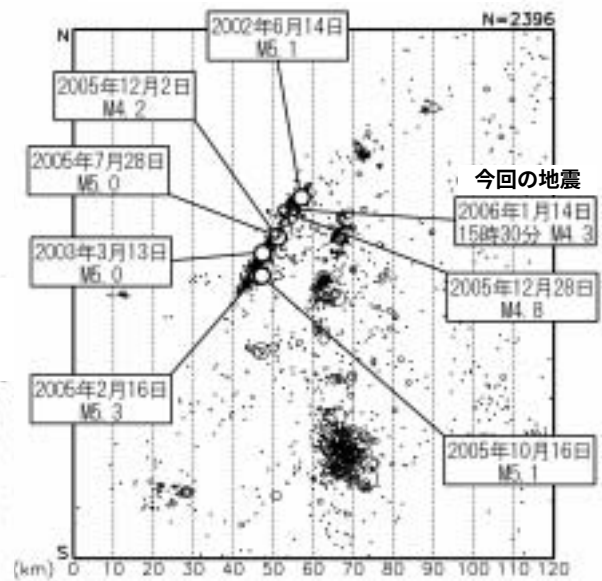
1 月 14 日 茨城県南部の地震

震央分布図

(2002 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 31 日
深さ 0～120km、 $M \geq 1.5$)



領域 a 内の南北断面図



2006 年 1 月 14 日 15 時 30 分に茨城県南部の深さ 52km で $M4.3$ (最大震度 4) の地震が発生した。発震機構は北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。今回の地震の震央は、2005 年 2 月 16 日に $M5.3$ (最大震度 5 弱) の地震が発生したような活発な活動域からは東に離れているものの、付近では 2002 年 6 月 14 日に $M5.1$ (最大震度 4)、2005 年 12 月 28 日に $M4.8$ (最大震度 4) の地震が発生するなど、 $M4$ を超える地震が時々発生している。

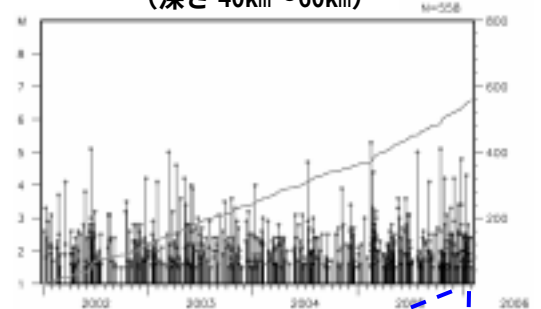
1923 年 8 月以降、今回の地震の震央付近では $M6.0$ 以上の地震が 4 回観測されているが、1985 年 10 月 4 日の $M6.0$ (最大震度 5) の地震以降、 $M6.0$ 以上の地震は発生していない。

震央分布図

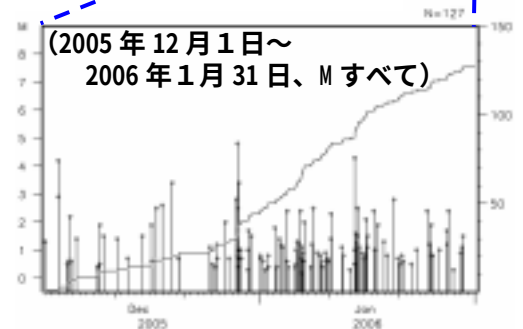
(1923 年 8 月 1 日～2006 年 1 月 31 日
深さ 0～100km、 $M \geq 5.0$)



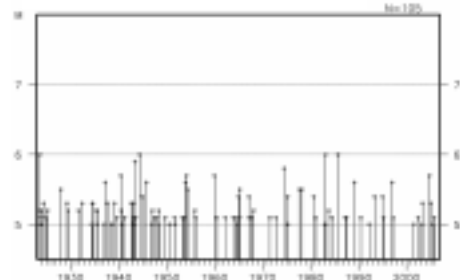
領域 b 内の M-T 図および回数積算図 (深さ 40km～60km)



(2005 年 12 月 1 日～
2006 年 1 月 31 日、 M すべて)



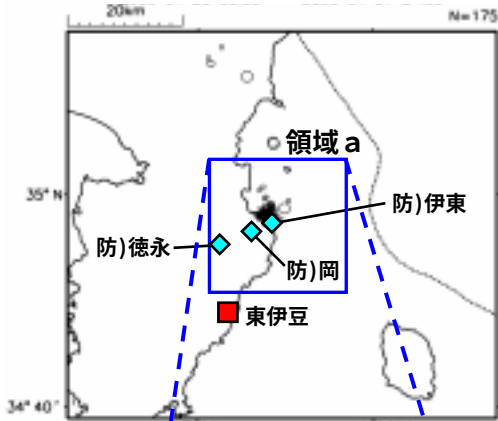
領域 c 内の地震活動経過図



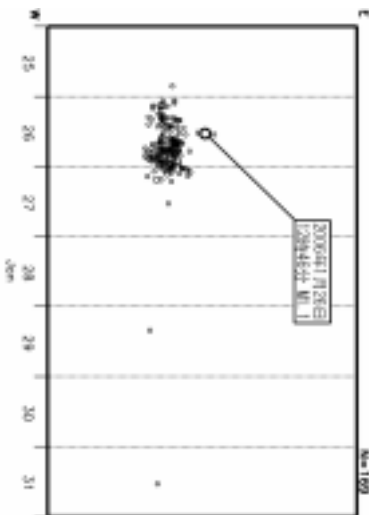
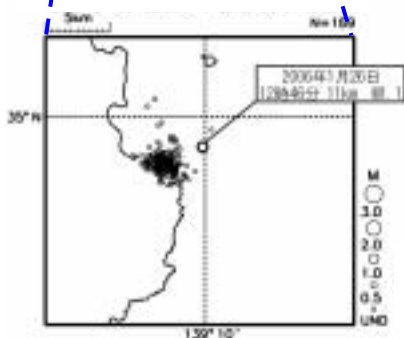
伊豆半島東方沖の地震活動

2006 年 1 月 25 日から伊豆半島東方沖で小規模な地震活動が始まり、東伊豆の気象庁体積歪計で 5×10^{-8} 程度の縮み変化を観測した。この活動は 31 日に収まった^{注)}。震度 1 以上を観測した地震はなく、最大の地震は 26 日 12 時 46 分の M1.1 の地震であった。本地域でのまとまった活動は、2004 年 4 月 24 日から 5 月 2 日の活動（M2.0 の地震が最大）以来である。

震央分布図
(2006 年 1 月 25 日～31 日、深さ 0～20km、M すべて)

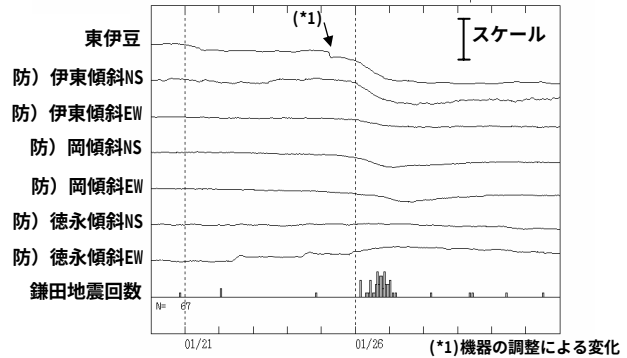


■：体積歪計
◆：傾斜計

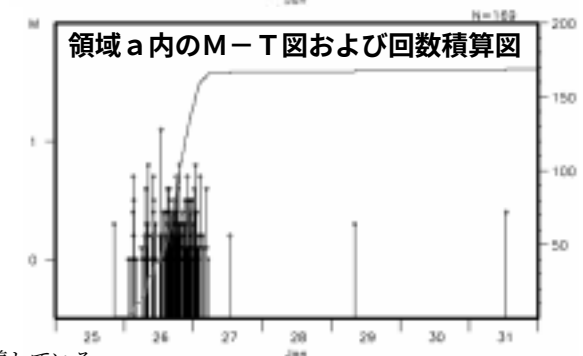
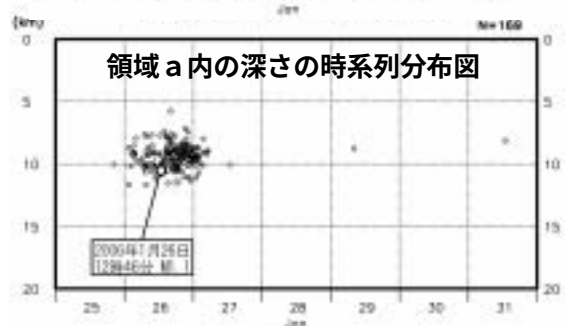
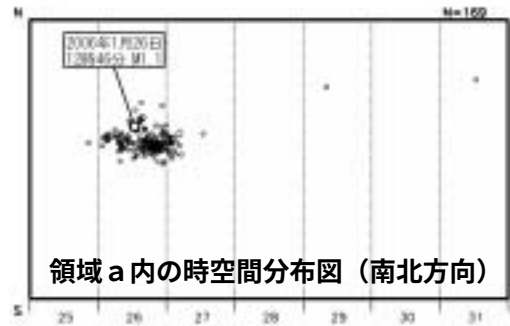


領域 a 内の時空間分布図（東西方向）

歪計および傾斜計の変化と鎌田観測点で観測した地震回数 (2006 年 1 月 20 日～31 日)



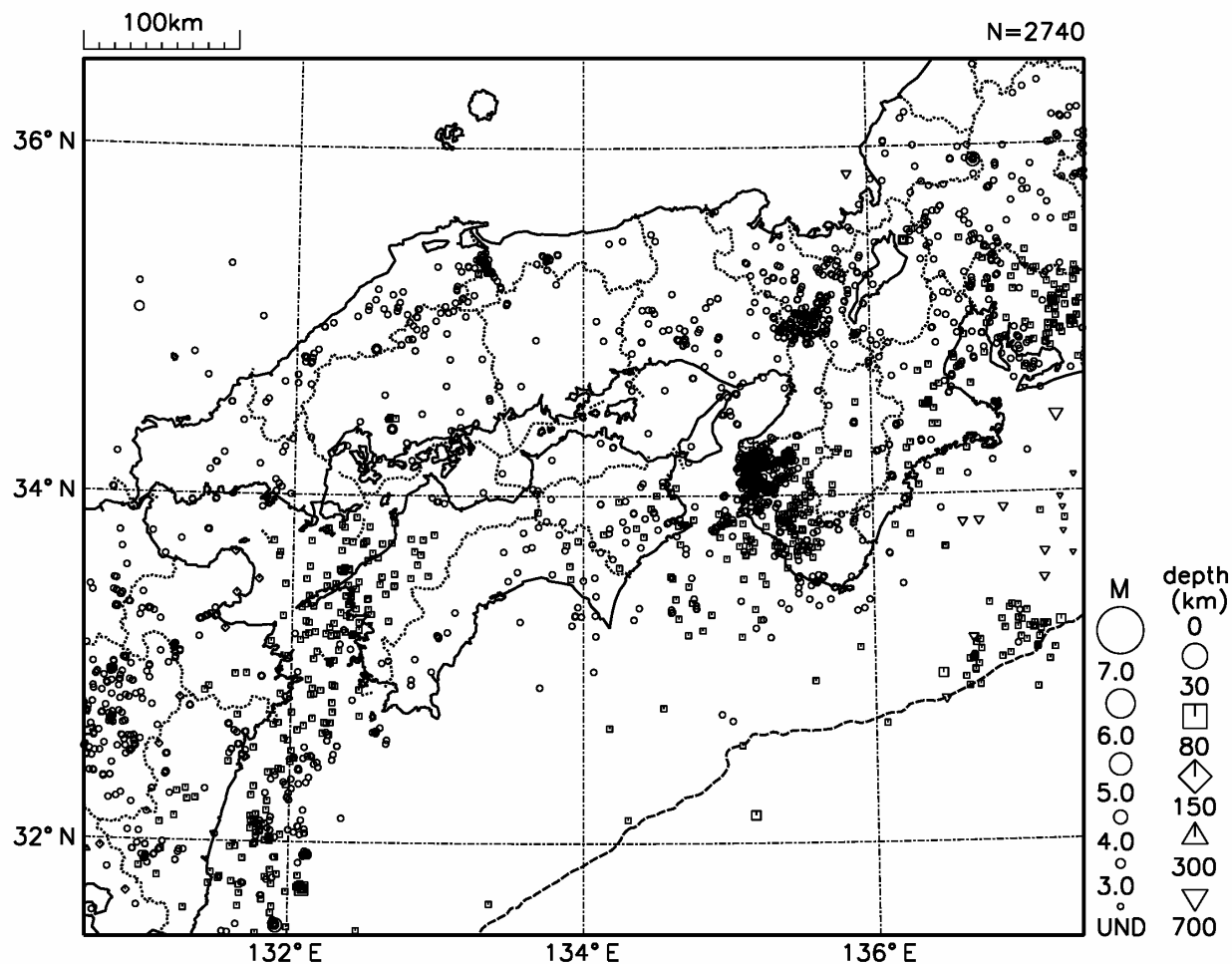
縦軸のスケールは、 10^{-7} (歪)、 10^{-6} (傾斜)、10回/時間 (地震回数) を示す。観測点名に「防」のついている観測点は防災科学技術研究所の傾斜計を示す。



注) 伊豆半島東方沖群発地震の開始日と終了日は、以下のように定義している。

- ・**開始日**：前回の活動の終了日以降で、①連続する 24 時間の鎌田観測点で観測した地震回数積算が最初に 25 回以上となった、最後の 1 時間が属する日の前日。ただし、その 24 時間のうちで、時間別地震回数が最初に 1 回以上となった 1 時間が属する日の方が遅い場合は、最初の 1 回以上の時間が属する日とする。②連続する 48 時間の鎌田観測点で観測した地震回数積算が最初に 25 回以上となった、最後の 1 時間が属する日の前日。ただし、その 48 時間のうちで、時間別地震回数が最初に 1 回以上となった 1 時間が属する日の方が遅い場合は、最初の 1 回以上の時間が属する日とする。これら①及び②のうち、早い方の日をもって開始日とする。
- ・**終了日**：開始日以降で、最初に 5 日間連続で鎌田観測点において観測した日別地震回数が 10 回以下となった、連続した 5 日間の最終日。ただし、その 5 日間に日別地震回数が 0 回となる日があった場合は、最も早い日別地震回数 0 回の日の前日をもって終了日とする。

○ 近畿・中国・四国地方の地震活動



図○ 近畿・中国・四国地方の震央分布図（2006 年 1 月 1 日～1 月 31 日）

[概況]

1 月に近畿・中国・四国地方で震度 1 以上を観測した地震は 15 回（12 月は 20 回）であった。
1 月中、特に目立った活動はなかった。

○九州地方の地震活動

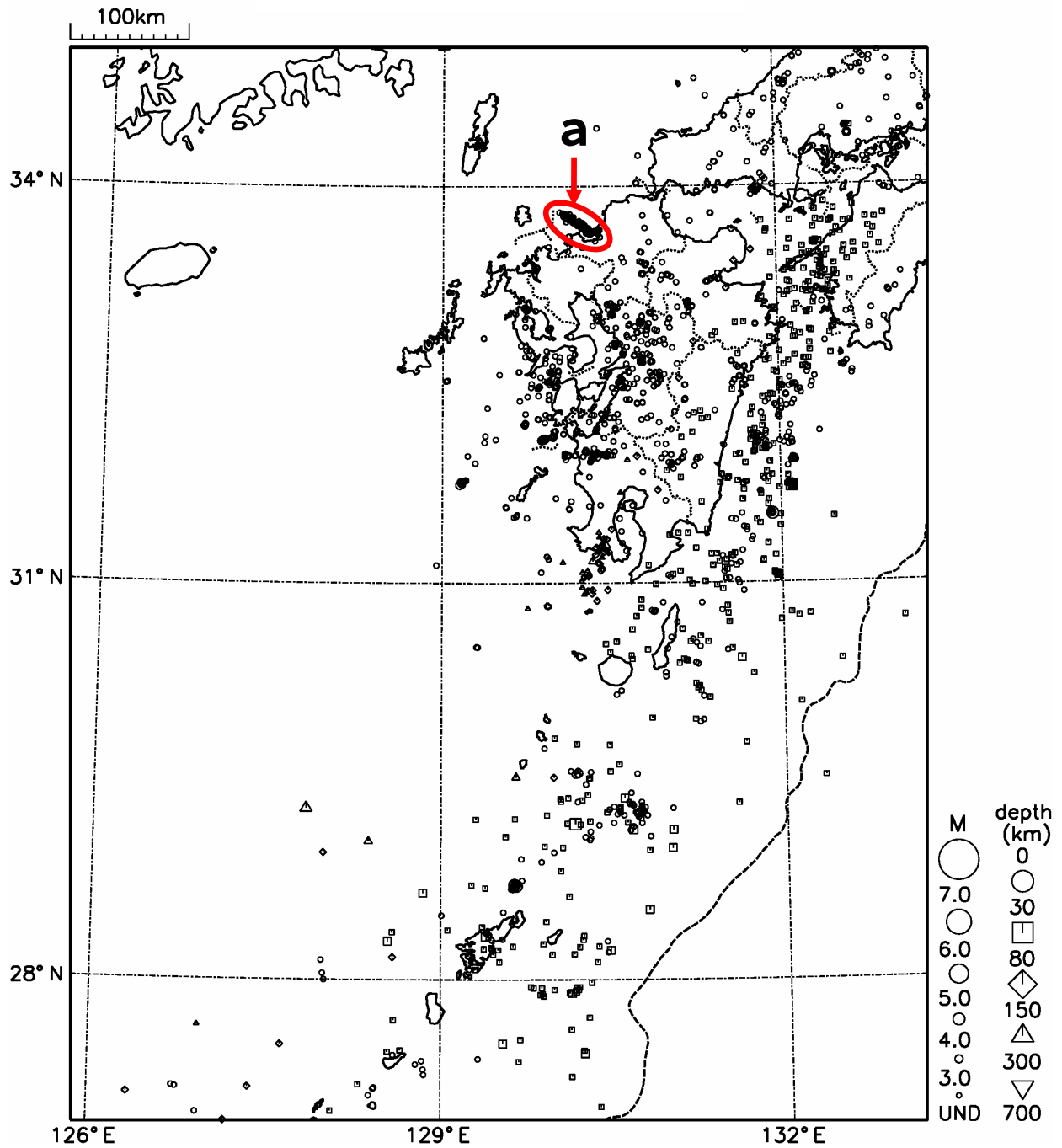


図 7 九州地方の震央分布図（2006 年 1 月 1 日～1 月 31 日）

【概況】

1 月に九州地方で震度 1 以上を観測した地震は 15 回（12 月は 25 回）であった。
1 月中の主な活動は次の通りである。

2005 年 3 月 20 日 10 時 53 分に発生した福岡県西方沖の地震（M7.0、最大震度 6 弱）の余震域内（図 7 中の a）で、31 日 00 時 19 分に M3.8 の地震（最大震度 3）が発生した。

○沖縄地方の地震活動

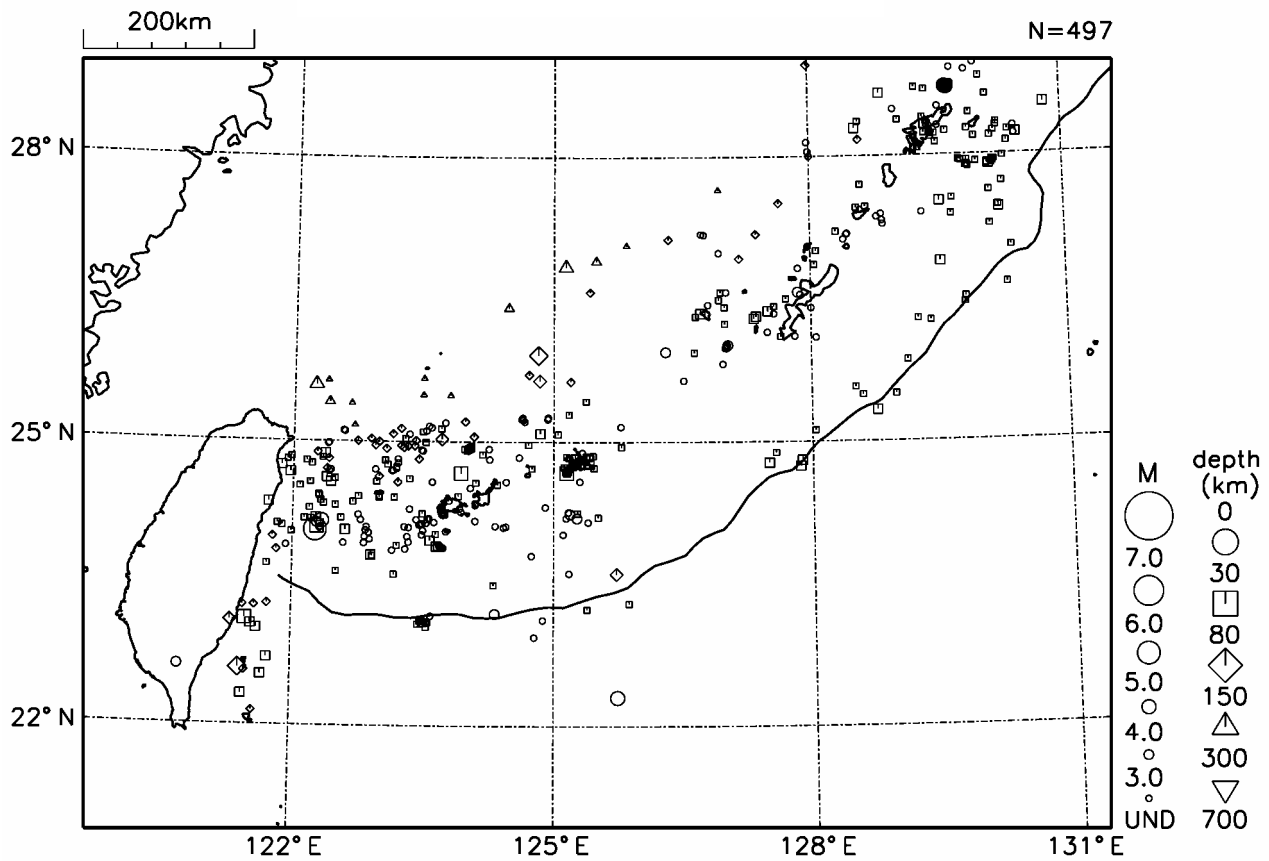


図 8 沖縄地方の震央分布図

[概況]

1 月に沖縄地方で震度 1 以上を観測した地震は 7 回（12 月は 1 回）であった。
1 月中、特に目立った活動はなかった。

●東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

【概況】

愛知県東部の深さ 41km で M3.9（最大震度 2）の地震が発生した。

1 月 16 日から 22 日にかけて、愛知県東部でプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる歪変化と低周波地震活動が観測された。

1 月 25 日から 31 日にかけて、伊豆半島東方沖でまとまった活動があった。

【地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果】

1 月 30 日に気象庁において第 237 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した（図 2～9）。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、最近は小さくなっているように見えます。

なお 1 月 16 日から 22 日にかけて、愛知県東部でプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる歪変化と低周波地震活動が観測されました。同様の現象は過去約 6 年間に 21 回確認されており、前回は昨年 7 月に観測されています。

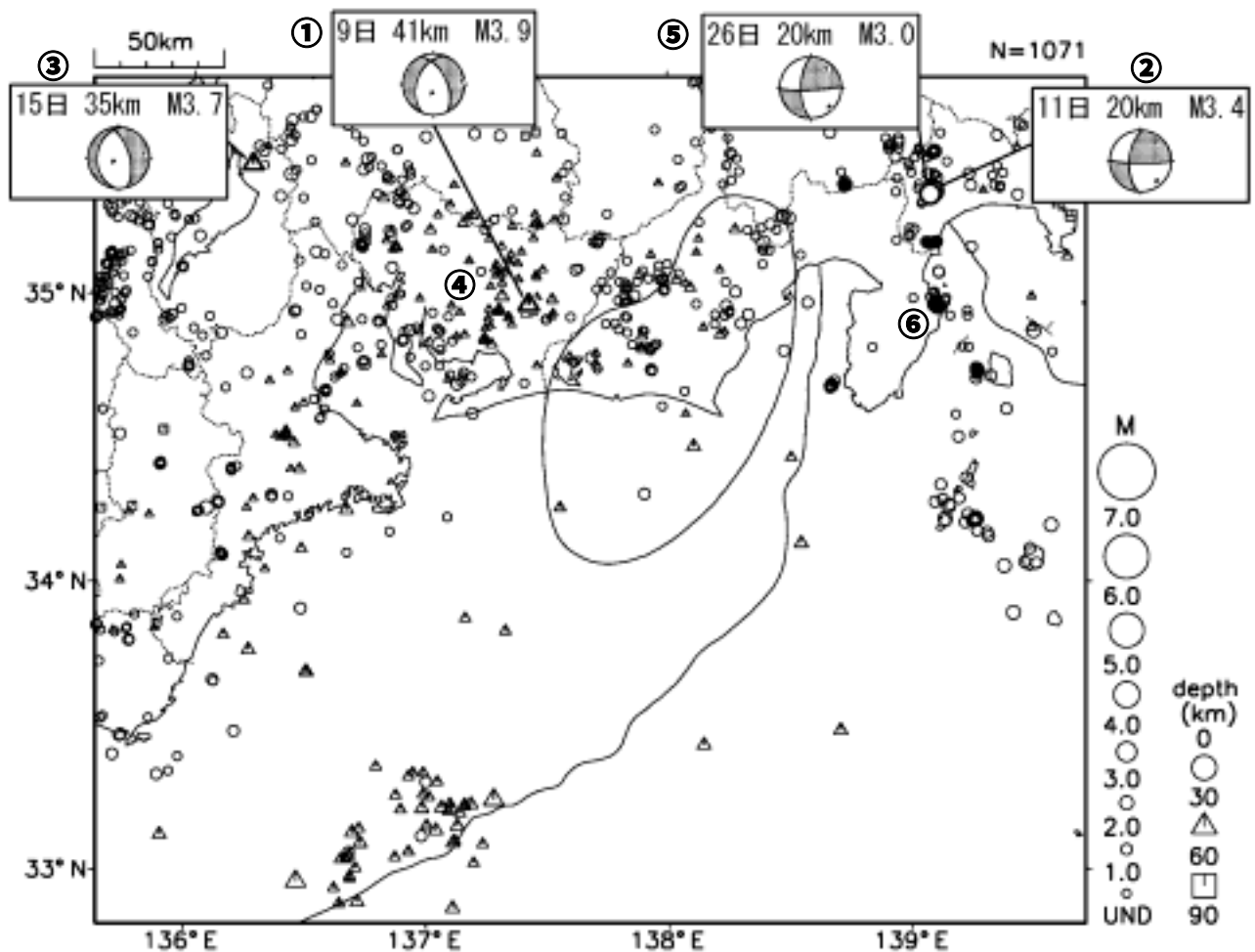


図1 震央分布図（2006 年 1 月 1 日～31 日：深さ 90km 以浅、M すべて。M3.0 以上の地震（東海道沖は M4.0 以上）に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図は P 波初動による発震機構（下半球投影）。図中のなすび型の領域は東海地震の想定震源域。）

- ① 9 日 14 時 48 分に、愛知県東部の深さ 41km でそれぞれ M3.9 の地震があり、最大震度 2 を観測した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。（p18 を参照）
- ② 11 日 09 時 14 分、神奈川県西部の深さ 20km で M3.4 の地震があり、最大震度 1 を観測した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突していると考えられる場所で発生した地震である。
- ③ 15 日 19 時 54 分、滋賀県北部の深さ 35km で M3.7 の地震があり、最大震度 2 を観測した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。（p19 を参照）
- ④ 1 月 16 日から 22 日にかけて、愛知県東部でプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる歪変化と低周波地震活動が観測された。同様の現象は過去約 6 年間に 21 回確認されており、前は昨年 7 月に観測されている。（平成 17 年 7 月地震・火山月報（防災編）を参照）
- ⑤ 26 日 20 時 33 分、神奈川県西部の深さ 20km で M3.0 の地震があり、最大震度 1 を観測した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突していると考えられる場所で発生した地震である。
- ⑥ 1 月 25 日から 31 日にかけて、伊豆半島東方沖でまとまった活動があった。（p13 を参照）

注：本文中の番号は、図 1 中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図 1) と「固着域」(図 4)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」(図 4, 5)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が 3 km 以内、発生時間差が 7 日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

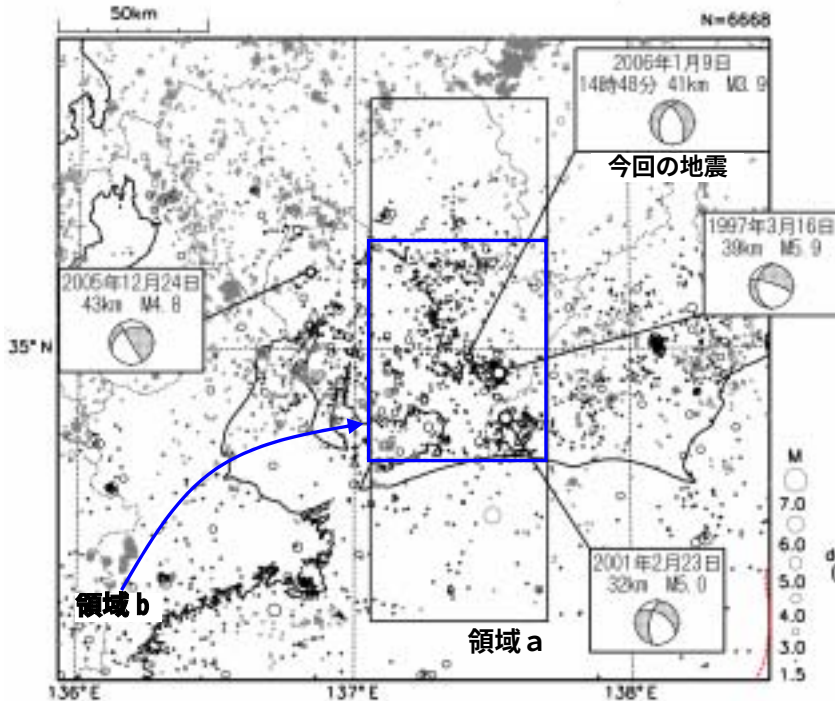
・東海地域の地震活動

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和 53 年(1978 年)12 月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域」(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成 14 年(2002 年)4 月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる 216 市町村(平成 17 年 4 月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード 8 クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度 6 弱以上(一部地域では震度 5 強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

1 月 9 日 愛知県東部の地震

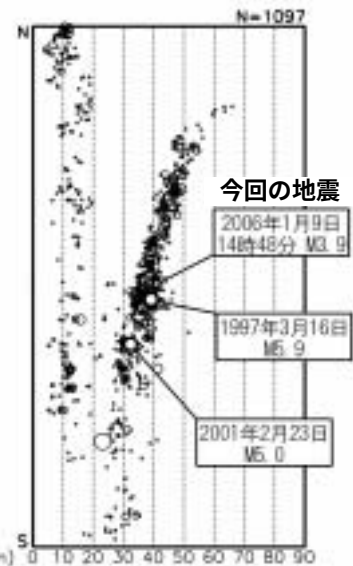
震央分布図

(1997 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 25 日、深さ 0～90km、 $M \geq 1.5$)



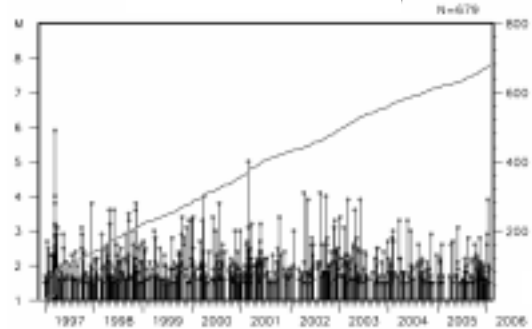
(25km 以深の地震を濃い○で表示)

領域 a 内の南北断面図



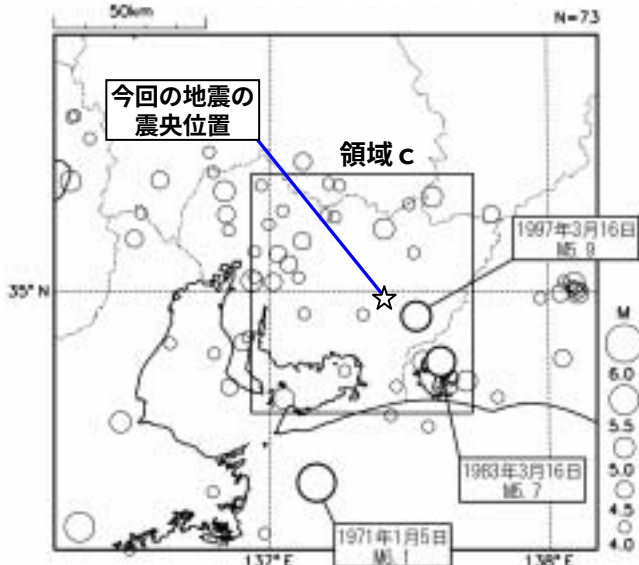
2006 年 1 月 9 日 14 時 48 分に愛知県東部で M3.9（最大震度 2）の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。今回の地震の震源付近では 1997 年 3 月 16 日に M5.9（最大震度 5 強）の地震が発生している。

領域 b 内の M-T 図、回数積算図 (深さ 25km 以深)



震央分布図

(1970 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 25 日、深さ 25～90km、 $M \geq 4.0$)



1970 年以降、今回の地震の震源付近では M5.0 以上の地震が 8 回観測されている。

領域 c 内の M-T 図

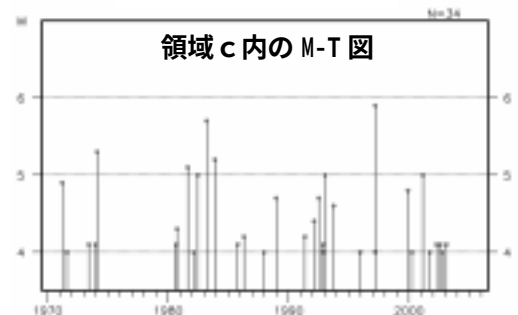
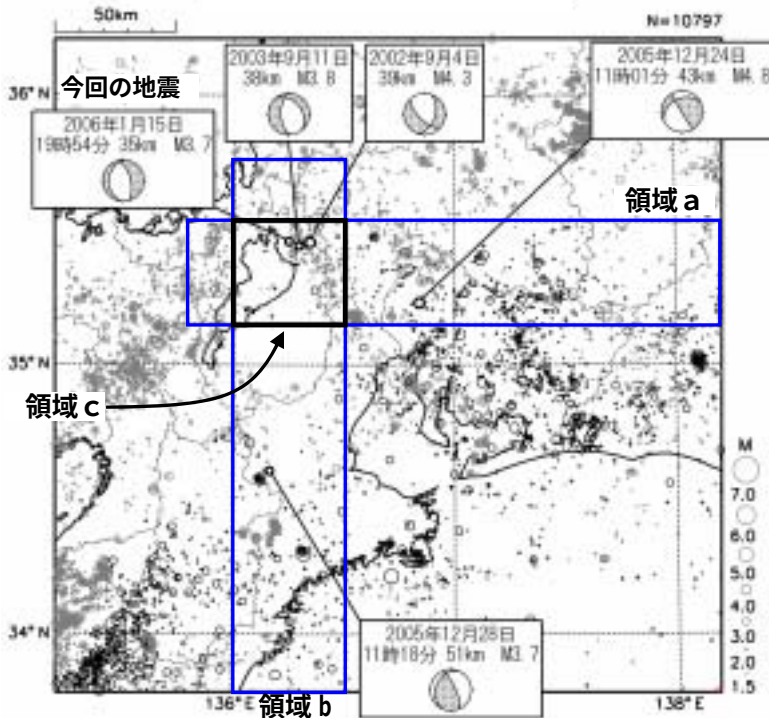


図 2 愛知県東部の地震

1 月 15 日 滋賀県北部の地震

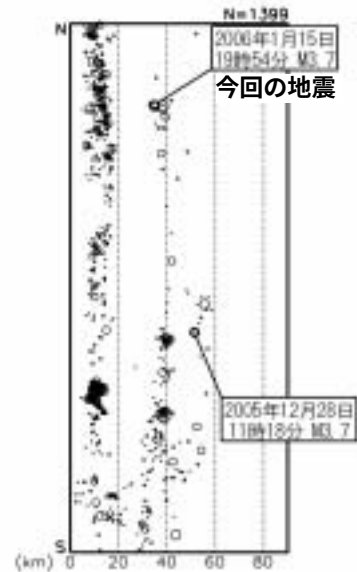
震央分布図

(1997 年 10 月 1 日～2006 年 1 月 25 日、深さ 0～90km、 $M \geq 1.5$)

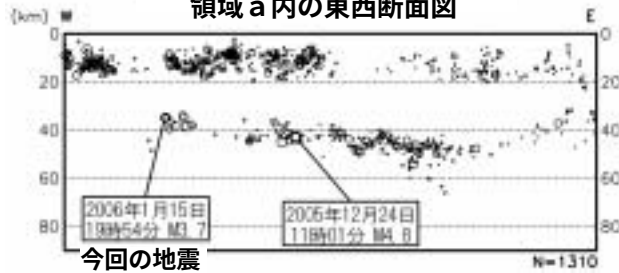


(25km 以深の地震を濃い○で表示)

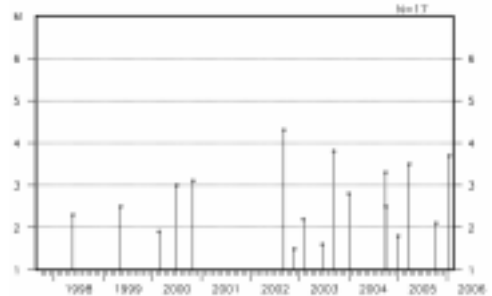
領域 b 内の南北断面図



領域 a 内の東西断面図



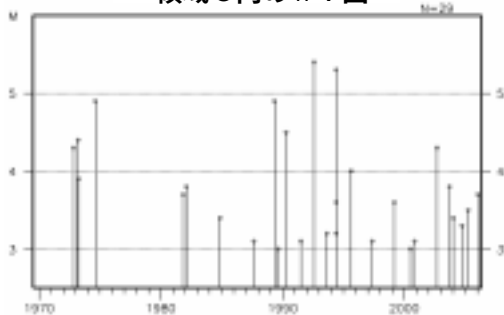
領域 b 内の M-T 図 (深さ 25km 以深)



2006 年 1 月 15 日 19 時 54 分に滋賀県北部で M3.7 (最大震度 2) の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。付近では 2002 年 9 月 4 日に M4.3 (最大震度 2) の地震が発生している。

1970 年以降、今回の地震の震源付近で最大の地震は、1992 年 7 月 30 日に発生した M5.4 (最大震度 3) の地震である。

領域 c 内の M-T 図



震央分布図

(1970 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 25 日、深さ 25～90km、 $M \geq 3.0$)

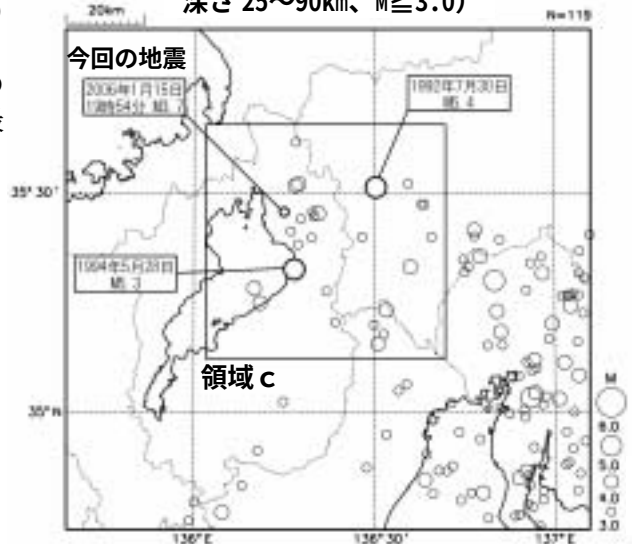


図 3 滋賀県北部の地震

東海地域の地震活動指数

（クラスタを除いた地震回数による）

2006 年 1 月 25 日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	7	4	8	4	4	2	1	5
短期地震回数 (平均)	12 (6.18)	6 (5.83)	10 (4.37)	12 (12.63)	2 (2.38)	2 (6.08)	0 (3.70)	8 (6.18)
中期活動指数	7	3	7	4	4	1	0	6
中期地震回数 (平均)	26 (18.53)	13 (17.50)	19 (13.11)	40 (37.90)	4 (4.76)	5 (12.15)	1 (7.39)	16 (12.37)

* Mしきい値：

M $\geq$ 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M $\geq$ 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。 $\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7$ 日：固着域、愛知県、浜名湖 $\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10$ 日：駿河湾

* 対象期間：

短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年—2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年—2000年（3年間）：浜名湖

1991年—2000年（10年間）：駿河湾

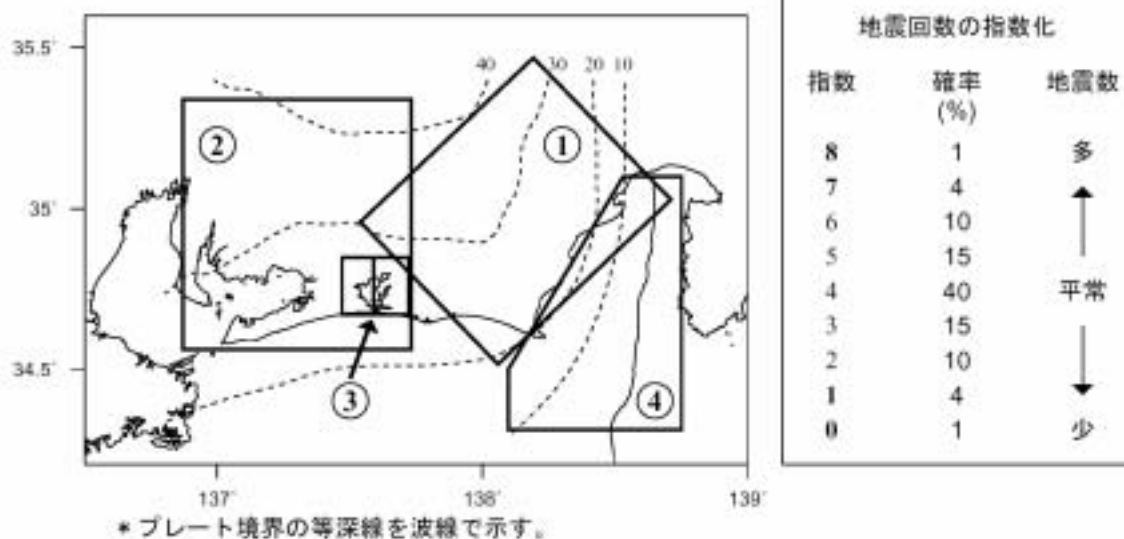
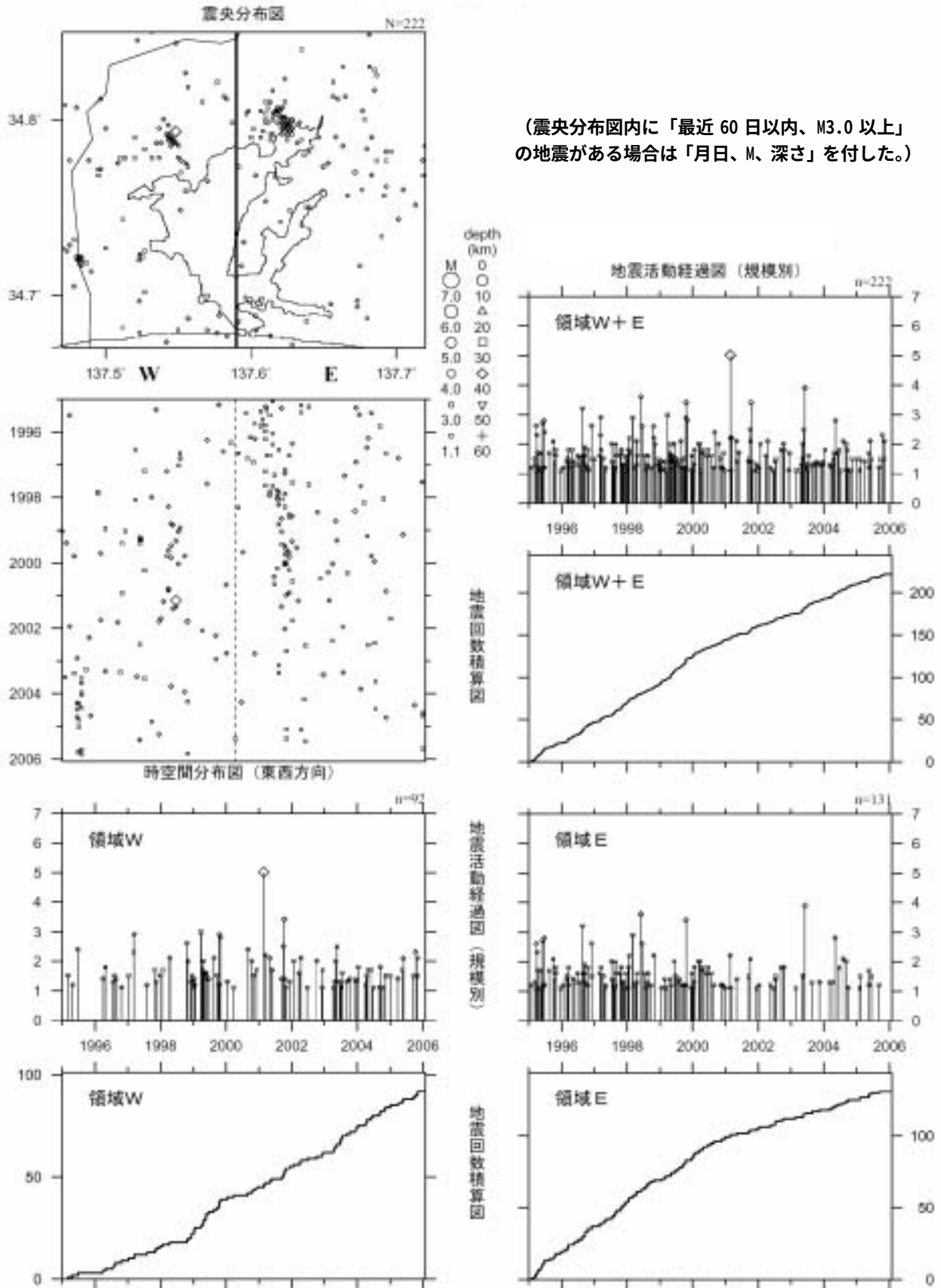


図 4 東海地域の地震活動指数

浜名湖全域および東側は、活動指数の低い状態が継続している。固着域および愛知県の地殻内は、活動指数が高くなった。それ以外の地域は平常の活動であった。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2006/ 1/ 25 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ



（震央分布図内に「最近 60 日以内、M3.0 以上」の地震がある場合は「月日、M、深さ」を付した。）

図5 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは 2000 年終わりごろからの活動の低下が継続している。領域Wでは、2003 年半ばから継続していた静岡・愛知県境付近の活動が低下している。

平均的な地殻変動からのずれ（最終解）

- 平均的な変動として、1998年1月～2000年1月までのデータから平均速度及び年周変化を推定し、時系列データから除去している。
- 2003年以降の上下成分は年周補正を行っていない。
- 2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動の影響は取り除いている。
- 2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響は取り除いている。

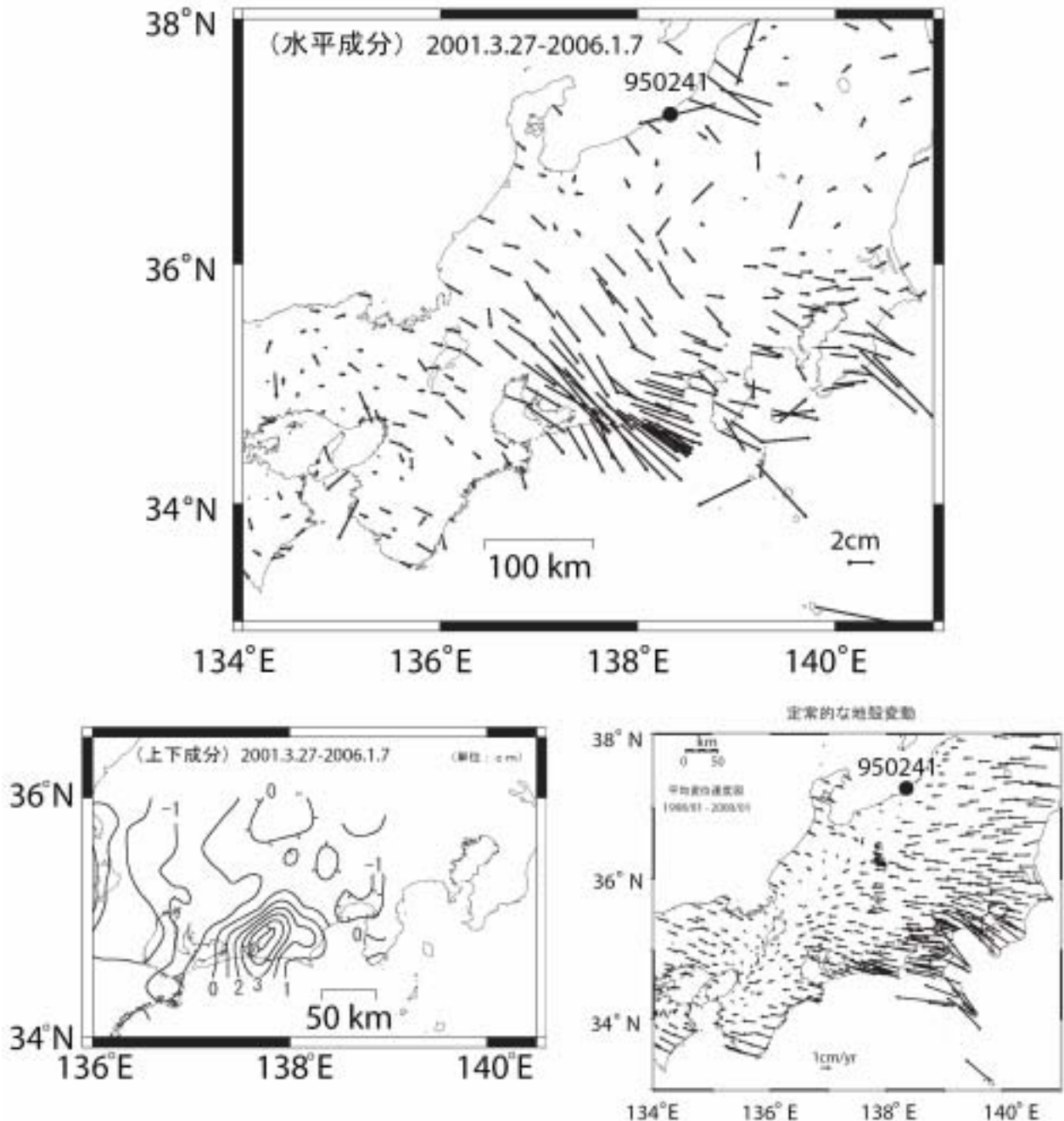


図6 国土地理院のGPS観測結果による東海地域の非定常的地殻変動

国土地理院資料

上図は、2001年3月27日～2006年1月7日までの新潟県のGPS観測点大潟（950241）に対する定常的な地殻変動からの水平方向のずれを示す。東海地方に、南東方向に変動する領域がみられる。左下図は、同じ期間の上下方向のずれを示す。浜名湖付近及びその北東域において隆起する領域がみられる。

なお、2004年3月29日よりGEONET（GPS連続観測システム）が更新されたことに伴い、新たなデータセットに基づき過去にさかのぼって計算をやり直したものを掲載している。

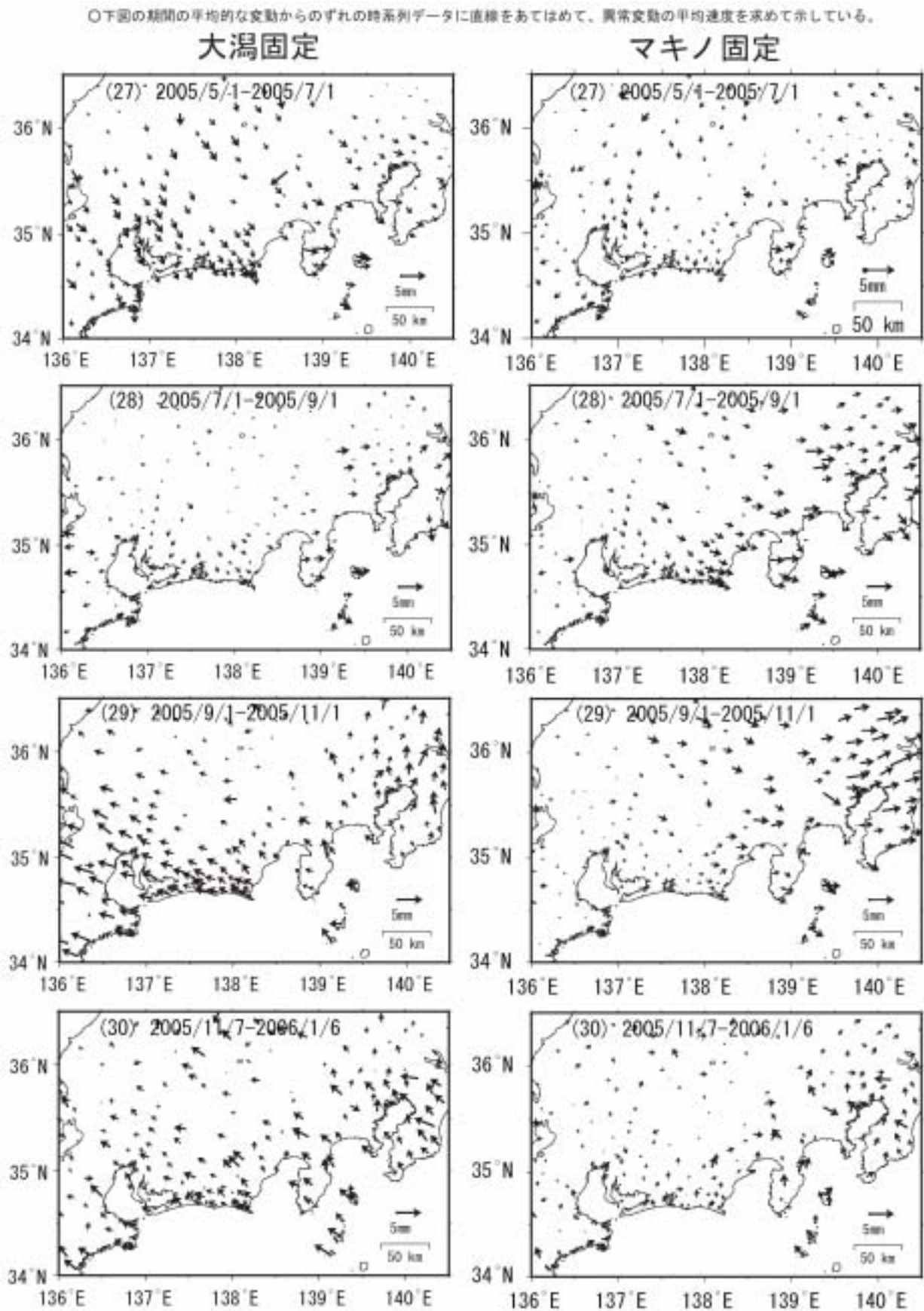
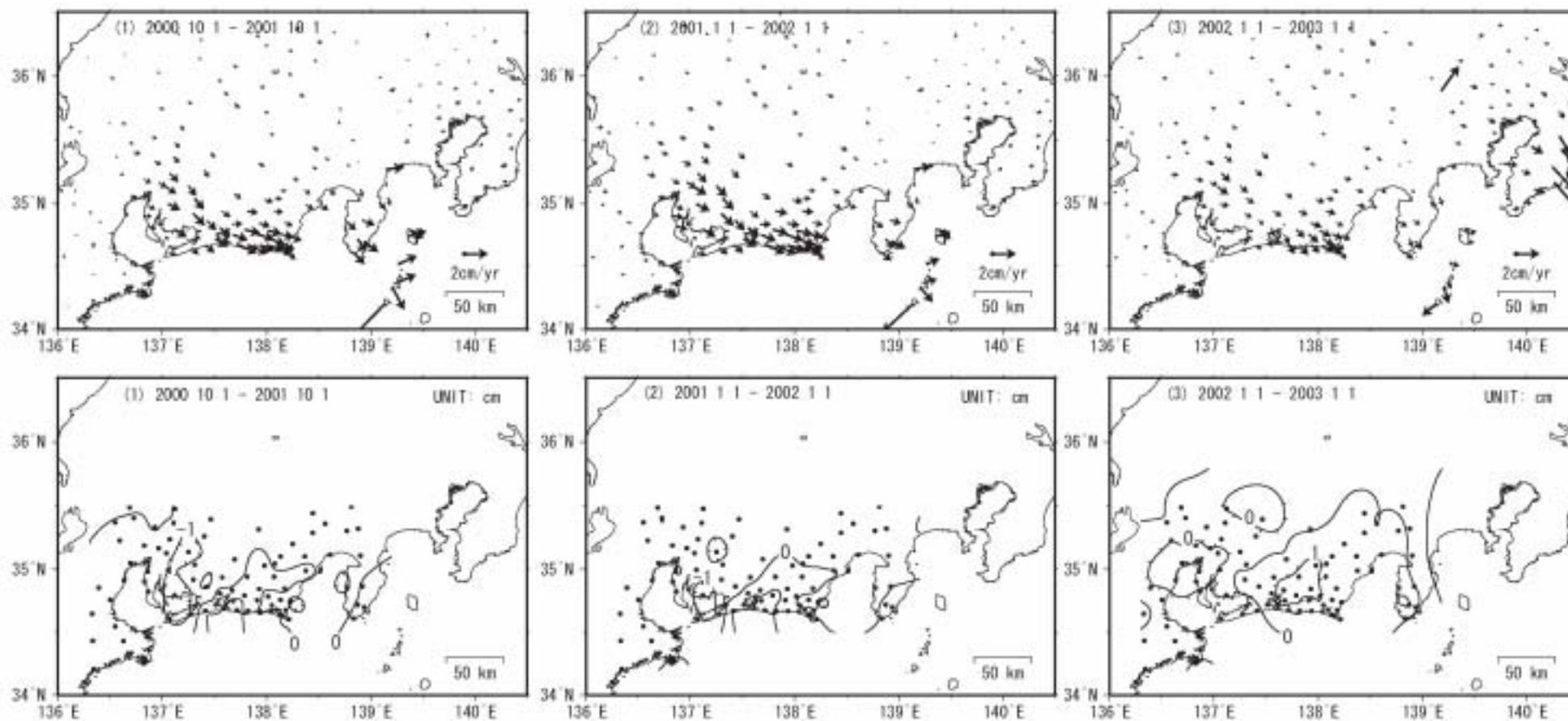


図 7 国土地理院のGPS観測結果による2ヶ月間で見た東海非定常地殻変動
(2005年5月～2006年1月6日) 大湊固定およびマキノ固定

最近(30)は、変動が小さくなっている。なお図の番号は、2001年1月からの通し番号である。

国土地理院資料

1年間で見た東海非定常地殻変動 (1) 大潟固定



国土地理院資料

図8 国土地理院のGPS観測結果による1年間で見た東海非定常地殻変動 (2000年10月～2002年) 大潟固定

上図(1)、(2)、(3)はそれぞれ2000年10月からの1年間、2001年、2002年の1年間の水平変動を表す。下図(1)、(2)、(3)はそれぞれ同じ期間の上下変動を表す。上図(2)と(3)を比較すると、浜名湖周辺で観測されているスロースリップは、2001年に比べて2002年の方が変動速度が小さいことがわかる。下図の1cm隆起領域に注目すると、非定常地殻変動の中心は2001年始めに浜名湖東にあったが、2002年始め頃に浜名湖北東に移動したように見える。

1年間で見た東海非定常地殻変動(2) 大潟固定

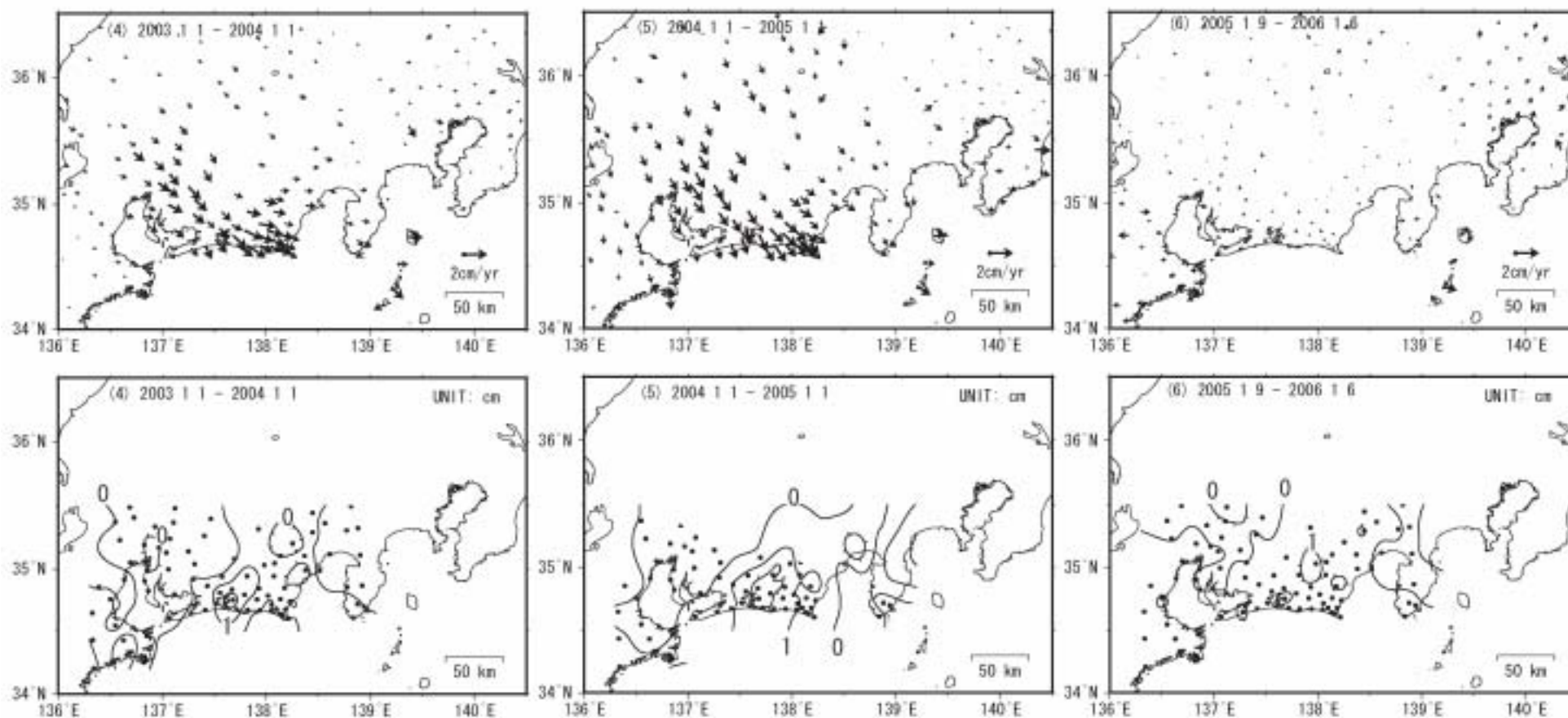


図9 国土地理院のGPS観測結果による1年間で見た東海非定常地殻変動(2003年～2006年1月6日) 大潟固定

上図(4)、(5)、(6)はそれぞれ2003年、2004年の1年間、及び2006年1月6日までの1年間の水平変動を表す。下図(4)、(5)、(6)はそれぞれ同じ期間の上下変動を表す。上図を見ると、2004年9月5日の東海道沖(紀伊半島南東沖)の地震を含む期間では、変動の向きがやや南を向いていることがわかる。また、最近1年間(6)ではスロースリップの変動速度が小さくなっている。

(5)は、2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震および同年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響を取り除いています。2004年9月～2005年初めのデータに余効変動の影響が含まれると考えられます。

国土地理院資料

●日本の主な火山活動

平成 18 年（2006 年）1 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

▲ 桜 島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

26 日に爆発的噴火が 1 回観測された。

▲ 諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

噴火が観測された日が 14 日間あり、爆発的噴火が 14 回観測された。

【活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山】

● 十勝岳 [やや活発な状況]

62－2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていると推定される。

● 樽前山 [やや活発な状況]

A 火口及び B 噴気孔群は高温状態が続いていると推定される。

● 浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

下旬に火山性地震が多い状態となり、微弱な火映も観測された。火山ガスの放出量もやや多い状態であった

● 三宅島 [やや活発な状況]

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

● 福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

2 日及び 13 日に変色水が確認された。

● 阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2）→静穏な状況（レベル 1）]

火山活動は静穏な状態になったと判断し、20 日にレベルを 2 から 1 に引き下げた。

● 霧島山（御鉢）[やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いている。

● 薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

噴煙活動のやや活発な状態が続いている。

● 口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震のやや多い状態が続いている。

【静穏な状況であったが、観測データに変化がみられた火山】

◇ 伊豆東部火山群 [静穏な状況]

25～27 日に地震が一時的にやや増加した。

◇ 伊豆大島 [静穏な状況（レベル 1）]

5～9 日に地震が一時的にやや増加した。

◇ 霧島山（新燃岳）[静穏な状況（レベル 1）]

18 日頃から火山性地震が増加し 28 日頃までやや多い状態が続いた。



図 1 今回記事を掲載した火山

末尾の資料

- 期間中に発表した火山情報の一覧表
- 過去 1 年間の火山活動の状況

注 1 本資料において、レベルは火山活動度レベルを示す。

注 2 記号の意味

- ▲：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山
- ◇：その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

各火山の活動解説

◇ 雌阿寒岳 【比較的静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は比較的静穏に経過した。

● 十勝岳 【やや活発な状況】

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で経過した。前期間と比べ噴煙活動に特に変化はみられていないことから、同火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

● 樽前山 【やや活発な状況】

A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に特段の変化がみられていないことから、これらの火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温状態が続いていると推定される。

火山性地震の発生状況には特段の変化はなく、火山性微動は観測されなかった。また、地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

◇ 倶多楽 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 有珠山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。24 日に海上保安庁の協力により行った上空からの観測でも、山頂火口原及び金比羅山火口群の状況に特段の変化はなかった。

◇ 北海道駒ケ岳 【静穏な状況】

GPS による地殻変動観測ではわずかな山体膨張が引き続き観測されているが、地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山

活動は静穏に経過した。

◇ 恵山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 岩手山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 秋田駒ケ岳 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 吾妻山 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 安達太良山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 磐梯山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 那須岳 【静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 草津白根山 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

● 浅間山 【やや活発な状況（レベル 2）】

火山性地震が中旬から増加傾向となり 30 日以降多い状態となった。噴煙活動は依然としてやや活発で、30 日以降は微弱な火映も観測され、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量もやや多い状態であった。

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発

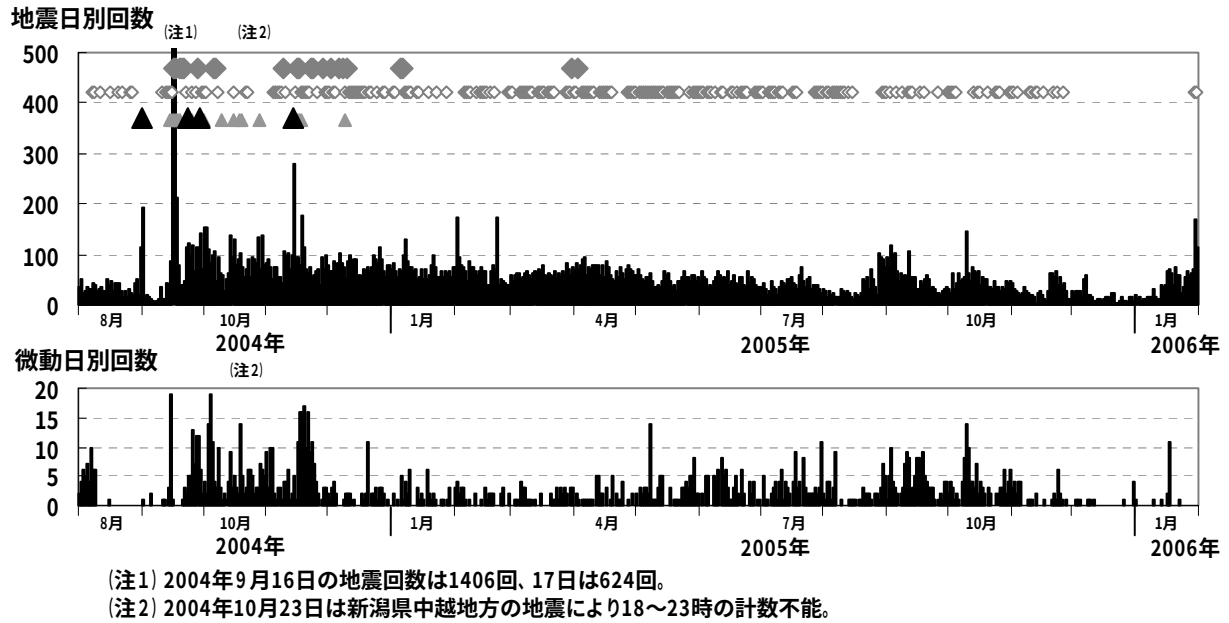
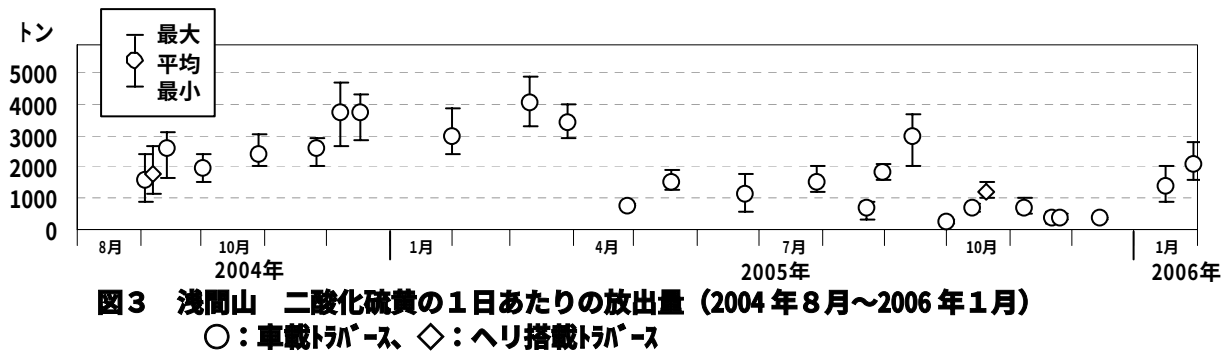


図2 浅間山 2004年8月～2006年1月の噴火、火映、火山性地震及び微動の日別発生状況
 ▲：中爆発、△：小噴火以下、◆：火映（肉眼）、◇：火映（高感度カメラ）



で、白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね火口縁上 200m で推移した（最高は 17～19 日の火口縁上 300m）。30 日及び 31 日の夜間に山麓の高感度カメラ¹⁾で微弱な火映が観測されており、火口内は高温状態にあると推定される（微弱な火映が観測されたのは 2005 年 11 月 26 日以来）（図 2）。

12 日に群馬県の協力により行った上空からの観測では、濃い噴煙のため火口内の状況は不明であったが、火口周辺に新たな噴出物は認められなかった。

16 日及び 30 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 900～2,000 トン（16 日）、1,600～2,800 トンと前回（2005 年 12 月 15 日 300～400 トン）と比べやや多い状態となっている。（図 3）。

火山性地震は、上旬はやや少ない状態で推移していたが、中旬に入ってから日回数が 50 回を超えるなどやや多くなり、30 日以降はさらに増加して 30 日 168 回、31 日 115 回と多い状態となった。震源はほとんどが山頂火口直下の浅い所と推定される。これらの地震増加に際して、傾斜計や GPS による地殻変動観測では特段の変化はみられなかった。火山性微動は時折発生し、17 日に 11 回と一時的にやや多く発生したが、いずれも振幅の小さなものであった（図 2）。

GPS 連続観測では、一部の基線で見られていた山体の膨張を示すゆっくりとした水平距離の伸び（浅間山深部へのマグマの注入、蓄積を示すと考えられる）は、2005 年 6 月頃からは停滞した状態となっている。また、傾斜計による観測及び気象研究所と共同で行っている光波測距観測で

は、火山活動の高まりを示すような変化はなかった。

- 1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が設置。

◇ 新潟焼山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 御嶽山 【静穏な状況】

地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

◇ 白山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 富士山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 伊豆東部火山群 【静穏な状況】

25～27 日に地震が一時的にやや増加したが（後述）、噴煙、火山性微動等は観測されず、火山活動は特段の変化なく静穏に経過した。

25 日 20 時頃から 27 日未明にかけて、伊豆半島東方沖の川奈崎付近、深さ約 10km を震源とする微小な地震がやや増加した。最大地震は 26 日 12 時 46 分に発生した M（マグニチュード）1.1 で、この地震を含め震度 1 以上を観測した地震は

なかった。低周波地震は観測されなかった。

地震の増加に前後して、東伊豆町に設置している体積歪計^{ひずみ}にわずかな縮みの変化がみられ、伊東市に設置されている防災科学技術研究所の傾斜計にも変化がみられた。GPS による地殻変動観測では特段の変化はみられなかった。

この付近では過去にもしばしば地震活動が活発化しており、今回の活動は規模の小さなものであった。

◇ 伊豆大島 【静穏な状況（レベル 1）】

地殻変動観測では長期的な山体の膨張傾向が継続しており、5～9 日に地震が一時的にやや増加したが（後述）、噴煙、火山性微動等は観測されず、火山活動に特段の変化なく静穏に経過した。

5～9 日に島の西方海域の深さ約 4～6 km を震源とする地震がややまとまって発生した。最大地震は 8 日 17 時 19 分に発生した M1.8 で、この地震も含め震度 1 以上を観測した地震はなかった。その後、地震活動は落ち着いた状態に戻っている。この周辺では、これまでにもしばしば地震の一時的な多発がみられており、最近では 2005 年 12 月 29～30 日にも発生している。

● 三宅島 【やや活発な状況】

多量の火山ガス（二酸化硫黄）の放出が続いている。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね 200～300m で推移した（最高は 29 日の火口縁上 800m）。

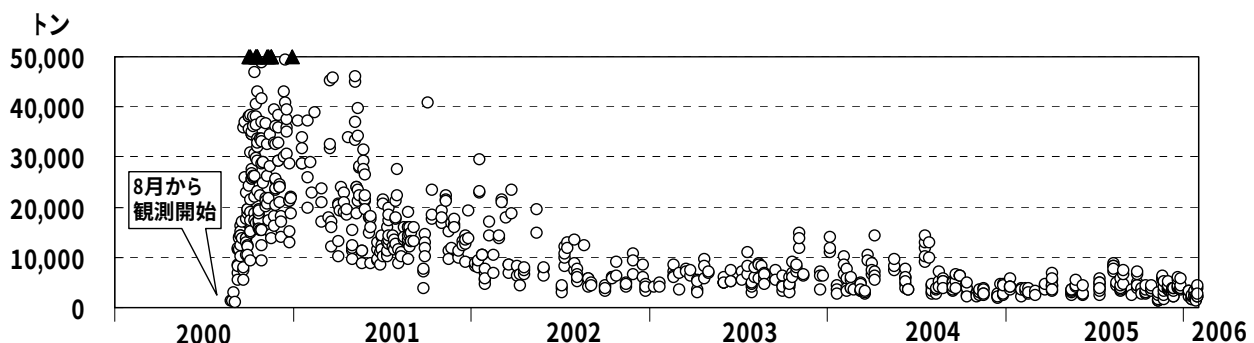


図 4 三宅島 二酸化硫黄の 1 日あたりの放出量（2000 年 8 月～2006 年 1 月）
 2004 年秋以降は 1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。
 （注）▲は 50,000 トン／日以上を表す。

この図は、陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力により作成。

火山ガス観測²⁾では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,300～4,300 トンと依然として多い状態であった（図 4）。三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

18 日及び 20 日に東京消防庁の協力により上空から行った観測では、火口内温度の最高は約 130℃で（20 日、赤外熱映像装置³⁾による）依然として高温状態が続いている。火口内の地形等に特段の変化はなかった。地磁気全磁力連続観測では特段の変化はみられていないことから、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

3 日 02 時から 08 時にかけて火口直下を震源とする地震が一時的に増加し、02 時 51 分、07 時 17 分及び 08 時 26 分に空振を伴う低周波地震が発生した。02 時 51 分及び 07 時 17 分の地震では三宅島神着で震度 1 を観測した。この地震増加や低周波地震の発生に際して噴煙の状況に変化はなく、その他の観測データにも特段の変化はなかった⁴⁾。その他の日は少ない状態で経過した。地震の震源はほとんどが山頂火口直下に分布し、前期間までと比べて特段の変化はなかった。火山性微動は観測されなかった。

GPS による地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

2) 4 日、11 日、17 日、24 日、27 日及び 30 日に実施。

3) 赤外放射温度計及び赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度もしくは温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

4) 三宅島では、空振を伴う低周波地震が発生した際に山頂火口から火山灰噴出を伴うことがある。

◇ 八丈島 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

● 福岡ノ場 【やや活発な状況】

2 日に海上保安庁、13 日に海上自衛隊が行っ

た上空からの観測によると、福岡ノ場付近に火山活動によると考えられる変色水が確認された。

2 日の変色水は福岡ノ場付近から東へ伸びる長さ約 1,000m、幅約 50m の薄い緑色のもので、13 日は福岡ノ場付近から南西へ伸びる長さ約 3,000m、幅約 400m の緑色のものであった。いずれの日も、同海域周辺で噴煙や浮遊物は確認されなかった。

福岡ノ場では以前から変色水が度々確認されており、2005 年 7 月 2～3 日には小規模な海底噴火が発生し、その後もしばしば変色水が確認されている。

◇ 九重山 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

● 阿蘇山 【やや活発な状況（レベル 2）→静穏な状況（レベル 1）】

中岳第一火口の熱活動は低調な状態が続き、火山性連続微動の振幅も小さい状態が続いている。火山活動は静穏な状況になったと判断し、20 日にレベルを 2（やや活発な火山活動）から 1（静穏な火山活動）に引き下げた。

中岳第一火口の熱活動は低調な状態が続いており、5 日、11 日及び 17 日に行った現地観測では、火口内の湯だまり⁵⁾は、量が約 8 割で変化なく、色は 17 日に乳緑色から緑色に変わり、表面温度は 52～62℃（赤外放射温度計³⁾による）と引き続きやや低い値であった（2005 年 11 月 8 日以降、表面温度は 60℃前後とやや低い値が続いている）。湯だまり内では土砂噴出は観測されなかった。

火山性連続微動の振幅は期間を通して小さい状態で経過した。

孤立型微動及び火山性地震の発生状況、噴煙の状況には特段の変化はなく、GPS による地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。気象庁地磁気観測所が行った地磁気全磁力連続観測では火山活動によるとみられる変化はなかった。

5) 湯だまり：活動静穏期中の中岳第一火口内には、地下水

などを起源とする約 50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起こり始めることが知られている。

◇ 雲仙岳 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、静穏に経過した。

◇ 霧島山（新燃岳） 【静穏な状況（レベル 1）】

下旬に火山性地震がやや増加し、火山性微動も観測されたが規模の小さなもので、その他の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

18 日から火山性地震が増加し 22 日（日回数 49 回）をピークに 28 日頃までやや多い状態が続いた。震源は新燃岳火口直下の浅い所と推定される。また、25 日に振幅の小さい火山性微動が観測された（1 回）。新燃岳で火山性微動が観測されたのは 2002 年 10 月以来である。

監視カメラ（火口の南約 7 km に設置）では火口縁を超える噴気は観測されなかった。26 日に行った調査観測では、火口内及び火口周辺の噴気の状態等に特段の変化はなかった。GPS 及び気象研究所の傾斜計による地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

● 霧島山（御鉢） 【やや活発な状況（レベル 2）】

御鉢火口内の噴気活動は消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、火口縁を超える噴気が時々観測された。噴気の最高は 20 日に観測された火口縁上 400m であった。

火山性微動の月回数は 10 回とやや多かったが、いずれも振幅の小さなものであった。火山性地震は少ない状態が続いている。GPS 及び気象研究所の傾斜計による地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

▲ 桜島 【比較的静穏な噴火活動（レベル 2）】

期間中観測された噴火は 26 日に観測された爆

発的噴火 1 回のみで、噴火活動は比較的静穏な状態が続いている。

26 日 06 時 51 分に爆発的噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 400m まで上がった。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）で降灰は観測されなかった。

火山性地震は、24 日から B 型地震⁶⁾が増加し、26～30 日には日回数が 100 回を超えたが（最多は 28 日の 132 回）、いずれも振幅の小さなものであった。火山性地震は長期的には少ない状態が続いている。火山性微動も少ない状態が続いている。

GPS による地殻変動観測では、長期的には始良カルデラの膨張によるとみられる東西方向のわずかな伸びの傾向が続いているが、2005 年 3 月以降は伸びの鈍化が見られている。

6) 火山性地震には、通常の構造性地震と同じような P 波、S 波が明瞭で高周波の波動からなる A 型地震と、位相が不明瞭な低周波の B 型地震がある。桜島の A 型地震はマグマ等の貫入に伴い地殻が破壊されるために発生していると考えられ、B 型地震はマグマ内の火山ガスの発泡等によって火道内で発生する地震とされている。

● 薩摩硫黄島 【やや活発な状況（レベル 2）】

噴火は観測されなかったが、噴煙活動は依然としてやや活発で、白色噴煙が硫黄岳火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は火口縁上概ね 200 m で推移した。

火山性地震及び火山性微動の発生状況に特段の変化はなかった。

● 口永良部島 【やや活発な状況（レベル 2）】

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は 176 回（前期間 169 回⁷⁾）であった（図 5）。震源は新岳火口付近のごく浅い所と推定される。火山性微動は少ない状態で経過した。

監視カメラ（新岳の北西約 4 km に設置）による観測では、噴気は観測されなかった。

7) 2005 年 12 月 15～28 日は京都大学のデータによる。

▲ 諏訪之瀬島 【活発な状況（レベル 3）】

噴火が観測された日が 14 日間あり、爆発的噴火が 14 回観測された。

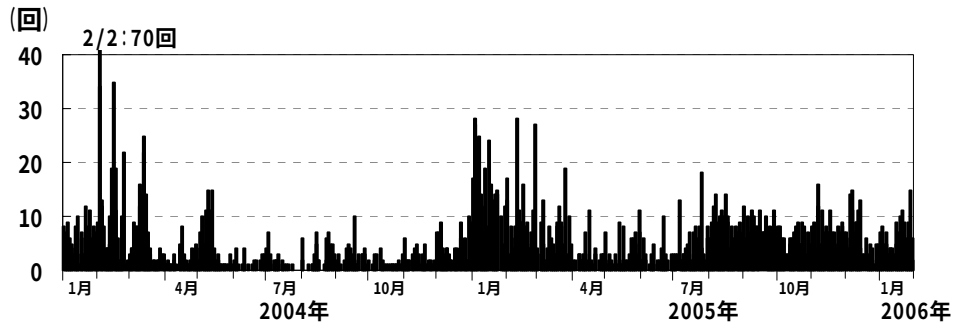


図5 口永良部島 火山性地震の日別発生回数（2004 年 1 ～2006 年 1 月）
2005 年 12 月 15～28 日は京都大学のデータによる。

1 月 1 日、9～11 日、17～19 日及び 25～31 日に噴火が観測され、爆発的噴火が 10 日の 6 回を含め 14 回観測された（図 6）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、火山灰を含む噴煙が時々観測され、1 月 1 日、10 日、18 日及び 25 日には集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰があった。10 日午後には集落で 3 回の爆発音が聞こえ、ガラスが揺れるほどの空振があった。監視カメラ（御岳の北北東約 25km の中之島に設置）による観測及び同出張所からの報告では、噴火による噴煙の最高は火口縁上 1,000mであった。

火山性微動は、下旬に噴火の発生に伴い断続的に観測され、振幅のやや大きなものも観測された。

◇ 硫黄島島 【静穏な状況】

海上保安庁が 19 日に海上から、27 日に上空から行った観測によると、噴気活動に特段の変化はなかった。気象研究所及び東京大学地震研究所が共同で行っている地震観測においても、期間中の地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。

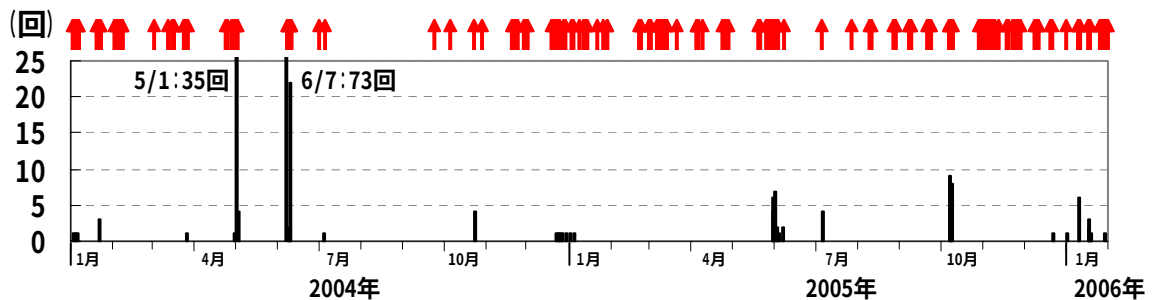


図6 諏訪之瀬島 爆発的噴火の日別発生回数及び噴火の発生状況
（2004 年 1 月～2006 年 1 月） ↑ は噴火発生日

資料 1 2006 年 1 月の火山情報発表状況

火 山 名	情報の種類及び号数	発表日時	概 要
浅 間 山	火山観測情報第 1 号	6 日 16:00	12 月 28 日～1 月 6 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 2 号	13 日 16:00	1 月 6 日～1 月 13 日 15 時の活動状況。12 日の上空からの観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 3 号	20 日 16:00	1 月 13 日～1 月 20 日 15 時の活動状況。16 日の火山ガス観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 4 号	27 日 16:00	1 月 20 日～1 月 27 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
三 宅 島	火山観測情報 第 1～31 号 (1 日 1 回発表)	1 日～31 日 16:30	前日 16 時～当日 16 時の活動状況及び上空の風の予想。
阿 蘇 山	火山観測情報第 1 号	6 日 11:00	やや活発な火山活動が継続（連続微動は振幅のやや大きくなる状態を繰り返している）。レベルは 2。
	火山観測情報第 2 号	13 日 11:00	
	火山観測情報第 3 号	20 日 11:00	火山活動は静穏な状態になった。レベルを 2 から 1 に引き下げた。

資料2 過去1年間の火山活動の状況

火 山 名		平成17年 (2005年)												H18
		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
雌 阿 寒 岳	活動	●	●	●	●									
十 勝 岳	活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
樽 前 山	活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
吾 妻 山	活動													
草 津 白 根 山	レベル	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
	活動													
浅 間 山	レベル	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
	活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
伊 豆 大 島	レベル	③	③	③	③	③→②	②	②	②	②	②	②	②	
	活動													
三 宅 島	レベル	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
	活動	●	●	▲	▲	●	●	●	●	●	●	●	●	
福 徳 岡 ノ 場	活動	●	●		●		▲		●	●	●	●	●	
九 重 山	レベル	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
	活動	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
阿 蘇 山	レベル	②	②	②→③	③→②	②	②	②	②	②	②	②	②→①	
	活動													
雲 仙 岳	レベル	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
	活動													
霧 島 山 (新燃岳)	レベル	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
	活動													
霧 島 山 (御鉢)	レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
	活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
桜 島	レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
	活動	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
薩 摩 硫 黄 島	レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
	活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
口 永 良 部 島	レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
	活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
諏 訪 之 瀬 島	レベル	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	
	活動	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	

活動状況（活動）

▲：噴火した火山

●：活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

火山活動度レベル

③：小規模な噴火が発生かその可能性

②：やや活発な火山活動

（桜島については、「比較的静穏な噴火活動」）

①：静穏な火山活動

●世界の主な地震

1 月に世界で発生したマグニチュード (M) 6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

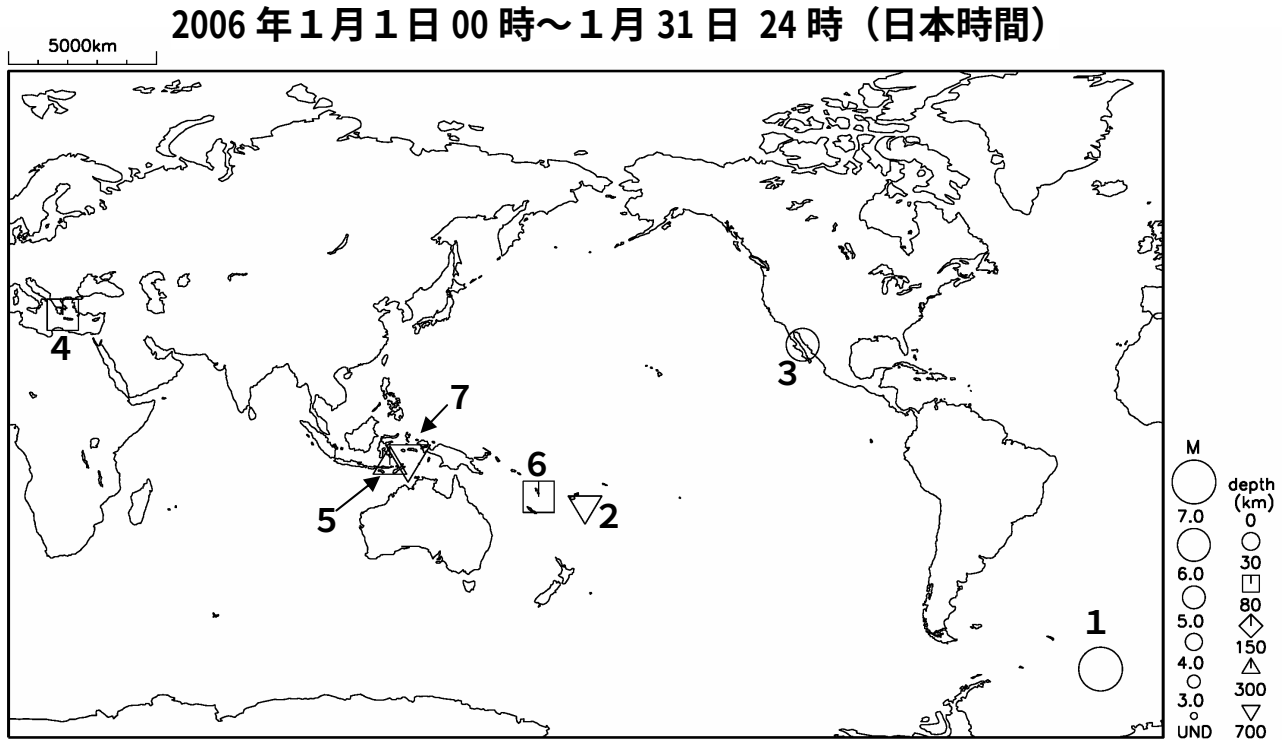


図 1 2006 年 1 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

＜震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による＞

* : 数字は、表 1 の番号に対応する。

** : マグニチュードは mb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。

表 1 2006 年 1 月に世界で発生したマグニチュード 6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月 日 時 分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)
1	01月02日15時10分	S60°	55.1'W 21° 34.8'	10*	6.4	7.3	7.1	南サンドウィッチ諸島東方	p 37参照
2	01月03日07時13分	S19°	55.7'W178° 09.8'	583	6.5		7.1	フィジー諸島付近	p 38参照
3	01月04日17時32分	N28°	05.8'W112° 06.0'	14*	6.1	6.7	6.5	カリフォルニア湾	
4	01月08日20時34分	N36°	18.3'E 23° 13.0'	66*	6.5		6.7	ギリシア南部	負傷者 3 名、住家被害 80 棟 キティラ島の空港施設に被害
5	01月15日20時58分	S 7°	49.3'E122° 35.5'	250	6.1		6.1	フロレス海	
6	01月23日15時02分	S17°	25.2'E167° 46.1'	32	5.8	6.1	6.3	バヌアツ諸島	
7	01月28日01時58分	S 5°	28.9'E128° 05.5'	397*	7.0		7.5	バンダ海	p 39参照

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による（2006 年 2 月 3 日現在）。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード（Ms の欄に括弧を付して記載）は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間〔日本時間＝協定世界時＋9 時間〕である。
- ・Mw は USGS のモーメントマグニチュードである。
- ・震源の深さに「*」が付いているのは、USGS が推定した深さである。

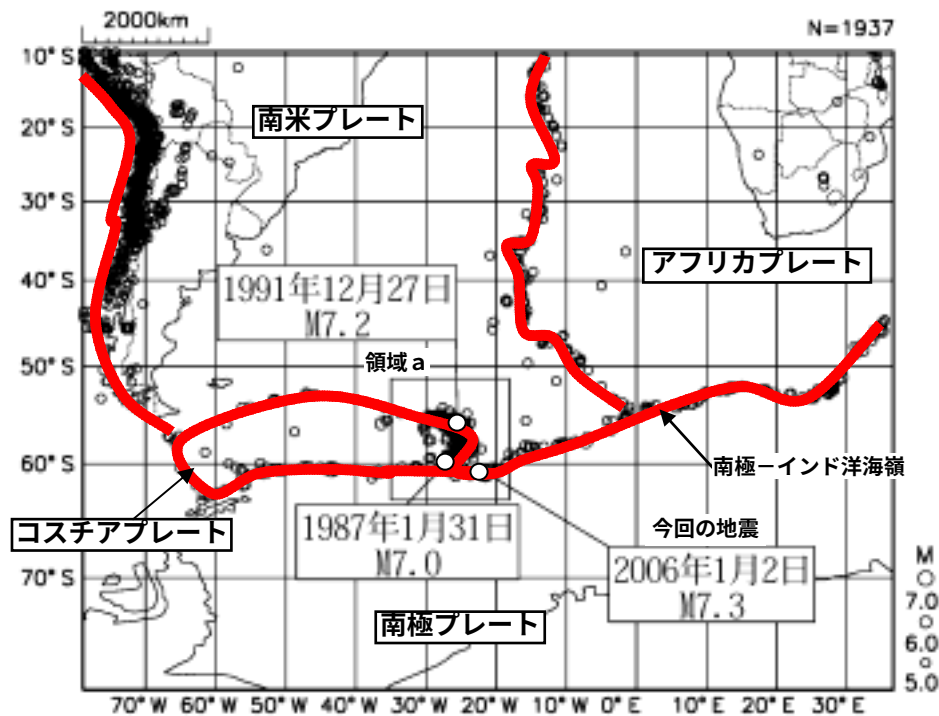
1月2日 南サンドウィッチ諸島東方の地震

1月2日 15 時 10 分ころ（日本時間）、南サンドウィッチ諸島の東方の南極海でマグニチュード（米国地質調査所[以下、USGS]によるマグニチュード）7.3 の地震が発生した。この地震による被害は報告されていない。

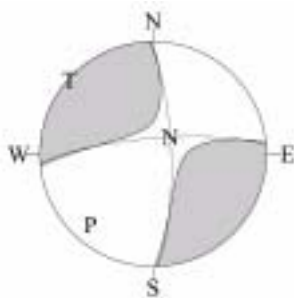
今回の地震は南極ーインド洋海嶺の西端付近で発生した。この周辺は、南大西洋では最も地震活動の活発な地域であり、下記図の領域 a 内では、年 1 回程度の割合で M6.0 以上の地震が発生している。今回の地震の発震機構は、ほぼ北東ー南西方向に圧力軸を持つ横ずれ型であり、南米プレートと南極プレートの境界上（トランスフォーム断層）で発生した地震と考えられる。

なお、この地震について、気象庁は同日 15 時 39 分に「この地震による日本への津波の影響はありません。」の「遠地地震の地震情報」（日本国内向け）を発表した。

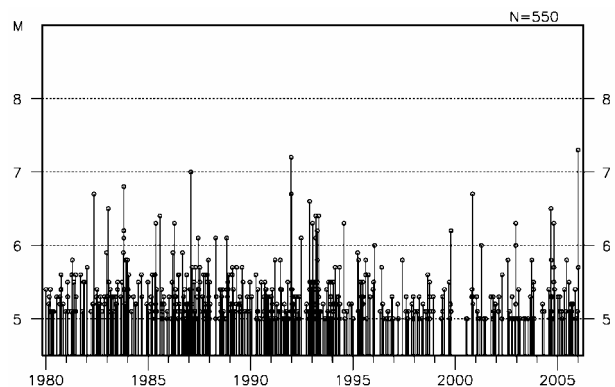
震央分布図（1980 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 31 日：M $\geq$ 5.0、深さ 100km 以浅）
震源データは USGS による。薄実線は震央分布から求めたおよそのプレート境界位置を示す。領域 a 内で M7.0 以上の地震に吹き出しを付けた。



今回の地震の発震機構
（ハーバード大学による CMT 解）



領域 a 内の M-T 図



1月3日 フィジー付近の地震

1月3日 07 時 13 分ころ（日本時間）、フィジー付近でマグニチュード（米国地質調査所[以下、USGS]によるモーメントマグニチュード）7.1 の深発地震^{注）}（深さ約 580km）が発生した。

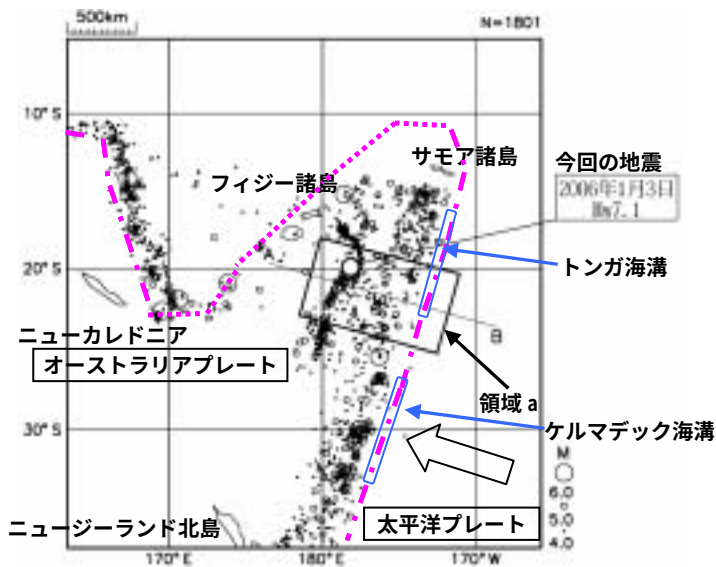
この付近は、太平洋プレートがトンガ・ケルマデック海溝からオーストラリアプレートの下に高角度で沈み込んでいるため、地震活動の活発な地域であり、これまでも時々マグニチュード 6～7 程度の深発地震が発生している。今回の地震の発震機構は、ほぼ沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、沈み込む太平洋プレート内部で発生した地震と考えられる。

この地震について、気象庁は同日 07 時 48 分に「この地震による津波の心配はありません。」の「遠地地震の地震情報」（日本国内向け）を発表した。

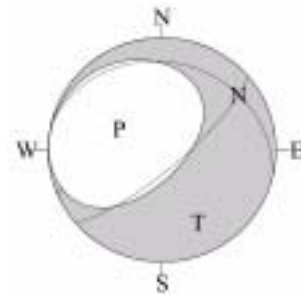
注）：深発地震：深さ 300km 以深で発生した地震

震央分布図（2005 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 31 日： M $\geq$ 4.0、深さ 700km 以浅）

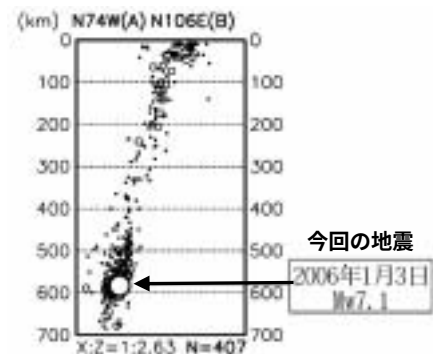
震源データは USGS による。波線はおおまかなプレート境界（点線は不明瞭な境界）、矢印は太平洋プレートのおおよその進行方向を示す。



今回の地震の発震機構 （ハーバード大学による CMT 解）

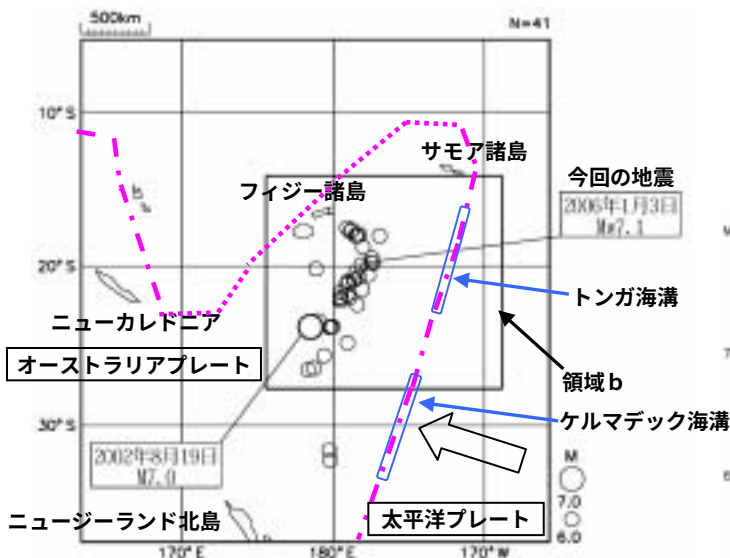


領域 a 内の断面図（A－B 断面）

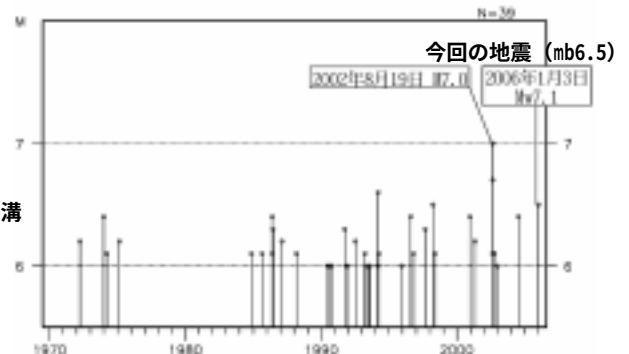


震央分布図（1970 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 31 日： M $\geq$ 6.0、深さ 300～700km）

震源データは USGS による。波線はおおまかなプレート境界（点線は不明瞭な境界）、矢印は太平洋プレートのおおよその進行方向を示す。



領域 b 内の M－T 図 （mb もしくは Ms のいずれか大きな値で表示）



1月28日 バンダ海地震

1月28日01時58分ころ（日本時間）、インドネシアのバンダ海でマグニチュード（米国地質調査所[以下、USGS]によるマグニチュード）7.0の深発地震^注（深さ約400km）が発生した。この地震により周辺の島々で有感となったが、被害の報告はない。

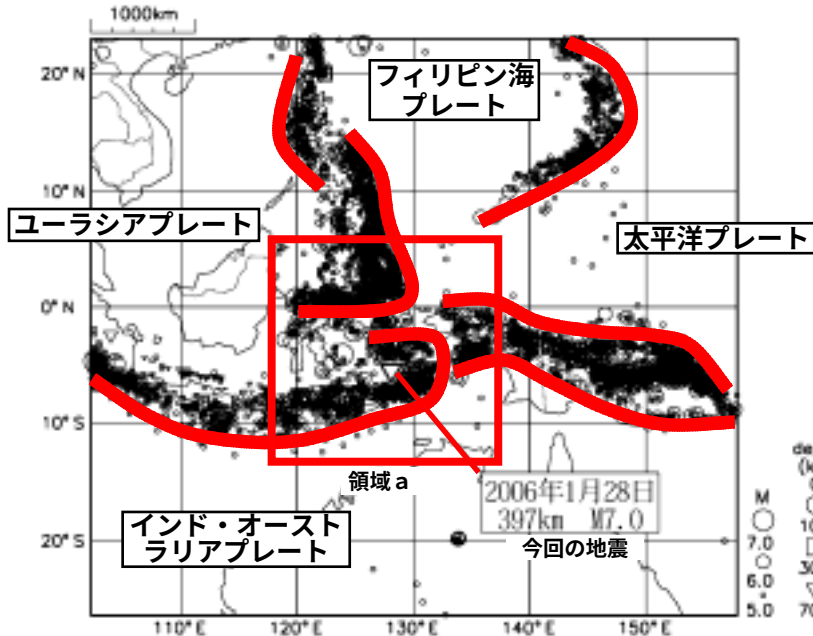
この地震の発震機構は北北東-南南西に圧力軸を持つ正断層型であり、沈み込むインド・オーストラリアプレート内部で発生した地震と思われる。この付近では M5.0 以上の深発地震は時々発生しているが、M7.0 を超えるものは1980年以降、初めてであった。

なお、この地震について、気象庁は同日02時28分に「この地震による津波の心配はありません。」の「遠地地震の地震情報」（日本国内向け）を発表した。

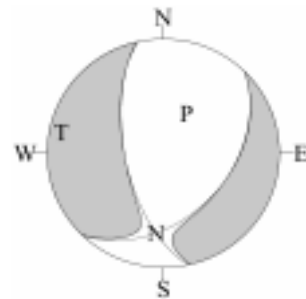
注）：深発地震：深さ300km以深で発生した地震

震央分布図（1980年1月1日～2006年1月31日： M $\geq$ 5.0、深さ700km以浅）

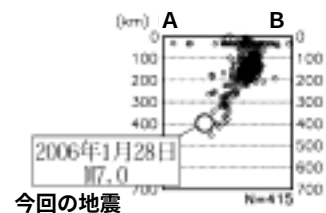
震源データはUSGSによる。薄実線は震央分布から求めたおよそのプレート境界位置を示す。



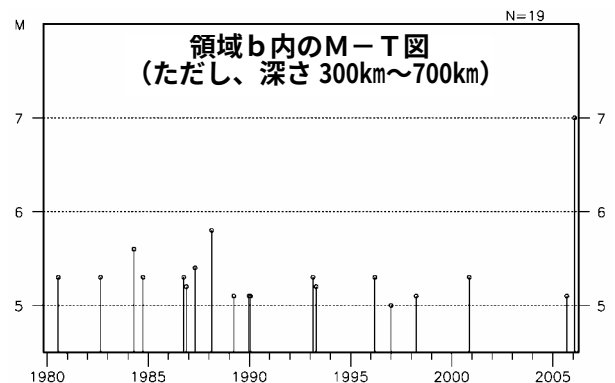
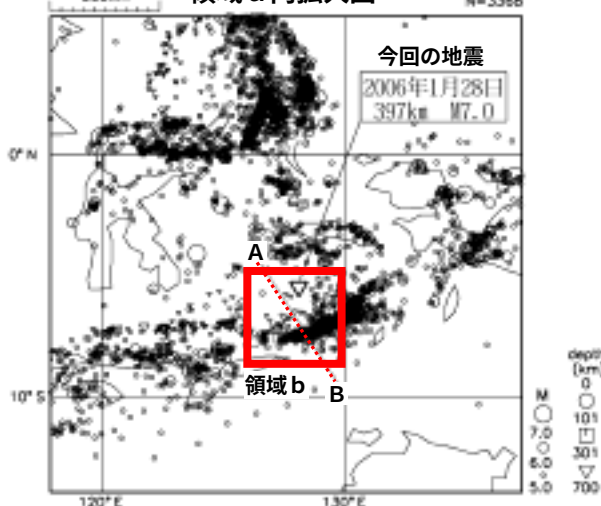
今回の地震の発震機構 （ハーバード大学によるCMT解）



領域b内の断面図（A-B投影）



領域a内拡大図



● 世界の主な火山活動

平成 18 年（2006 年）1 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、活動が活発であった主な火山は以下のとおりである。

オーガスティン火山（アラスカ）（図中 A）

11 日に爆発的噴火が発生し、噴煙が海拔約 9km まで上がった。山腹を火山泥流が流下したのが確認された。オーガスティン火山で噴火が観測されたのは 1986 年以来である。13 日から 14 日未明にかけて噴火活動が活発になり、爆発的噴火が繰り返し発生した。噴煙の高さは海拔約 10km まで達し、東南東に流れて、100km 以上離れたケナイ半島（オーガスティン火山は火山島）で少量の降灰があった。噴火のたびに山腹を小規模な火砕流や泥流が流下した。

27 日に噴火活動が再開し、噴煙の高さは海拔約 12km に達した。28 日午後から 31 日にかけて噴火は連続的になり、火山灰を連続的に噴出、小規模な火砕流が頻発した。北北東に流れた火砕流のいくつかは海に達した。噴火活動は航空機関に影響を与え、アンカレッジ空港を利用する航空機では欠航や飛行ルートの変更が行われたケースもあった。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）



平成 18 年 1 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）

●付表

1. 震度 1 以上を観測した地震の表

※地震の震源要素及び震度は再調査後、修正することがある。確定した震源要素は「地震・火山月報（カタログ編）」、震度データは「地震年報」を参照。震度データは都道府県別に掲載し、各観測点の末尾に計測震度（各年の地震・火山月報（防災編）12 月号の付録 1 参照）を記す。なお、* のついている地点は、地方公共団体もしくは独立行政法人防災科学技術研究所の震度観測点。（注）を付した地震については、近接した地域でほぼ同時刻に発生した地震であるため震度の分離ができないことを示す。震源の深さの後に「F」を付した地震は、その深さに仮定して震源決定していることを示す。

※震度 3 以上を観測した地震については、震源要素を**太字**で表示する。

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
1	1 16 33	広島県北部 島根県 広島県	34°50.4' N	132°33.1' E	10km	M: 3.0
		2 邑南町淀原*=1.7 邑南町下口羽*=1.5 邑南町三田市*=1.5 1 北広島町大朝*=1.0 安芸高田市高宮町*=0.8 安芸高田市甲田町*=0.8 安芸高田市美土里町*=0.8				
2	1 22 17	神奈川県西部 静岡県	35°10.9' N	139°06.2' E	11km	M: 1.7
		1 熱海市泉*=0.5				
3	1 22 56	福井県越前地方 福井県 岐阜県 富山県 石川県 滋賀県	35°54.7' N	136°45.3' E	10km	M: 4.1
		3 大野市朝日*=2.6 大野市川合*=2.5 1 勝山市旭町=1.2 上志比村栗住波*=1.2 あわら市市姫*=1.1 越前市村国*=0.9 三国町中央=0.9 あわら市国影*=0.7 松岡町春日*=0.7 坂井町下新庄*=0.6 3 郡上市白鳥町長滝自然公園*=3.0 2 郡上市高鷲町*=1.9 郡上市大和町*=1.6 1 揖斐川町東津汲*=1.3 高山市荘川町*=1.2 揖斐川町東杉原*=1.2 郡上市八幡町=1.2 関市洞戸市場*=1.1 揖斐川町谷汲*=1.1 高山市一之宮町*=1.1 本巣市根尾*=1.1 飛騨市河合町元田郵便局*=1.1 郡上市八幡町総合グラウンド*=1.1 岐阜山県市大門*=1.0 美濃市役所*=1.0 揖斐川町春日*=1.0 飛騨市古川町*=1.0 岐阜大野町大野*=0.9 岐阜北方町北方*=0.9 関市若草通り*=0.9 高山市高根町*=0.9 郡上市明宝*=0.8 富加町滝田*=0.7 高山市消防署*=0.7 白川村鳩谷*=0.7 岐阜山県市谷谷*=0.6 岐阜山県市高木*=0.6 下呂市馬瀬*=0.6 高山市国府町*=0.6 関市板取*=0.6 高山市桐生町=0.5 飛騨市宮川町*=0.5 高山市丹生川町坊方*=0.5 揖斐川町西横山*=0.5 1 南砺市利賀村*=0.8 1 加賀市直下町=1.2 白山市別宮町*=0.6 能美市寺井町*=0.6 白山市白峰*=0.5 1 湖南市中央図書館*=0.6 滋賀豊郷町石畑*=0.5 守山市吉身*=0.5				
4	1 23 20	長野県中部 群馬県 山梨県 長野県	35°59.5' N	138°37.8' E	62km	M: 3.1
		1 神流町神ヶ原*=0.6 1 北杜市長坂町長坂上条*=1.3 甲州市役所*=0.9 北杜市高根町村山北割*=0.6 1 小海町豊里*=0.7				
5	2 08 36	熊本県熊本地方 熊本県 長崎県	32°29.4' N	130°35.6' E	12km	M: 3.4
		2 八代市坂本町*=1.5 1 宇城市松橋町=1.1 上天草市松島町*=1.0 人吉市城本町=0.9 八代市千丁町*=0.9 上天草市姫戸町*=0.8 八代市平山新町=0.7 上天草市大矢野町=0.7 宇城市不知火町*=0.6 芦北町芦北=0.5 1 雲仙市小浜町雲仙=0.5				
6	2 23 38	和歌山県北部 和歌山県	33°55.1' N	135°13.4' E	7km	M: 2.9
		2 御坊市藺=1.6 1 日高川町土生*=1.2 由良町里*=0.5				
7	3 02 51	三宅島近海 東京都	34°07.0' N	139°30.4' E	0km	M: 1.9
		1 三宅村神着=0.6				
8	3 07 17	三宅島近海 東京都	34°03.9' N	139°31.9' E	0km	M: 1.9
		1 三宅村神着=0.5				
9	3 14 52	宮城県沖 岩手県 宮城県	38°48.4' N	142°00.8' E	46km	M: 3.3
		1 一関市千厩町*=0.7 1 南三陸町歌津*=0.9				
10	3 18 12	岩手県内陸南部 宮城県 岩手県	38°54.2' N	141°02.6' E	8km	M: 3.0
		2 栗原市栗駒=2.4 1 栗原市一迫*=1.3 栗原市鶯沢*=1.1 栗原市金成*=1.1 栗原市築館*=1.0 1 一関市山目*=0.6				
11	3 19 54	宮古島近海 沖縄県	24°40.4' N	125°08.9' E	33km	M: 4.5
		2 宮古島市平良西仲宗根=2.3 宮古島市平良下里=1.7 宮古島市城辺福里=1.7 1 多良間村塩川=1.0				
12	3 21 26	青森県東方沖 青森県	41°19.1' N	142°39.3' E	35km	M: 4.7
		2 七戸町森ノ上*=2.2 野辺地町野辺地*=2.1 五戸町古館=1.9 東北町上北南*=1.8 平内町小湊=1.7				

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
		八戸市南郷区※=1.7 七戸町七戸※=1.6 東北町塔ノ沢山※=1.6 青森南部町沖田面※=1.5 むつ市金曲=1.5 1 五戸町倉石中市※=1.4 十和田市奥瀬※=1.2 三沢市桜町※=1.2 六ヶ所村尾駁=1.2 外ヶ浜町蟹田※=1.2 青森南部町苦米地※=1.2 階上町道仏※=1.2 むつ市川内町※=1.2 八戸市湊町=1.2 大間町大間※=1.1 下田町中下田※=1.1 十和田市西十二番町※=1.0 むつ市脇野沢※=0.9 六戸町犬落瀬※=0.8 中泊町中里※=0.7 横浜町寺下※=0.7 田舎館村田舎館※=0.7 青森市花園=0.7 百石町上明堂※=0.7 蓬田村蓬田※=0.6 五所川原市金木町※=0.6 八戸市島守=0.5 つがる市柏※=0.5 むつ市大畑町=0.5 中泊町小泊※=0.5 青森市浪岡※=0.5 外ヶ浜町三厩※=0.5 1 室蘭市東町※=1.1 函館市日ノ浜町※=1.0 函館市美原=0.9 新冠町北星町※=0.9 静内町ときわ=0.9 渡島森町砂原※=0.6 岩手県 1 洋野町大野※=1.4 二戸市浄法寺町※=1.2 軽米町軽米※=1.1 二戸市福岡=1.0 八幡平市野駄※=0.9 葛巻町葛巻=0.6 洋野町種市=0.5				
13	3 23 28	岐阜県飛騨地方 岐阜県 1 高山市高根町※=0.8	36°00.2' N	137°17.1' E	11km	M: 2.0
14	4 00 11	紀伊水道 和歌山県 1 海南市下津※=0.9 有田市初島町※=0.8 有田市箕島=0.7	34°07.4' N	135°07.5' E	7km	M: 2.2
15	4 00 42	日向灘 宮崎県 2 高鍋町上江※=1.6 日南市油津=1.6 宮崎市松橋※=1.5 宮崎市霧島=1.5 国富町本庄※=1.5 1 西都市聖陵町※=1.3 宮崎市橋通東※=1.3 西都市上の宮※=1.2 宮崎南郷町南町※=1.2 新富町上富田=1.0 小林市真方=0.8 日南市吾田東※=0.7 熊本県 1 人吉市城本町=0.5	31°43.7' N	132°05.6' E	44km	M: 4.1
16	4 06 51	新潟県中越地方 新潟県 1 小千谷市城内=0.6	37°13.7' N	138°50.4' E	9km	M: 2.5
17	4 13 48	日向灘 宮崎県 1 高鍋町上江※=0.9 西都市上の宮※=0.8 日南市油津=0.8 宮崎市霧島=0.6 宮崎市松橋※=0.5	31°43.7' N	132°05.9' E	44km	M: 3.7
18	4 15 24	岩手県沖 青森県 1 五戸町古館=1.4 階上町道仏※=1.3 八戸市湊町=1.1 青森南部町苦米地※=0.9 青森南部町沖田面※=0.6 十和田市奥瀬※=0.6 八戸市島守=0.6 岩手県 1 田野畑村役場※=1.4 洋野町大野※=1.3 盛岡市玉山区※=1.3 普代村銅屋※=1.0 洋野町種市=1.0 岩手町五日市※=1.0 軽米町軽米※=0.8 葛巻町葛巻=0.7 田野畑村田野畑=0.7 宮古市五月町※=0.6 葛巻町役場※=0.6 九戸村伊保内※=0.6 二戸市浄法寺町※=0.5 二戸市福岡=0.5	40°11.5' N	141°53.9' E	39km	M: 3.9
19	5 02 55	宮城県沖 宮城県 1 南三陸町歌津※=0.6	38°38.4' N	141°54.6' E	47km	M: 3.1
20	5 13 22	沖縄本島近海 沖縄県 2 伊平屋村我喜屋=1.6	27°03.0' N	127°58.3' E	10km	M: 2.8
21	5 15 20	岩手県内陸南部 岩手県 1 一関市千厩町※=0.5	39°03.0' N	141°05.9' E	96km	M: 3.1
22	5 19 05	奄美大島近海 鹿児島県 1 鹿児島十島村中之島=0.6	29°33.3' N	130°10.1' E	22km	M: 3.6
23	6 01 00	紀伊半島沖 奈良県 1 下北山村寺垣内※=0.5	33°41.7' N	136°29.8' E	35km	M: 2.8
24	7 04 35	広島県南西部 広島県 1 坂町役場※=1.1 海田町上市※=0.9 三原市久井町※=0.8 熊野町役場※=0.7 広島安芸区中野※=0.6 東広島市豊栄町※=0.5 呉市焼山※=0.5	34°22.8' N	132°40.1' E	28km	M: 3.0
25	8 05 23	長野県中部 長野県 1 麻績村麻※=0.9 千曲市杭瀬下※=0.8	36°26.0' N	138°01.1' E	7km	M: 2.2
26	8 05 52	十勝支庁南部 北海道 1 豊頃町茂岩本町※=0.5 本別町北2丁目=0.5	42°33.2' N	143°27.3' E	58km	M: 3.4
27	9 02 32	和歌山県南部 奈良県 1 下北山村寺垣内※=0.9	33°49.5' N	135°22.2' E	46km	M: 3.1
28	9 14 48	愛知県東部 愛知県 2 豊田市長興寺※=1.9 岡崎市伝馬通=1.7 愛知三好町三好※=1.6 1 田原市赤羽根町※=1.3 豊田市大沼町※=1.3 豊田市小渡町※=1.3 新城市長篠※=1.2 豊田市小坂町※=1.1 愛知東郷町春木※=1.1 豊根村下黒川※=1.0 蒲郡市御幸町※=1.0 安城市横山町※=1.0 新城市作手高里※=1.0 豊田市小坂本町=0.9 高浜市穰田町※=0.9 刈谷市寿町※=0.9 幸田町菱池※=0.9 豊橋市向山=0.8 新城市東入船※=0.8 小坂井町小坂井※=0.7 名古屋千種区日和町=0.7 知多市緑町※=0.7 日進市蟹甲町※=0.7 愛知美浜町河和※=0.7	34°58.5' N	137°24.9' E	41km	M: 3.9

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
		吉良町荻原※=0.7 新城市乗本=0.7 愛知御津町西方※=0.6 安城市和泉町※=0.6 大府市中央町※=0.6 名古屋緑区有松町※=0.6 東栄町本郷※=0.6 長久手町岩作※=0.6 愛知東浦町緒川※=0.6 豊田市大洞町=0.6 豊根村富山※=0.6 半田市東洋町※=0.5 西尾市寄住町※=0.5 知立市弘法町※=0.5 尾張旭市東大道町※=0.5 長野県 1 売木村役場※=0.8 天龍村天龍小学校※=0.6 岐阜県 1 恵那市上矢作町※=0.8 恵那市山岡町※=0.7 可児市広見※=0.6 関市若草通り※=0.6 静岡県 1 浜松市引佐町※=1.3 浜松市佐久間町※=1.2 浜松市春野町※=0.9 浜松市西美蘭※=0.8 磐田市下野部※=0.8 浜松市二俣町鹿島※=0.7 浜松市細江町※=0.7 磐田市岡※=0.6 湖西市吉美※=0.5 浜松市三ヶ日町=0.5 袋井市浅名※=0.5				
29	9 14 52	沖縄本島近海 沖縄県 1 本部町役場※=1.3 恩納村恩納※=0.9	26° 34.2' N	127° 50.7' E	13km	M: 3.0
30	10 08 17	宮城県沖 岩手県 1 一関市千厩町※=0.8 宮城県 1 唐桑町馬場※=0.6 南三陸町歌津※=0.5	38° 47.7' N	142° 25.0' E	42km	M: 3.9
31	10 10 21	十勝支庁中部 北海道 2 釧路市音別町=1.9 広尾町並木通=1.8 豊頃町茂岩本町※=1.8 本別町北2丁目=1.7 1 芽室町東2条※=1.4 帯広市東4条=1.3 鹿追町東町※=1.3 忠類村忠類※=1.1 更別村更別※=1.0 音更町元町※=1.0 十勝清水町南4条=0.9 幕別町本町※=0.9 別海町常盤=0.8 足寄町上螺湾=0.7 浦河町潮見=0.6 釧路市幸町=0.6 忠類村明和=0.6 弟子屈町美里=0.5	42° 52.0' N	143° 42.4' E	85km	M: 4.2
32	10 23 11	秋田県沿岸南部 秋田県 1 秋田市河辺和田※=0.5	39° 42.2' N	140° 09.6' E	14km	M: 2.5
33	11 00 07	根室支庁中部 北海道 3 別海町常盤=2.6 1 厚岸町尾幌=1.1 弟子屈町美里=1.0 釧路市幸町=0.9 中標津町養老牛=0.9 釧路町別保※=0.7	43° 23.9' N	145° 12.9' E	118km	M: 4.4
34	11 08 59	福岡県西方沖 福岡県 1 福岡西区玄界島=0.7	33° 44.8' N	130° 09.8' E	8km	M: 2.7
35	11 09 14	神奈川県西部 神奈川県 1 神奈川清川村煤ヶ谷※=1.2 神奈川山北町山北※=1.1 厚木市中町※=1.1 箱根町湯本※=1.0 相模原市相原※=1.0 南足柄市関本※=0.8 真鶴町真鶴※=0.7 厚木市七沢※=0.7 相模原市上溝※=0.7 相模原市中央=0.6 厚木市長谷※=0.5 山梨県 1 道志村役場※=0.6 静岡県 1 熱海市泉※=0.9	35° 21.8' N	139° 07.4' E	20km	M: 3.4
36	12 17 24	島根県東部 鳥取県 1 鳥取南部町法勝寺※=1.1 鳥取南部町天萬※=0.5	35° 19.2' N	133° 19.3' E	8km	M: 2.2
37	13 06 16	鹿児島県薩摩地方 熊本県 1 水俣市陣内※=0.6 鹿児島県 1 大口市山野=0.7 さつま町宮之城屋地=0.5	31° 58.2' N	130° 27.4' E	9km	M: 3.1
38	13 08 47	浦河沖 北海道 1 新冠町北星町※=1.4 静内町ときわ=1.3 浦河町潮見=1.2 忠類村忠類※=0.6 広尾町並木通=0.5	42° 02.1' N	142° 35.8' E	61km	M: 3.9
39	13 20 52	和歌山県北部 和歌山県 2 由良町里※=2.2 1 湯浅町湯浅※=1.4 和歌山日高町高家※=1.2 御坊市藺=1.0 日高川町土生※=1.0 和歌山広川町広※=0.9 海南市下津※=0.7 有田市初島町※=0.6 海南市日方※=0.6	34° 00.8' N	135° 09.7' E	6km	M: 3.1
40	14 15 30	茨城県南部 栃木県 4 栃木二宮町石島※=3.5 3 宇都宮市明保野町=2.6 栃木市旭町=2.6 益子町益子=2.6 鹿沼市今宮町※=2.5 小山市中央町※=2.5 野木町丸林※=2.5 大平町富田※=2.5 岩舟町静※=2.5 2 下野市石橋※=2.4 栃木河内町白沢※=2.3 佐野市葛生東※=2.2 真岡市荒町※=2.1 壬生町通町※=2.0 高根沢町石末※=2.0 下野市田中※=2.0 下野市小金井※=2.0 足利市名草上町=1.9 上河内町中里※=1.9 西方町本城※=1.9 栃木藤岡町藤岡※=1.8 佐野市田沼町※=1.8 鹿沼市口栗野※=1.8 都賀町家中※=1.7 宇都宮市旭※=1.7 市貝町市塙※=1.7 足利市大正町※=1.6 栃木さくら市氏家※=1.6 佐野市高砂町※=1.5 茂木町茂木※=1.5 大田原市湯津上※=1.5 栃木さくら市喜連川※=1.5 1 日光市中鉢石町※=1.4 栗山村日蔭※=1.4 上三川町しらさぎ町※=1.4 日光市中宮祠=1.3 今市市本町※=1.3 足尾町松原※=1.3 塩谷町玉生※=1.3 那須烏山市中央=1.3 今市市瀬川=1.2 芳賀町祖母井※=1.1 矢板市本町※=1.1 那須烏山市大金※=1.1 那須塩原市あご町※=1.0 栃木那珂川町馬頭※=0.9 栃木藤原町藤原※=0.8 栃木那珂川町小川※=0.7 那須烏山市役所※=0.6 茨城県 3 坂東市役所※=3.1 茨城八千代町菅谷※=2.9 城里町阿波山※=2.9 桜川市岩瀬※=2.9 石岡市柿岡=2.8 友部町中央※=2.8 筑西市舟生=2.7 水戸市内原町※=2.6 筑西市門井※=2.6 石岡市八郷※=2.6 坂東市山※=2.6 桜川市羽田※=2.5 常陸大宮市野口※=2.5 下妻市本城町※=2.5 茨城小川町小川※=2.5 笠間市石井※=2.5 2 水戸市金町=2.4 土浦市下高津※=2.4 古河市仁連※=2.4 茨城境町旭町※=2.4 筑西市下中山※=2.3	36° 11.2' N	140° 01.6' E	52km	M: 4.3

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
		筑西市海老ヶ島＊=2.3 かすみがうら市上土田＊=2.3 桜川市真壁＊=2.3 鉾田市造谷＊=2.3 城里町石塚＊=2.3 岩間町下郷＊=2.3 常陸太田市町屋＊=2.2 美野里町堅倉＊=2.2 日立市助川町＊=2.2 茨城鹿嶋市鉢形=2.2 玉里村上玉里＊=2.2 行方市甲＊=2.1 土浦市大岩田=2.1 茨城町小堤＊=2.1 坂東市岩井=2.1 常陸大宮市山方＊=2.1 つくば市谷田部＊=2.1 日立市十王町友部＊=2.1 常総市新石下＊=2.0 五霞町小福田＊=2.0 水戸市中央＊=2.0 美浦村受領＊=2.0 稲敷市結佐＊=2.0 鉾田市鉾田=2.0 つくば市小茎＊=2.0 常陸大宮市中富町=1.9 かすみがうら市大和田＊=1.9 結城市結城＊=1.9 古河市下大野＊=1.9 茨城新治村藤沢＊=1.8 下妻市鬼怒＊=1.8 稲敷市江戸崎＊=1.8 稲敷市柴崎＊=1.7 守谷市大柏＊=1.7 行方市麻生＊=1.7 常総市水海道諏訪町＊=1.7 茨城伊奈町福田＊=1.6 潮来市辻＊=1.6 鉾田市汲上＊=1.6 常陸大宮市上小瀬＊=1.6 那珂市福田＊=1.6 常陸太田市金井町＊=1.6 阿見町中央＊=1.5 城里町徳蔵＊=1.5 石岡市石岡＊=1.5 那珂市瓜連＊=1.5 行方市山田＊=1.5 1 ひたちなか市東石川＊=1.4 常陸大宮市高部＊=1.4 谷和原村加藤＊=1.4 稲敷市須賀津＊=1.3 大子町池田＊=1.3 常陸太田市町田町＊=1.3 東海村白方＊=1.3 神栖市溝口＊=1.2 利根町布川=1.2 取手市井野＊=1.2 大洗町磯浜町＊=1.1 取手市藤代＊=1.1 高萩市本町＊=1.0 龍ヶ崎市寺後＊=0.9 常陸太田市大中町＊=0.8 北茨城市磯原町＊=0.8 茨城河内町源清田＊=0.7 3 春日部市金崎＊=2.7 久喜市下早見=2.5 2 熊谷市大里＊=2.4 羽生市東＊=2.3 鷲宮町鷲宮＊=2.3 桶川市泉＊=2.3 さいたま岩槻区本町＊=2.3 幸手市東＊=2.2 栗橋町間鎌＊=2.1 宮代町笠原＊=2.1 鴻巣市中央＊=2.0 江南町中央＊=2.0 八潮市中央＊=2.0 行田市本丸＊=2.0 東松山市松葉町＊=2.0 蓮田市黒浜＊=1.9 大利根町北下新井＊=1.9 春日部市谷原新田＊=1.9 草加市高砂＊=1.9 菖蒲町新堀＊=1.8 白岡町千駄野＊=1.8 杉戸町清地＊=1.8 和光市広沢＊=1.8 北本市本町＊=1.7 北川辺町麦倉＊=1.7 吉川市吉川＊=1.7 上尾市本町＊=1.7 松伏町松伏＊=1.6 さいたま浦和区高砂=1.6 鴻巣市吹上富士見＊=1.6 三郷市幸房＊=1.6 滑川町福田＊=1.5 嵐山町杉山＊=1.5 埼玉美里町木部＊=1.5 1 行田市南河原＊=1.4 加須市下三保＊=1.4 吉見町下細谷＊=1.4 朝霞市本町＊=1.4 志木市中宗岡＊=1.4 さいたま中央区下落合＊=1.4 熊谷市桜町=1.3 戸田市上戸田＊=1.3 越生町越生＊=1.3 さいたま浦和区常盤＊=1.2 川越市旭町=1.2 越谷市越ヶ谷＊=1.1 富士見市鶴馬＊=1.1 坂戸市千代田＊=1.1 三芳町藤久保＊=1.1 ふじみ野市福岡＊=1.1 熊谷市妻沼＊=1.1 川口市青木＊=1.1 深谷市花園＊=1.0 蕨市中央＊=1.0 鳩山町大豆戸=0.9 毛呂山町岩井＊=0.9 本庄市児玉町=0.9 狭山市入間川＊=0.8 長瀬町本野上＊=0.7 深谷市仲町＊=0.7 鳩ヶ谷市三ツ和＊=0.6 秩父市上町=0.5 入間市豊岡＊=0.5 2 白河市表郷＊=1.7 福島県 1 泉崎村泉崎＊=1.1 白河市東＊=1.1 平田村永田＊=1.0 福島玉川村小高＊=0.9 棚倉町棚倉=0.8 矢祭町東館＊=0.8 いわき市小名浜=0.7 浅川町浅川＊=0.7 白河市郭内=0.6 田村市都路町＊=0.5 群馬県 2 邑楽町中野＊=2.3 館林市城町＊=1.9 群馬明和町新里＊=1.7 大泉町日の出＊=1.7 群馬板倉町板倉=1.6 群馬千代田町赤岩＊=1.6 沼田市利根町＊=1.5 桐生市新里町＊=1.5 1 桐生市黒保根町＊=1.3 太田市浜町＊=1.2 前橋市粕川町＊=1.1 富士見村田島＊=1.1 大岡々町大岡々＊=1.1 沼田市西倉内町=1.0 伊勢崎市西久保町＊=1.0 片品村東小川=0.9 太田市粕川町＊=0.9 伊勢崎市今泉町＊=0.8 勢多郡東村花輪＊=0.7 桐生市織姫町=0.7 太田市新田金井町＊=0.7 伊勢崎市東町＊=0.6 千葉県 2 柏市旭町=2.3 佐原市佐原=2.1 野田市鶴奉＊=2.1 野田市東宝珠花＊=2.1 鎌ヶ谷市初富＊=2.0 佐原市役所＊=1.9 千葉山田町仁良＊=1.9 成田市花崎町=1.9 佐倉市海隣寺町＊=1.8 芝山町小池＊=1.7 印西市大森＊=1.7 印旛村瀬戸＊=1.7 千葉神崎町神崎本宿＊=1.7 柏市大島田＊=1.6 我孫子市我孫子＊=1.5 四街道市鹿渡＊=1.5 千葉酒々井町中央＊=1.5 本埜村笠神＊=1.5 千葉大栄町松子＊=1.5 1 白井市復＊=1.4 小見川町羽根川＊=1.3 多古町多古=1.3 成田市役所＊=1.3 浦安市猫実＊=1.3 流山市平和台＊=1.2 八千代市大和田新田＊=1.2 千葉栄町安食台＊=1.2 旭市ニ＊=1.2 栗源町岩部＊=1.2 匝瑺市八日市場ハ＊=1.2 習志野市鷺沼＊=1.1 富里市七栄＊=1.1 松戸市根本＊=1.1 旭市南堀之内＊=1.0 旭市菰園＊=1.0 八街市八街＊=1.0 船橋市湊町＊=0.9 東金市東新宿=0.9 東金市東岩崎＊=0.8 大多喜町大多喜＊=0.8 旭市高生＊=0.8 柏市柏＊=0.8 光町宮川＊=0.7 千葉中央区中央港=0.7 市川市八幡＊=0.7 木更津市潮見=0.7 横芝町横芝＊=0.5 東京都 2 東京江戸川区中央=2.1 東京文京区大塚＊=2.0 東京練馬区光が丘＊=1.9 東京千代田区大手町=1.8 東京中野区江古田＊=1.8 東京杉並区高井戸＊=1.8 東京板橋区相生町＊=1.8 東京足立区神明南＊=1.7 三鷹市野崎＊=1.7 東京港区南青山＊=1.6 東京足立区伊興＊=1.5 1 東京文京区本郷＊=1.4 東京江戸川区鹿骨＊=1.4 東京新宿区百人町＊=1.3 東京江東区枝川＊=1.3 東京荒川区東尾久＊=1.3 東京品川区平塚＊=1.2 東京江戸川区船堀＊=1.2 武蔵野市緑町＊=1.2 武蔵野市吉祥寺東町＊=1.2 東京中央区築地＊=1.1 東京墨田区東向島＊=1.1 東京世田谷区成城＊=1.1 東京北区赤羽南＊=1.1 東京練馬区東大泉＊=1.1 東京中央区日本橋兜町＊=1.0 東京中央区勝どき＊=1.0 町田市中町＊=1.0 国分寺市戸倉=1.0 東京大田区本羽田＊=1.0 東京中野区中央＊=1.0 東京品川区北品川＊=0.9 東京世田谷区世田谷＊=0.9 東京世田谷区中町＊=0.9 東京港区白金＊=0.9 東京江東区東陽＊=0.9 町田市役所＊=0.9 東京品川区広町＊=0.9 東京台東区東上野＊=0.8 東京荒川区荒川＊=0.8 東京墨田区吾妻橋＊=0.8 東京足立区中央本町＊=0.8 東京目黒区中央町＊=0.8 東京台東区千束＊=0.7 東京大田区多摩川＊=0.6 東京江東区亀戸＊=0.6 神奈川県 2 川崎宮前区宮前平＊=2.3 1 横浜鶴見区下末吉＊=1.4 横浜港北区日吉本町＊=1.3 横浜青葉区市が尾町＊=1.3 横浜緑区十日市場＊=1.2 横浜保土ヶ谷区上菅田町＊=1.1 横浜都筑区茅ヶ崎＊=1.1 川崎幸区戸手本町＊=1.1 川崎中原区小杉町＊=1.1 川崎宮前区野川＊=1.1 横浜中区山手町=1.0 横浜中区山田町＊=1.0 横浜緑区白山町＊=1.0 横浜青葉区榎が丘＊=1.0 川崎川崎区宮前町＊=1.0 川崎高津区下作延＊=1.0 相模原市大島＊=1.0 相模原市相模大野＊=1.0 城山町久保沢＊=0.9 横浜南区別所＊=0.8 横浜磯子区洋光台＊=0.8 横浜港南区丸山台東部＊=0.8 横浜瀬谷区中屋敷＊=0.8 川崎中原区小杉陣屋=0.8 綾瀬市深谷＊=0.8 相模原市上溝＊=0.8 津久井町中野＊=0.8 川崎多摩区登戸＊=0.7 三浦市城山町＊=0.7 座間市緑が丘＊=0.7 神奈川清川村煤ヶ谷＊=0.5 山梨県 1 小菅村役場＊=0.7				

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
41	15 07 15	静岡県 1 東伊豆町奈良本*0.6 熱海市網代=0.5				
		八丈島東方沖 東京都 1 八丈町三根=0.7	33°29.0' N	141°10.7' E	51km	M: 3.7
42	15 19 54	滋賀県北部 岐阜県 2 揖斐川町東津波*1.7 本巣市下真桑*1.6 1 瑞穂市宮田*1.4 岐阜山県市高木*1.4 揖斐川町東杉原*1.2 墨俣町上宿*1.1 揖斐川町三輪=1.1 本巣市根尾*1.0 揖斐川町谷汲*1.0 岐阜北方町北方*1.0 岐南町八剣*1.0 神戸町神戸*0.9 岐阜池田町六之井*0.9 本巣市三橋*0.9 岐阜市柳津町*0.9 瑞穂市別府*0.8 大垣市丸の内*0.8 養老町高田*0.7 垂井町役場*0.6 輪之内町四郷*0.5 岐阜山県市谷合*0.5 各務原市川島河田町*0.5 岐阜市京町*0.5 笠松町司町*0.5 郡上市八幡町総合グラウンド*0.5	35°27.4' N	136°15.0' E	35km	M: 3.7
		滋賀県 2 高島市勝野*1.8 高島市マキノ町*1.5 1 西浅井町大浦*1.4 高島市今津町日置前*1.3 高島市安曇川町*1.2 高島市朽木柏*1.1 秦荘町安孫子*0.9 滋賀豊郷町石畑*0.9 木之本町木之本*0.9 長浜市高田町*0.8 米原市下多良*0.8 滋賀竜王町小口*0.8 高月町渡岸寺*0.7 愛知川町愛知川*0.7 余呉町中之郷*0.6 びわ町落合*0.6 近江八幡市桜宮町=0.6 米原市長岡*0.5 滋賀日野町河原*0.5 東近江市下中野町*0.5 東近江市躰光寺町*0.5				
		福井県 1 福井若狭町市場*1.2 小浜市四谷町*1.0 福井美浜町新庄=0.8 敦賀市松栄町=0.8 福井若狭町中央*0.7 大野市川合*0.6				
		愛知県 1 七宝町桂*0.5 一宮市緑*0.5				
43	16 03 34	神奈川県西部 静岡県 1 熱海市泉*0.5	35°10.7' N	139°06.4' E	10km	M: 1.7
44	16 07 53	茨城県沖 茨城県 2 日立市十王町友部*2.0 水戸市金町=1.8 常陸大宮市野口*1.8 常陸太田市高柿町*1.7 日立市助川町*1.7 太子町池田*1.5 茨城町小堤*1.5 那珂市瓜連*1.5 1 水戸市中央*1.4 桜川市岩瀬*1.4 美野里町堅倉*1.3 常陸大宮市上小瀬*1.3 城里町阿波山*1.3 常陸太田市町屋町=1.3 笠間市石井*1.3 常陸大宮市山方*1.2 かすみがうら市土上土田*1.2 茨城小川町小川*1.2 鉾田市汲上*1.2 城里町石塚*1.2 水戸市内原町*1.1 鉾田市鉾田=1.1 高萩市本町*1.1 岩間町下郷*1.1 筑西市門井*1.1 石岡市八郷*1.0 大洗町磯浜町*1.0 石岡市柿岡=1.0 桜川市羽田*1.0 常陸太田市金井町*0.9 土浦市大岩田=0.9 土浦市下高津*0.9 鉾田市造谷*0.9 東海村白方*0.9 北茨城市磯原町*0.9 つくば市谷田部*0.9 筑西市海老ヶ島*0.9 常陸太田市町田町*0.9 友部町中央*0.9 玉里村上玉里*0.8 那珂市福田*0.7 常陸大宮市中富町=0.7 茨城鹿嶋市鉢形=0.7 かすみがうら市大和田*0.6 美浦村受領*0.6 桜川市真壁*0.6 茨城八千代町菅谷*0.6 ひたちなか市東石川*0.5	36°32.6' N	140°54.6' E	49km	M: 4.0
		福島県 1 矢祭町東館*1.1 白河市東*1.0 棚倉町棚倉=0.6 福島玉川村小高*0.6 浅川町浅川*0.6 栃木県 1 栃木二宮町石島*1.4 足利市大正町*1.2 市貝町市場*1.1 上河内町中里*1.0 那須烏山市中央=1.0 日光市中鉢石町*0.9 益子町益子=0.9 足利市名草上町=0.8 真岡市荒町*0.8 足尾町松原*0.8 宇都宮市明保野町=0.8 大田原市湯津上*0.7 茂木町茂木*0.7 佐野市高砂町*0.7 鹿沼市今宮町*0.7 那須烏山市大金*0.6 鹿沼市口栗野*0.6 日光市中宮祠=0.5				
		群馬県 1 桐生市新里町*0.9 桐生市黒保根町*0.9 沼田市利根町*0.7 片品村東小川=0.5				
		埼玉県 1 嵐山町杉山*0.7 滑川町福田*0.5				
		千葉県 1 佐原市佐原=0.6				
45	16 16 38	青森県東方沖 青森県 1 東通村砂子又*1.2 六ヶ所村尾駁=0.5	41°28.6' N	142°00.3' E	63km	M: 3.6
46	16 16 58	福岡県西方沖 福岡県 1 福岡西区玄界島=0.8	33°42.3' N	130°15.7' E	4km	M: 1.9
47	16 19 51	島根県東部 鳥取県 1 鳥取南部町法勝寺*0.6 鳥取南部町天萬*0.6	35°20.3' N	133°18.4' E	10km	M: 2.2
48	16 20 23	岩手県内陸南部 宮城県 1 栗原市栗駒=0.9	38°51.3' N	141°00.8' E	9km	M: 1.6
49	17 03 01	新島・神津島近海 東京都 1 新島村式根島=0.5	34°20.6' N	139°08.3' E	0km	M: 1.6
50	17 19 44	日高支庁東部 北海道 1 忠類村忠類*0.7	42°19.7' N	143°00.7' E	53km	M: 3.3
51	18 08 46	奄美大島近海 鹿児島県 1 喜界町滝川=0.6	28°42.1' N	129°38.4' E	18km	M: 3.6
52	18 11 11	奄美大島近海 鹿児島県 1 喜界町滝川=1.4 名瀬市港町=1.2 龍郷町屋入=1.0	28°42.9' N	129°38.0' E	18km	M: 4.8

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
53	18 11 38	奄美大島近海 鹿児島県	28°42.5' N	129°39.1' E	19km	M: 4.1
54	18 23 25	福島県沖 岩手県	37°47.9' N	142°12.0' E	36km	M: 5.7
		宮城県				3 陸前高田市高田町※=3.2 一関市室根町※=2.8 一関市千厩町※=2.5 矢巾町南矢幅※=2.5 2 藤沢町藤沢※=2.4 一関市花泉町※=2.2 前沢町七日町※=2.2 平泉町平泉※=2.2 花巻市東和町※=2.1 大槌町新町※=2.1 江刺市大通り※=2.1 大船渡市大船渡町=2.1 衣川村古戸※=2.1 花巻市材木町※=2.1 二戸市福岡=2.0 岩手胆沢町南都田※=1.9 盛岡市山王町=1.9 北上市柳原町=1.9 一関市山目※=1.9 八幡平市野駄※=1.9 花巻市石鳥谷町※=1.9 紫波町日詰※=1.9 盛岡市玉山区※=1.9 金ヶ崎町西根※=1.8 遠野市松崎町※=1.8 大船渡市猪川町=1.7 花巻市大迫町=1.7 金石市只越町=1.7 普代村銅屋※=1.7 野田村野田※=1.7 滝沢村鶴飼※=1.7 一関市舞川=1.7 一関市川崎町※=1.6 一戸町高善寺※=1.6 遠野市宮守町※=1.6 水沢市大鐘町=1.6 宮古市五月町※=1.6 宮古市田老※=1.5 住田町世田※=1.5 洋野町大野※=1.5 1 二戸市浄法寺町※=1.4 岩手町五日市※=1.4 八幡平市大更=1.4 一関市大東町=1.4 盛岡市馬場町※=1.3 雫石町千刈田=1.3 宮古市鎌ヶ崎=1.3 岩手川井村川井※=1.3 九戸村伊保内※=1.3 大船渡市盛町※=1.3 軽米町軽米※=1.2 宮古市茂市※=1.2 西和賀町川尻※=1.2 久慈市川崎町=1.2 岩手山田町八幡町=1.2 八幡平市叭田※=1.1 花巻市大迫総合支所※=1.0 一関市東山町※=1.0 葛巻町葛巻=0.9 西和賀町沢内太田※=0.9 洋野町種市=0.8 田野畑村田野畑=0.6 3 石巻市門脇※=3.2 石巻市桃生町※=3.2 涌谷町新町=3.2 登米市迫町※=3.1 登米市南方町※=3.0 岩沼市桜※=3.0 登米市米山町※=2.9 東松島市矢本※=2.8 南三陸町歌津※=2.8 宮城美里町木間塚※=2.8 栗原市金成※=2.8 宮城田尻町沼部※=2.7 丸森町鳥屋※=2.7 角田市角田※=2.7 名取市増田※=2.6 宮城松山町千石※=2.6 栗原市若柳※=2.6 鹿島台町平渡※=2.6 登米市中田町=2.6 古川市三日町=2.6 石巻市泉町=2.5 気仙沼市赤岩=2.5 石巻市鮎川浜※=2.5 大河原町新南※=2.5 石巻市前谷地※=2.5 亘理町下小路※=2.5 唐桑町馬場※=2.5 栗原市築館※=2.5 宮城美里町北浦※=2.5 2 栗原市一迫※=2.4 南三陸町志津川=2.4 蔵王町円田※=2.4 宮城川崎町前川※=2.4 山元町浅生原※=2.4 栗原市高清水※=2.3 石巻市相野谷※=2.3 栗原市瀬峰※=2.3 栗原市志波姫※=2.3 宮城加美町新田※=2.3 塩竈市旭町※=2.3 色麻町四蔵※=2.3 東松島市小野※=2.2 仙台若林区遠見塚※=2.2 栗原市栗駒=2.2 石巻市北上町※=2.2 大衡村大衡※=2.2 利府町利府※=2.2 登米市登米町※=2.2 仙台宮城野区苦竹※=2.1 登米市東和町※=2.1 三本木町三本木※=2.1 村田町村田※=2.0 仙台宮城野区五輪=2.0 大郷町粕川※=2.0 鳴子町鬼首※=2.0 白石市亘理町※=2.0 宮城加美町小野田※=2.0 登米市豊里町※=1.9 仙台青葉区大倉=1.9 仙台青葉区雨宮※=1.9 宮城大和町吉岡※=1.8 栗原市花山※=1.8 石巻市大広=1.8 栗原市鶯沢※=1.8 仙台青葉区落合※=1.7 仙台太白区山田※=1.7 岩出山町船場※=1.7 女川町女川浜※=1.7 七ヶ宿町関※=1.7 富谷町富谷※=1.6 本吉町津谷※=1.6 登米市石越町※=1.6 柴田町船岡=1.6 宮城加美町宮崎※=1.6 石巻市雄勝町※=1.6 七ヶ浜町東宮浜※=1.5 丸森町上滝=1.5 1 宮城松島町松島=1.4 登米市津山町※=1.3 多賀城市中央※=0.8 3 福島国見町藤田※=2.8 相馬市中村※=2.7 田村市大越町※=2.6 福島伊達市霊山町※=2.6 田村市都路町※=2.5 楡葉町北田※=2.5 浪江町幾世橋=2.5 2 福島市松木町=2.4 福島市五老内町※=2.4 福島玉川村小高※=2.4 大熊町下野上※=2.4 南相馬市鹿島区※=2.4 二本松市針道※=2.3 福島本宮町万世※=2.3 福島白沢村糠沢※=2.3 福島伊達市前川原※=2.3 福島伊達市保原町※=2.3 福島双葉町新山※=2.3 新地町谷地小屋※=2.3 南相馬市小高区※=2.3 二本松市油井※=2.2 桑折町東大隅※=2.2 川俣町五百田※=2.2 天栄村下松本※=2.2 田村市滝根町※=2.2 川内村上川内※=2.2 福島伊達市梁川町※=2.1 福島伊達市月館町※=2.1 富岡町本岡※=2.1 鏡石町鏡田※=2.1 須賀川市岩瀬支所※=2.0 白河市表郷※=2.0 白河市東※=2.0 須賀川市八幡町※=2.0 浅川町浅川※=1.9 田村市船引町=1.9 二本松市金色※=1.9 いわき市小名浜=1.9 飯館村伊丹沢※=1.9 郡山市朝日=1.9 白河市大信※=1.8 矢吹町一本木※=1.8 平田村永田※=1.8 南相馬市原町区三島町=1.8 古殿町松川※=1.8 猪苗代町城南=1.8 田村市常葉町※=1.8 大玉村玉井※=1.8 棚倉町棚倉=1.7 白河市郭内=1.7 泉崎村泉崎※=1.6 南相馬市原町区本町※=1.6 会津坂下町市中三番甲※=1.6 会津美里町新鶴庁舎※=1.6 小野町小野新町※=1.6 須賀川市長沼支所※=1.6 川内村下川内=1.6 福島西郷村熊倉※=1.5 石川町下泉※=1.5 いわき市平※=1.5 飯野町飯野※=1.5 大玉村曲藤=1.5 1 三春町大町※=1.4 広野町下北迫※=1.4 葛尾村落合※=1.4 白河市八幡小路※=1.3 矢祭町東館※=1.3 磐梯町磐梯※=1.3 会津美里町本郷庁舎※=1.2 会津若松市東栄町※=1.1 会津若松市材木町=0.9 塙町塙※=0.9 西会津町野沢=0.8 二本松市小浜※=0.8 田島町田島=0.7 鮫川村赤坂中野※=0.5 2 八戸市南郷区※=1.7 階上町道仏※=1.6 1 六戸町犬落瀬※=1.4 下田町中下田※=1.4 七戸町森ノ上※=1.3 百石町上明堂※=1.3 五戸町古館=1.3 青森南部町苦米地※=1.3 七戸町七戸※=1.2 東北町上北南※=1.2 十和田市西十二番町※=1.1 青森南部町平※=1.1 五戸町倉石中市※=1.0 田子町田子※=1.0 藤崎町水木※=0.8 三沢市桜町※=0.8 三戸町在府小路※=0.8 野辺地町野辺地※=0.7 東北町塔ノ沢山※=0.7 平川市猿賀※=0.7 平内町小湊=0.7 青森市浪岡※=0.7 外ヶ浜町蟹田※=0.6 平川市柏木町※=0.6 つがる市木造※=0.6 新郷村戸来※=0.6 八戸市湊町=0.5 藤崎町西豊田※=0.5 中泊町小泊※=0.5 2 由利本荘市西目町沼田※=1.7 大仙市高梨※=1.7 秋田市雄和妙法※=1.6 大仙市刈和野※=1.6 秋田山本町豊岡※=1.5 秋田井川町北川尻※=1.5 大仙市大曲花園町※=1.5 1 秋田市河辺和田※=1.4 由利本荘市前郷※=1.4 横手市大雄※=1.4 秋田市消防庁舎※=1.2 にかほ市平沢※=1.1 秋田美郷町飯詰※=1.1 横手市中央町※=1.0 能代市上町※=1.0 湯沢市沖鶴=1.0 湯沢市川連町※=1.0 東成瀬村田子内※=1.0 秋田美郷町土崎※=1.0 五城目町西磯ノ目=1.0 大仙市北長野※=1.0 秋田市山王=1.0 秋田市雄和女米木=1.0 大仙市協和境※=0.9 仙北市田沢湖生保内※=0.9 羽後町西馬音内※=0.9 横手市平鹿町浅舞※=0.9 秋田美郷町六郷※=0.9 大仙市神宮寺※=0.9 由利本荘市尾崎※=0.9 仙北市角館町=0.8 由利本荘市岩谷町※=0.8 大館市比内町扇田※=0.8 横手市雄物川町今宿=0.8 横手市増田町増田※=0.8 横手市大森町※=0.8 横手市山内土洩※=0.7 由利本荘市矢島町矢島町※=0.7 由利本荘市岩城内道川※=0.7 八郎潟町大道※=0.7 潟上市昭和久保※=0.7 秋田美郷町六郷東根=0.7 潟上市天王※=0.7
		秋田県				

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
		山形県 北秋田市阿仁銀山※=0.7 大仙市南外※=0.7 大仙市太田町太田※=0.7 二ツ井町上台※=0.7 横手市十文字町※=0.7 仙北市西木町上荒井※=0.6 にかほ市金浦※=0.6 にかほ市象潟町浜ノ田※=0.6 大館市中城※=0.6 湯沢市佐竹町※=0.6 由利本荘市東由利老方※=0.6 上小阿仁村小沢田※=0.5 由利本荘市石脇※=0.5 由利本荘市烏海町伏見※=0.5 八森町中浜※=0.5 八竜町鶴川※=0.5 2 山形中山町長崎※=2.2 南陽市三間通※=1.9 天童市老野森※=1.8 山辺町緑ヶ丘※=1.8 高島町高島※=1.8 上山市河崎※=1.7 東根市中央※=1.7 山形河北町役場※=1.7 米沢市駅前=1.7 米沢市金池※=1.7 白鷹町荒砥※=1.6 酒田市飛鳥※=1.6 尾花沢市若葉町※=1.6 山形河北町谷地=1.6 遊佐町遊佐=1.5 1 新庄市東谷地田町=1.4 酒田市亀ヶ崎=1.3 酒田市山田※=1.3 戸沢村古口※=1.3 大石田町緑町※=1.2 寒河江市中央※=1.2 山形市緑町=1.1 舟形町舟形※=1.1 山形小国町岩井沢=1.0 飯豊町椿※=1.0 新庄市沖の町※=1.0 山形市旅籠町※=0.9 白鷹町黒鴨=0.8 鶴岡市温海川=0.7 2 日立市助川町※=2.0 常陸太田市高柿町※=1.9 日立市十王町友部※=1.8 常陸大宮市野口※=1.8 桜川市岩瀬※=1.8 常陸太田市金井町※=1.7 笠間市石井※=1.7 友部町中央※=1.7 水戸市金町=1.6 水戸市内原町※=1.6 大子町池田※=1.6 城里町石塚※=1.6 常陸大宮市山方※=1.5 那珂市瓜連※=1.5 城里町阿波山※=1.5 筑西市舟生=1.5 1 美野里町堅倉※=1.4 石岡市柿岡=1.4 石岡市八郷※=1.4 筑西市門井※=1.4 桜川市真壁※=1.4 水戸市中央※=1.3 茨城町小堤※=1.3 茨城小川町小川※=1.3 那珂市福田※=1.3 つくば市谷田部※=1.3 玉里村上玉里※=1.3 桜川市羽田※=1.3 茨城新治村藤沢※=1.2 高萩市本町※=1.2 岩間町下郷※=1.2 土浦市下高津※=1.1 北茨城市磯原町※=1.1 坂東市山※=1.1 かすみがうら市上土田※=1.1 鉾田市汲上※=1.1 東海村白方※=1.1 土浦市大岩田=1.0 常陸太田市大中町※=1.0 常陸大宮市中富町=0.9 常陸大宮市高部※=0.9 常陸大宮市上小瀬※=0.9 常陸太田市町屋町=0.9 常陸太田市町田町※=0.9 茨城鹿嶋市鉢形=0.9 美浦村受領※=0.9 茨城八千代町菅谷※=0.9 筑西市下中山※=0.9 鉾田市鉾田=0.9 鉾田市造谷※=0.9 坂東市役所※=0.8 筑西市海老ヶ島※=0.8 ひたちなか市東石川※=0.8 五霞町小福田※=0.8 かすみがうら市大和田※=0.7 坂東市岩井=0.7 利根町布川=0.5 2 大田原市湯津上※=2.0 益子町益子=1.9 高根沢町石末※=1.9 那須町寺子※=1.8 栃木河内町白沢※=1.7 栃木二宮町石島※=1.7 那須烏山市中央=1.7 宇都宮市明保野町=1.6 市貝町市塙※=1.6 大田原市本町※=1.5 1 栃木那珂川町小川※=1.4 那須塩原市共墾社※=1.3 那須塩原市あたご町※=1.3 上河内町中里※=1.3 栃木那珂川町馬頭※=1.3 今市市本町※=1.2 矢板市本町※=1.2 真岡市荒町※=1.2 芳賀町祖母井※=1.2 栃木さくら市喜連川※=1.2 那須烏山市大金※=1.2 大田原市黒羽田町=1.1 茂木町茂木※=1.1 鹿沼市今宮町※=1.0 下野市小金井※=1.0 日光市中宮祠=0.9 那須烏山市役所※=0.8 下野市石橋※=0.8 今市市瀬川=0.8 那須塩原市麓沼=0.8 日光市中鉢石町※=0.6 栃木市旭町=0.6 1 富士見村田島※=0.9 邑楽町中野※=0.8 桐生市黒保根町※=0.7 沼田市利根町※=0.5 伊勢崎市西久保町※=0.5 1 春日部市谷原新田※=1.2 久喜市下早見=1.1 加須市下三俣※=0.9 熊谷市大里※=0.8 行田市南河原※=0.6 吉見町下細谷※=0.6 行田市本丸※=0.5 1 成田市花崎町=1.0 多古町多古=0.5 1 東京千代田区大手町=0.6 1 新潟市味方※=1.4 南魚沼市六日町=1.2 新潟市能登※=1.2 見附市昭和町※=1.1 阿賀野市岡山町※=0.9 阿賀町津川※=0.9 1 長野南牧村海ノ口※=0.5				
55	19 02 34	福島県沖 宮城県 37°48.1' N 142°09.5' E 35km M: 4.2 1 石巻市桃生町※=0.6				
56	19 04 55	紀伊水道 和歌山県 34°11.5' N 135°08.7' E 6km M: 2.7 1 和歌山市一番丁※=1.2 和歌山市男野芝丁=0.8				
57	19 06 53	釧路沖 北海道 43°02.0' N 144°46.6' E 84km M: 4.2 2 厚岸町尾幌=1.8 釧路市幸町=1.6 1 弟子屈町美里=1.2 釧路町別保※=1.1 別海町常盤=1.1 釧路市音別町=0.8 中標津町養老牛=0.5				
58	19 09 08	熊野灘 奈良県 33°46.1' N 136°15.3' E 31km M: 2.7 1 下北山村寺垣内※=0.7				
59	19 12 33	新島・神津島近海 東京都 34°13.4' N 139°09.3' E 11km M: 2.8 2 新島村式根島=1.6 神津島村金長=1.5				
60	20 06 50	沖縄本島近海 沖縄県 26°17.8' N 127°19.8' E 49km M: 3.8 1 豊見城市上田※=0.8 渡嘉敷村渡嘉敷※=0.8 久米島町謝名堂=0.6 西原町嘉手苅※=0.5				
61	20 11 55	青森県東方沖 岩手県 40°39.6' N 142°18.0' E 42km M: 3.4 1 洋野町大野※=0.6				
62	21 23 30	鹿島灘 茨城県 36°25.2' N 140°47.9' E 46km M: 3.9 2 常陸大宮市上小瀬※=1.6 1 常陸大宮市山方※=1.4 那珂市福田※=1.2 常陸大宮市野口※=1.1 美野里町堅倉※=1.0 水戸市金町=1.0 水戸市内原町※=1.0 常陸太田市高柿町※=1.0 城里町阿波山※=1.0 つくば市谷田部※=1.0 大子町池田※=0.9 笠間市石井※=0.9 桜川市羽田※=0.9 友部町中央※=0.8 茨城小川町小川※=0.7 石岡市柿岡=0.7 岩間町下郷※=0.7 日立市助川町※=0.6 那珂市瓜連※=0.6 茨城八千代町菅谷※=0.6 水戸市中央※=0.6 土浦市大岩田=0.5 筑西市海老ヶ島※=0.5 土浦市下高津※=0.5 常陸大宮市高部※=0.5 玉里村上玉里※=0.5				

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
		福島県 栃木県 群馬県	1 浅川町浅川* 1 大田原市湯津上* 那須烏山市中央* 茂木町茂木* 1 桐生市黒保根町*	浅川* 上河内町中里* 栃木二宮町石島* 市貝町市塙* 那珂川町小川* 日光市中鉢石町* 栃木那珂川町馬頭* 宇都宮市明保野町*	*0.5 *1.0 *1.0 *0.7 *0.8 *0.7 *0.7 *0.5	
63	22 01 01	茨城県南部 茨城県 栃木県 群馬県	35°59.7' N 2 筑西市海老ヶ島* 1 玉里村上玉里* 土浦市下高津* 岩間町下郷* 石岡市石岡* 美野里町堅倉* 友部町中央* 銚田市造谷* 美浦村受領* かすみがうら市大和田* 茨城八千代町菅谷* 牛久市中央* 筑西市舟生* 1 栃木二宮町石島* 1 沼田市利根町*	140°13.6' E 石岡市柿岡=1.5 小川* かすみがうら市上土田* 石岡市八郷* 桜川市岩瀬* 桜川市羽田* 桜川市真壁* 銚田市造谷* 美浦村受領* かすみがうら市大和田* 茨城八千代町菅谷* 牛久市中央* 筑西市舟生* 栃木市旭町* 足尾町松原* 足利市市草上町* 芳賀町祖母井*	*0.5 *1.0 *1.0 *0.9 *0.7 *0.7 *0.6 *0.6 *0.6 *0.5 *0.5 *0.5 *0.5 *0.6 *0.6 *0.5	42km M: 3.5
64	22 01 13	大分県中部 大分県	33°17.6' N 1 別府市鶴見=1.1	131°28.4' E	8km	M: 2.3
65	22 03 00	青森県津軽北部 青森県	40°43.8' N 1 つがる市柏* つがる市木造* 藤崎町水木* 藤崎町西豊田* 弘前市和田町* 青森市浪岡*	140°28.2' E つがる市森田町* 五所川原市栄町* つがる市木造* 藤崎町水木* 藤崎町西豊田* 弘前市和田町* 青森市浪岡*	*1.0 *1.0 *0.5 *0.8 *0.7 *0.7 *0.5	16km M: 2.7
66	22 03 59	長野県北部 長野県	36°38.4' N 1 須坂市須坂*=0.7	138°17.9' E	1km	M: 1.9
67	22 11 19	北海道南西沖 北海道	42°05.2' N 1 奥尻町松江=0.8 奥尻町奥尻*=0.7	139°10.5' E	21km	M: 3.8
68	22 14 57	福島県会津地方 福島県	37°25.6' N 1 福島柳津町大成沢=1.1	139°41.8' E	4km	M: 2.5
69	22 17 59	宮古島近海 沖縄県	24°49.0' N 1 宮古島市平良西仲宗根=0.7	125°24.6' E	49km	M: 3.4
70	23 03 37	宮城県北部 岩手県	38°56.7' N 1 衣川村古戸*=0.7	140°50.9' E	5km	M: 3.2
71	23 13 01	石垣島近海 沖縄県	23°53.5' N 1 竹富町大原=0.7 竹富町西表東祖納*=0.7	123°39.1' E	30km	M: 3.9
72	24 05 35	根室半島南東沖 北海道	43°18.6' N 1 別海町常盤=0.7	146°11.6' E	52km	M: 4.3
73	24 21 36	日向灘 宮崎県 鹿児島県	31°31.0' N 1 宮崎市松橋*=1.4 日南市油津=1.1 新富町上富田=0.7 日南市吾田東*=0.7 1 鹿屋市新栄町=0.5	131°55.2' E 日南市油津=1.1 新富町上富田=0.7 日南市吾田東*=0.7 鹿屋市新栄町=0.5	*1.4 *1.1 *0.7 *0.7 *0.5	25km M: 4.2
74	24 23 27	奄美大島近海 鹿児島県	29°10.6' N 1 名瀬市港町=1.0	130°09.7' E	57km	M: 4.4
75	26 03 00	宮城県沖 岩手県 宮城県	38°50.0' N 2 一関市千厩町*=1.7 1 一関市舞川=1.4 衣川村古戸*=1.1 陸前高田市高田町*=1.1 一関市大東町=1.0 平泉町平泉*=1.0 大船渡市猪川町=1.0 住田町世田米*=0.9 一関市花泉町*=0.8 遠野市松崎町*=0.8 金ヶ崎町西根*=0.8 大船渡市大船渡町*=0.7 花巻市石鳥谷町*=0.6 一関市東山町*=0.6 釜石市只越町=0.6 江刺市大通り*=0.6 花巻市大迫町=0.6 紫波町日詰*=0.5 前沢町七日町*=0.5 1 唐桑町馬場*=1.4 南三陸町歌津*=1.4 登米市中田町=1.3 栗原市栗駒=0.9 南三陸町志津川=0.8 涌谷町新町=0.8 色麻町四竈*=0.7 宮城田尻町沼部*=0.7 気仙沼市赤岩=0.7 石巻市泉町=0.6 栗原市築館*=0.6 栗原市花山*=0.6 石巻市桃生町*=0.6 登米市東和町*=0.6 栗原市志波姫*=0.5 石巻市門脇*=0.5 登米市登米町*=0.5 栗原市一迫*=0.5 栗原市瀬峰*=0.5	141°38.0' E 一関市千厩町*=1.7 一関市舞川=1.4 衣川村古戸*=1.1 陸前高田市高田町*=1.1 一関市大東町=1.0 平泉町平泉*=1.0 大船渡市猪川町=1.0 住田町世田米*=0.9 一関市花泉町*=0.8 遠野市松崎町*=0.8 金ヶ崎町西根*=0.8 大船渡市大船渡町*=0.7 花巻市石鳥谷町*=0.6 一関市東山町*=0.6 釜石市只越町=0.6 江刺市大通り*=0.6 花巻市大迫町=0.6 紫波町日詰*=0.5 前沢町七日町*=0.5 唐桑町馬場*=1.4 南三陸町歌津*=1.4 登米市中田町=1.3 栗原市栗駒=0.9 南三陸町志津川=0.8 涌谷町新町=0.8 色麻町四竈*=0.7 宮城田尻町沼部*=0.7 気仙沼市赤岩=0.7 石巻市泉町=0.6 栗原市築館*=0.6 栗原市花山*=0.6 石巻市桃生町*=0.6 登米市東和町*=0.6 栗原市志波姫*=0.5 石巻市門脇*=0.5 登米市登米町*=0.5 栗原市一迫*=0.5 栗原市瀬峰*=0.5	*1.7 *1.1 *1.1 *1.0 *1.0 *1.0 *0.8 *0.6 *0.6 *0.6 *0.6 *0.5 *	

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
79	28 09 19	和歌山県北部 和歌山県	34° 11.8' N	135° 20.4' E	7km	M: 2.4
		1 紀の川市貴志川町神戸* = 0.7 紀美野町下佐々* = 0.6				
80	29 06 28	島根県東部 島根県	35° 03.5' N	132° 41.6' E	10km	M: 2.5
		1 島根美郷町邑智高校* = 0.7				
81	30 01 05	岩手県沖 岩手県	40° 21.1' N	142° 05.2' E	50km	M: 3.4
		1 洋野町大野* = 0.9				
82	30 02 15	石垣島近海 沖縄県	24° 40.0' N	123° 55.9' E	71km	M: 4.2
		2 竹富町黒島 = 1.7 竹富町西表東祖納* = 1.7 1 竹富町大原 = 1.4 石垣市新川 = 1.1 多良間村塩川 = 0.8 石垣市登野城 = 0.8				
83	30 03 18	奄美大島近海 鹿児島県	28° 19.4' N	129° 22.9' E	32km	M: 3.3
		2 名瀬市港町 = 1.7				
84	30 17 37	栃木県南部 茨城県	36° 21.2' N	140° 05.9' E	107km	M: 3.9
		1 日立市助川町* = 1.4 筑西市舟生 = 1.0 桜川市岩瀬* = 1.0 日立市十王町友部* = 1.0 筑西市門井* = 0.8 桜川市羽田* = 0.6				
		栃木県				
		1 日光市中宮祠 = 1.1 宇都宮市明保野町 = 0.8 日光市中鉢石町* = 0.8 上河内町中里* = 0.6 那須烏山市中央 = 0.5				
		群馬県				
		1 桐生市新里町* = 0.8				
		埼玉県				
		1 久喜市下早見 = 1.0 熊谷市大里* = 0.9 行田市本丸* = 0.6				
85	31 00 19	福岡県西方沖 福岡県	33° 45.9' N	130° 06.9' E	14km	M: 3.8
		3 福岡西区玄界島 = 2.9				
		2 福岡東区東浜* = 2.2 福岡新宮町緑ヶ浜* = 1.8 福津市津屋崎* = 1.8 福岡志摩町初 = 1.7 前原市前原西* = 1.7 春日市原町* = 1.6 福岡古賀市駅東* = 1.6 福岡中央区大濠 = 1.6 須恵町須恵* = 1.6 碓井町上臼井* = 1.6 福岡中央区舞鶴* = 1.5 福岡西区今宿* = 1.5				
		1 福岡早良区百道浜* = 1.4 久山町久原* = 1.4 福津市中央* = 1.4 福津市手光 = 1.3 粕屋町仲原* = 1.3 久留米市北野町* = 1.3 大刀洗町富多* = 1.3 筑前町下高場 = 1.3 二丈町深江* = 1.2 穂波町忠隈* = 1.1 久留米市津福本町 = 1.1 宗像市東郷* = 1.1 小郡市小郡* = 1.1 福岡南区塩原* = 1.1 志免町志免* = 1.0 大野城市曙町* = 1.0 筑穂町長尾* = 1.0 大木町八町牟田* = 1.0 福岡城南区神松寺* = 1.0 筑前町篠隈* = 1.0 那珂川町西隈* = 1.0 大川市酒見* = 0.9 宗像市江口* = 0.9 福岡博多区博多駅前* = 0.9 篠栗町篠栗* = 0.9 福岡山川町立山* = 0.9 若宮町福丸* = 0.9 宇美町宇美* = 0.8 添田町添田* = 0.8 うきは市吉井町* = 0.8 朝倉町宮野* = 0.8 筑前町新町* = 0.8 久留米市城島町* = 0.8 直方市新町* = 0.7 宗像市大島* = 0.7 黒木町今* = 0.7 瀬高町小川* = 0.7 東峰村宝珠山* = 0.7 柳川市本町* = 0.7 東峰村小石原* = 0.6 筑紫野市二日市西* = 0.6 飯塚市川島 = 0.6 福岡早良区板屋 = 0.6 杷木町池田* = 0.6 桂川町土居* = 0.6 行橋市中央* = 0.6 久留米市三潞町* = 0.6 久留米市田主丸町* = 0.5 福岡広川町新代* = 0.5 福岡勝山町上田* = 0.5 筑後市山ノ井* = 0.5				
		佐賀県				
		2 唐津市呼子* = 1.5 基山町宮浦* = 1.5				
		1 唐津市西城内 = 1.3 唐津市浜玉* = 1.2 佐賀市三瀬* = 1.2 佐賀玄海町諸浦* = 1.1 みやき町中原* = 1.1 唐津市七山* = 1.0 佐賀市駅前中央 = 1.0 佐賀市大和* = 1.0				
		長崎県				
		1 壱岐市芦辺町芦辺* = 1.3 佐世保市千尽町 = 1.1 鹿町町下歌ヶ浦* = 1.1 長崎市長浦町 = 0.8 平戸市岩の上町 = 0.7 平戸市生月町* = 0.5				
		熊本県				
		1 菊池市旭志* = 0.9				
		大分県				
		1 日田市三本松 = 0.5				
86	31 14 12	栃木県北部 群馬県	36° 37.0' N	139° 22.8' E	8km	M: 2.5
		1 沼田市利根町* = 0.9				

● 付表 2. 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数 ＜平成 17 年（2005 年）1 月～平成 18 年（2006 年）1 月＞

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2006年 1 月	61	20	4	1						86	
2005年12月	58	28	10	3						99	
2005年11月	47	23	8	2						80	
2005年10月	57	24	7	2	1					91	19日 茨城県沖（震度 5 弱）
2005年 9 月	59	27	5	1						92	
2005年 8 月	89	29	8	1		1	1			129	16日 宮城県沖（震度 6 弱：1 回、 震度 2：3 回、震度 1：11 回） 21日 新潟県中越地方（震度 5 強）
2005年 7 月	81	31	11	4		1				128	23日 千葉県北西部（震度 5 強）
2005年 6 月	81	44	8	3	2					138	3日 熊本県天草芦北地方（震度 5 弱） 20日 新潟県中越地方（震度 5 弱） 福岡県西方沖の地震の余震 （震度 2：3 回、震度 1：14 回）
2005年 5 月	82	34	13	5						134	福岡県西方沖の地震の余震 （震度 4：1 回、震度 2：7 回、 震度 1：15 回）
2005年 4 月	119	53	13	7		2				194	11日 千葉県北東部（震度 5 強） 福岡県西方沖の地震の余震 （震度 5 強：1 回、 震度 4：5 回、震度 3：9 回、 震度 2：26 回、震度 1：45 回）
2005年 3 月	231	129	25	3			1			389	20日 福岡県西方沖（震度 6 弱：1 回、 震度 4：1 回、震度 3：14 回、 震度 2：82 回、震度 1：152 回） 新潟県中越地震の余震 （震度 3：4 回、震度 2：7 回、 震度 1：6 回）
2005年 2 月	65	26	8	2	1					102	16日 茨城県南部（震度 5 弱） 新潟県中越地震の余震 （震度 3：2 回、震度 2：4 回、 震度 1：7 回）
2005年 1 月	86	38	6	5		1				136	18日 釧路沖（震度 5 強：1 回、 震度 2：5 回、震度 1：6 回） 新潟県中越地震の余震 （震度 4：2 回、震度 3：1 回、 震度 2：12 回、震度 1：6 回）
2005年計	1055	486	122	38	4	5	2			1712	（平成17年 1 月～平成17年12月）
過去 1 年計	1030	468	120	34	4	4	2			1662	（平成17年 2 月～平成18年 1 月）

注)①「記事」欄の「*」は関連の地震で震度 1 以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度 5 弱以上を観測した地震、または震度 1 以上を 10 回以上観測した地震活動について記載した。

②地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成 9 (1997) 年 11 月 10 日 秋田県、埼玉県、横浜市（神奈川県）、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県
平成 10 (1998) 年 6 月 15 日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県
10 月 15 日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
宮崎県、鹿児島県
平成 11 (1999) 年 7 月 21 日 東京都、長野県
平成 12 (2000) 年 1 月 12 日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）
3 月 28 日 滋賀県
7 月 18 日 富山県、香川県、大分県
平成 13 (2001) 年 3 月 22 日 佐賀県 5 月 10 日 山梨県、川崎市（神奈川県）
7 月 19 日 高知県 12 月 12 日 福島県
平成 14 (2002) 年 3 月 20 日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）
7 月 29 日 北海道、長崎県
平成 15 (2003) 年 3 月 10 日 沖縄県
平成 16 (2004) 年 5 月 26 日 独立行政法人防災科学技術研究所

● 付表 3 . 日本及びその周辺におけるマグニチュード (M) 別の月別地震回数
 <平成 17 年 (2005 年) 1 月～平成 18 年 (2006 年) 1 月>

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2006年 1 月	264	53	4			321	57	
2005年12月	363	81	11	3		458	95	2 日：宮城県沖 (M6.6) 4 日：奄美大島近海 (M6.1) 奄美大島近海の地震の余震 (M3.0～3.9：45回、M4.0～4.9：7 回、 M5.0～5.9：3 回) 17 日：宮城県沖 (M6.1) 三陸沖の地震の余震 (M3.0～3.9：64回、M4.0～4.9：4 回)
2005年11月	537	93	8	1	1	640	103	15 日：三陸沖 (M7.1) 三陸沖の地震の余震 (M3.0～3.9：277回、M4.0～4.9：27回) 22 日：種子島近海 (M6.0)
2005年10月	309	67	8	4		388	79	15 日：千島列島東方 (M6.4) 16 日：与那国島近海 (M6.5) 19 日：茨城県沖 (M6.3) 23 日：日本海中部 (M6.1)
2005年 9 月	294	65	6	2		367	73	6 日：台湾付近 (M6.0) 21 日：国後島付近 (M6.0)
2005年 8 月	453	92	10	2	1	558	105	16 日：宮城県沖 (M7.2) (M3.0～3.9：38回、M4.0～4.9：10回、 M5.0以上は本震の 1 回) 三陸沖の地震活動 (M3.0～3.9：43回、M4.0～4.9：13回、 M5.0～5.9：2 回、M6.0～6.9：2 回) 八丈島東方沖の地震活動 (M3.0～3.9：94回、M4.0～4.9：7 回、 M5.0～5.9：1回)
2005年 7 月	378	98	15	1		492	114	23 日：千葉県北西部 (M6.0) 八丈島東方沖の地震活動 (M3.0～3.9：124回、M4.0～4.9：40回、 M5.0～5.9：6回)
2005年 6 月	271	75	9			355	84	
2005年 5 月	271	64	12			347	76	福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0～3.9：10回、M5.0～5.9：1 回)
2005年 4 月	354	66	7	2		429	75	11 日：千葉県北東部 (M6.1) 19 日：鳥島近海 (M6.0) 福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0～3.9：38回、M4.0～4.9：8 回、 M5.0～5.9：3 回)
2005年 3 月	592	88	6	1	1	688	96	6 日：台湾付近 (M6.2) 20 日：福岡県西方沖 (M7.0) 福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0～3.9：188回、M4.0～4.9：16回、 M5.0～5.9：1 回) 房総半島南東沖の地震活動 (M3.0～3.9：103回、M4.0～4.9：6 回)
2005年 2 月	308	56	11	1		376	68	10 日：父島近海 (M6.5) 新潟県中越地震の余震活動 (M3.0～3.9：6 回、M4.0～4.9：2 回) 房総半島南東沖の地震の余震 (M3.0～3.9：31回、M4.0～4.9：2 回、 M5.0～5.9：1 回)
2005年 1 月	451	83	12	2		548	97	18 日：釧路沖 (M6.4) (M3.0～3.9：12回、M4.0～4.9：7 回、 M5.0～5.9：0 回、M6.0～M6.9：1 回) 19 日：房総半島南東沖 (M6.8) 房総半島南東沖の地震の余震 (M3.0～3.9：120回、M4.0～4.9：18回、 M5.0～5.9：5 回) 新潟県中越地震の余震 (M3.0～3.9：12回、M4.0～4.9：2 回)
2005年計	4581	928	115	19	3	5646	1065	(平成17年 1 月～平成17年12月)
過去 1 年計	4394	898	107	17	3	5419	1025	(平成17年 2 月～平成18年 1 月)

注)日本及びその周辺：原則、北緯20～49度、東経120～153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

●付録 地震・火山月報（防災編）で用いる震央地名

北海道地方

100 石狩支庁北部
101 石狩支庁中部
102 石狩支庁南部
105 渡島支庁北部
106 渡島支庁東部
107 渡島支庁西部
110 桧山支庁地方
115 後志支庁北部
116 後志支庁東部
117 後志支庁西部
120 空知支庁北部
121 空知支庁中部
122 空知支庁南部
125 上川支庁北部
126 上川支庁中部
127 上川支庁南部
130 留萌支庁中北部
131 留萌支庁南部
135 宗谷支庁北部
136 宗谷支庁南部
140 網走支庁網走地方
141 網走支庁北見地方
142 網走支庁紋別地方
145 胆振支庁西部
146 胆振支庁中東部
150 日高支庁西部
151 日高支庁中部
152 日高支庁東部
155 十勝支庁北部
156 十勝支庁中部
157 十勝支庁南部
160 釧路支庁北部
161 釧路支庁中南部
165 根室支庁北部
166 根室支庁中部
167 根室支庁南部
180 北海道南西沖
181 北海道西方沖
182 石狩湾
183 北海道北西沖
184 宗谷海峡
185 北海道北東沖
186 国後島付近
187 択捉島付近
188 北海道東方沖
189 根室半島南東沖
190 釧路沖
191 十勝沖
192 浦河沖
193 苫小牧沖
194 内浦湾

東北地方

200 青森県津軽北部
201 青森県津軽南部
202 青森県三八上北地方
203 青森県下北地方
210 岩手県沿岸北部
211 岩手県沿岸南部
212 岩手県内陸北部
213 岩手県内陸南部
220 宮城県北部
221 宮城県南部
230 秋田県沿岸北部
231 秋田県沿岸南部
232 秋田県内陸北部
233 秋田県内陸南部
240 山形県庄内地方
241 山形県最上地方
242 山形県村山地方
243 山形県置賜地方
250 福島県中通り地方

251 福島県浜通り地方
252 福島県会津地方
280 津軽海峡
281 山形県沖
282 秋田県沖
283 青森県西方沖
284 陸奥湾
285 青森県東方沖
286 岩手県沖
287 宮城県沖
288 三陸沖
289 福島県沖
290 仙台湾

関東・北陸・東海地方

300 茨城県北部
301 茨城県南部
310 栃木県北部
311 栃木県南部
320 群馬県北部
321 群馬県南部
330 埼玉県北部
331 埼玉県南部
332 埼玉県秩父地方
340 千葉県北東部
341 千葉県北西部
342 千葉県南部
350 東京都23区
351 東京都多摩東部
352 東京都多摩西部
360 神奈川県東部
361 神奈川県西部
370 新潟県上越地方
371 新潟県中越地方
372 新潟県下越地方
380 富山県東部
381 富山県西部
390 石川県能登地方
391 石川県加賀地方
400 福井県嶺北地方
401 福井県嶺南地方
410 山梨県東部
411 山梨県中西部
420 長野県北部
421 長野県中部
422 長野県南部
430 岐阜県飛騨地方
431 岐阜県美濃東部
432 岐阜県美濃中西部
440 静岡県伊豆地方
441 静岡県東部
442 静岡県中部
443 静岡県西部
450 愛知県東部
451 愛知県西部
460 三重県北部
461 三重県中部
462 三重県南部
470 鹿島灘
471 茨城県沖
472 関東東方沖
473 千葉県東方沖
474 房総半島南東沖
475 八丈島東方沖
476 八丈島近海
477 東京湾
478 相模湾
479 千葉県南方沖
480 伊豆大島近海
481 伊豆半島東方沖
482 三宅島近海
483 新島・神津島近海
484 伊豆半島南方沖

485 駿河湾
486 駿河湾南方沖
487 遠州灘
488 東海道沖
489 三河湾
490 伊勢湾
491 熊野灘
492 若狭湾
493 福井県沖
494 石川県西方沖
495 能登半島沖
496 新潟県沖
497 富山湾
498 佐渡付近

近畿・中国・四国地方

500 滋賀県北部
501 滋賀県南部
510 京都府北部
511 京都府南部
520 大阪府北部
521 大阪府南部
530 兵庫県北部
531 兵庫県南東部
532 兵庫県南西部
540 奈良県地方
550 和歌山県北部
551 和歌山県南部
560 鳥取県東部
562 鳥取県中部
563 鳥取県西部
570 島根県東部
571 島根県西部
580 岡山県北部
581 岡山県南部
590 広島県北部
591 広島県南東部
592 広島県南西部
600 徳島県北部
601 徳島県南部
610 香川県東部
611 香川県西部
620 愛媛県東予地方
621 愛媛県中予地方
622 愛媛県南予地方
630 高知県東部
631 高知県中部
632 高知県西部
670 紀伊半島沖
671 室戸岬沖
672 足摺岬沖
673 土佐湾
674 紀伊水道
675 大阪湾
676 播磨灘
677 瀬戸内海中部
678 安芸灘
679 周防灘
680 伊予灘
681 豊後水道
682 山口県北西沖
683 島根県沖
684 鳥取県沖
685 隠岐島近海
686 兵庫県北方沖
687 京都府沖
688 淡路島付近
700 山口県北部
701 山口県東部
702 山口県西部

九州地方

710 福岡県福岡地方

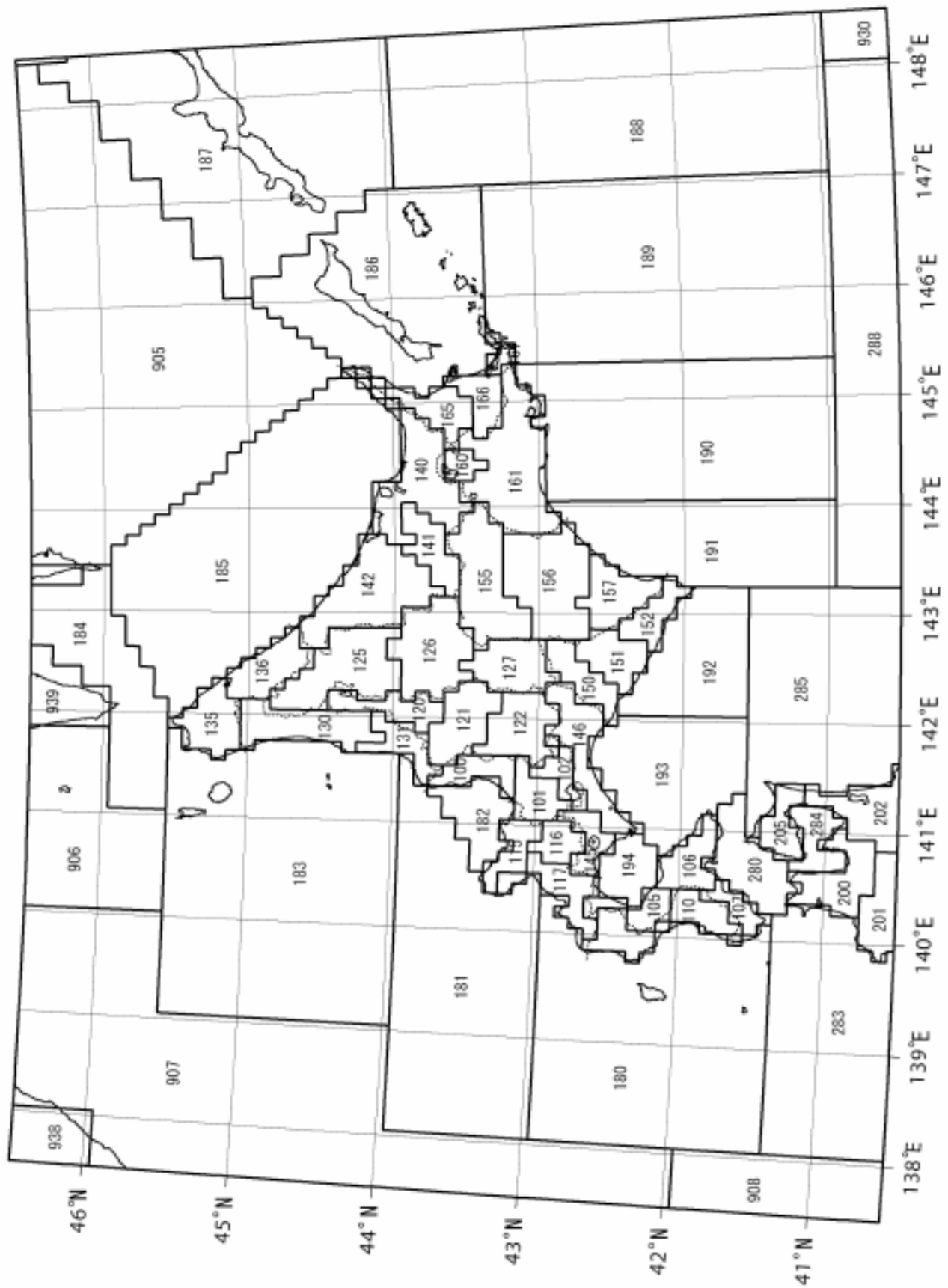
711 福岡県北九州地方
712 福岡県筑豊地方
713 福岡県筑後地方
720 佐賀県北部
721 佐賀県南部
730 長崎県北部
731 長崎県南西部
732 長崎県島原半島地方
740 熊本県阿蘇地方
741 熊本県熊本地方
742 熊本県球磨地方
743 熊本県天草芦北地方
750 大分県北部
751 大分県中部
752 大分県南部
753 大分県西部
760 宮崎県北部平野部地方
761 宮崎県北部山沿い地方
762 宮崎県南部平野部地方
763 宮崎県南部山沿い地方
770 鹿児島県薩摩地方
771 鹿児島県大隅地方
780 対馬近海
781 福岡県西方沖
782 長崎県沖
783 五島列島近海
784 天草灘
785 有明海
786 橘湾
787 鹿児島湾
788 鹿児島県西方沖
789 鹿児島県南西沖
790 種子島近海
791 日向灘
792 種子島東方沖
793 奄美大島近海
794 奄美大島東方沖

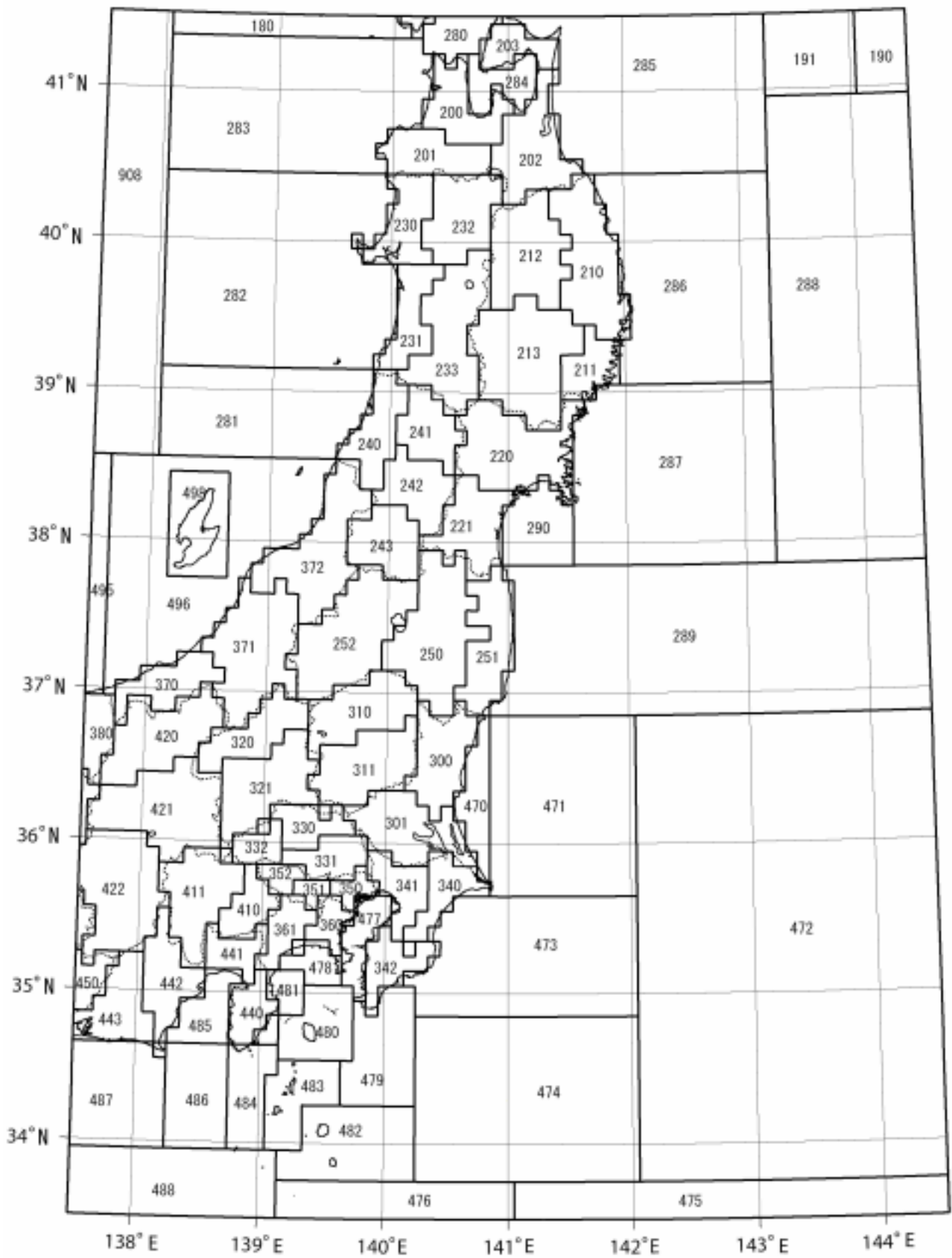
沖縄地方

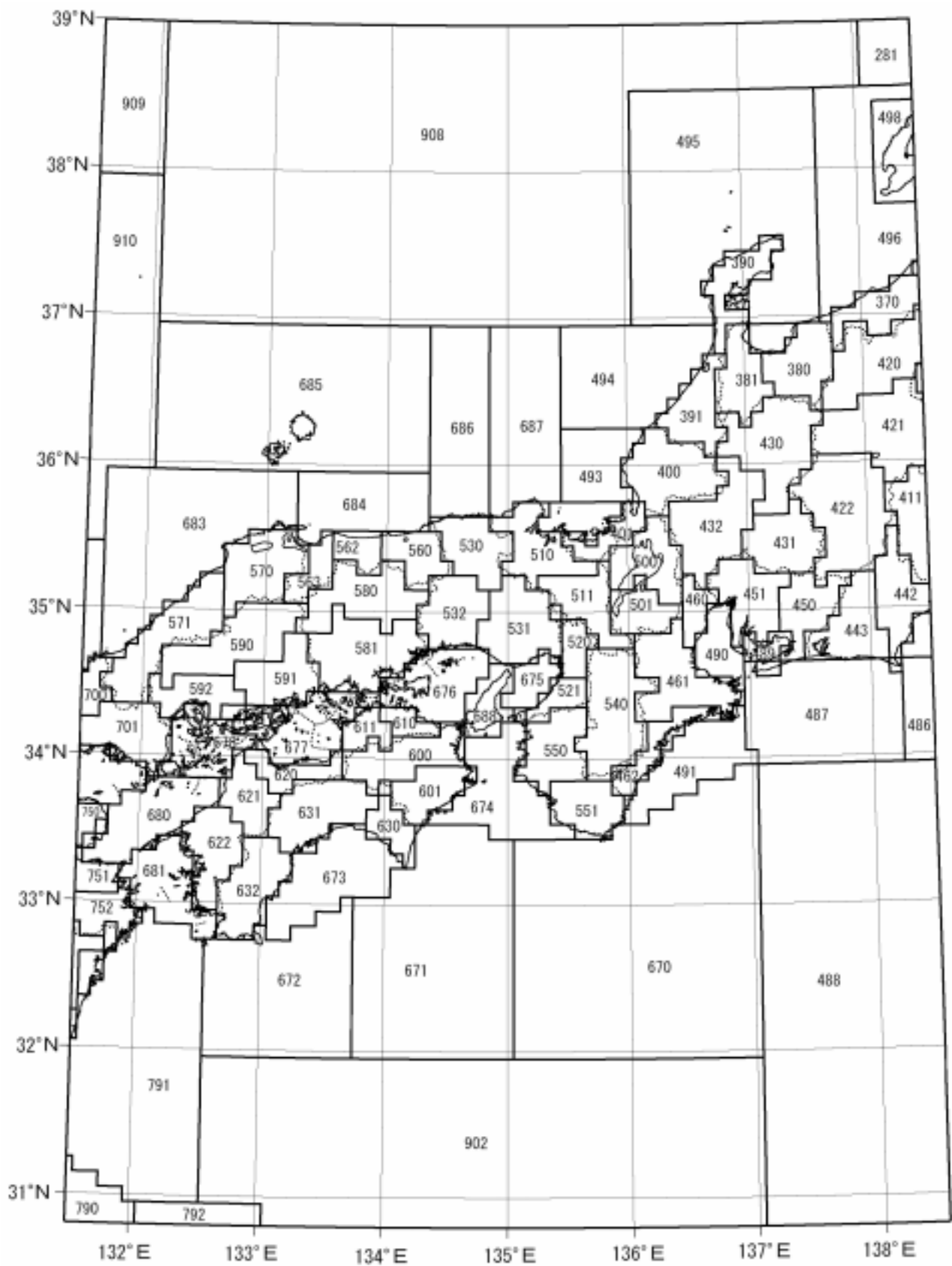
850 沖縄本島近海
851 南大東島近海
852 沖縄本島南方沖
853 宮古島近海
854 石垣島近海
855 石垣島南方沖
856 西表島付近
857 与那国島近海

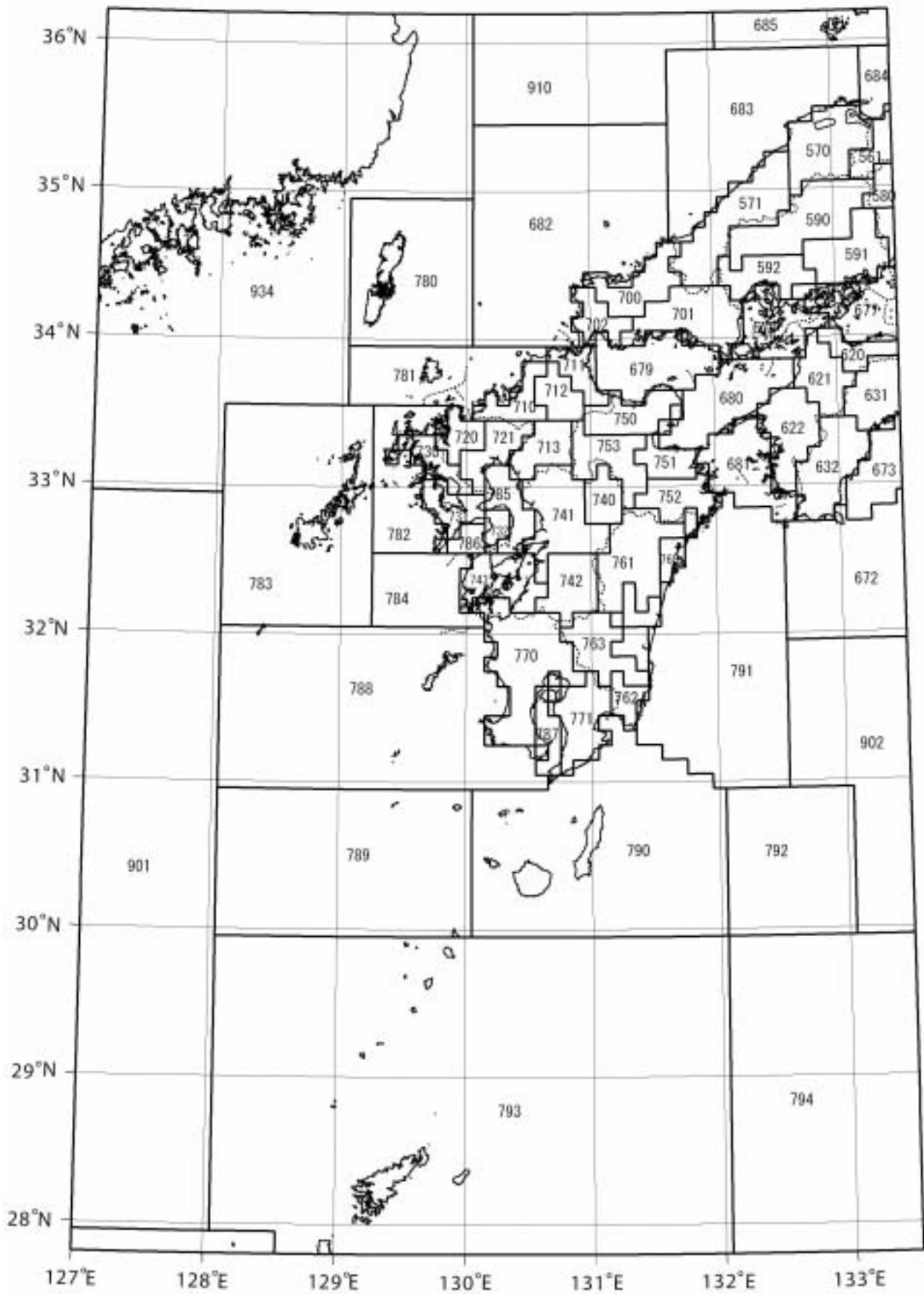
日本周辺

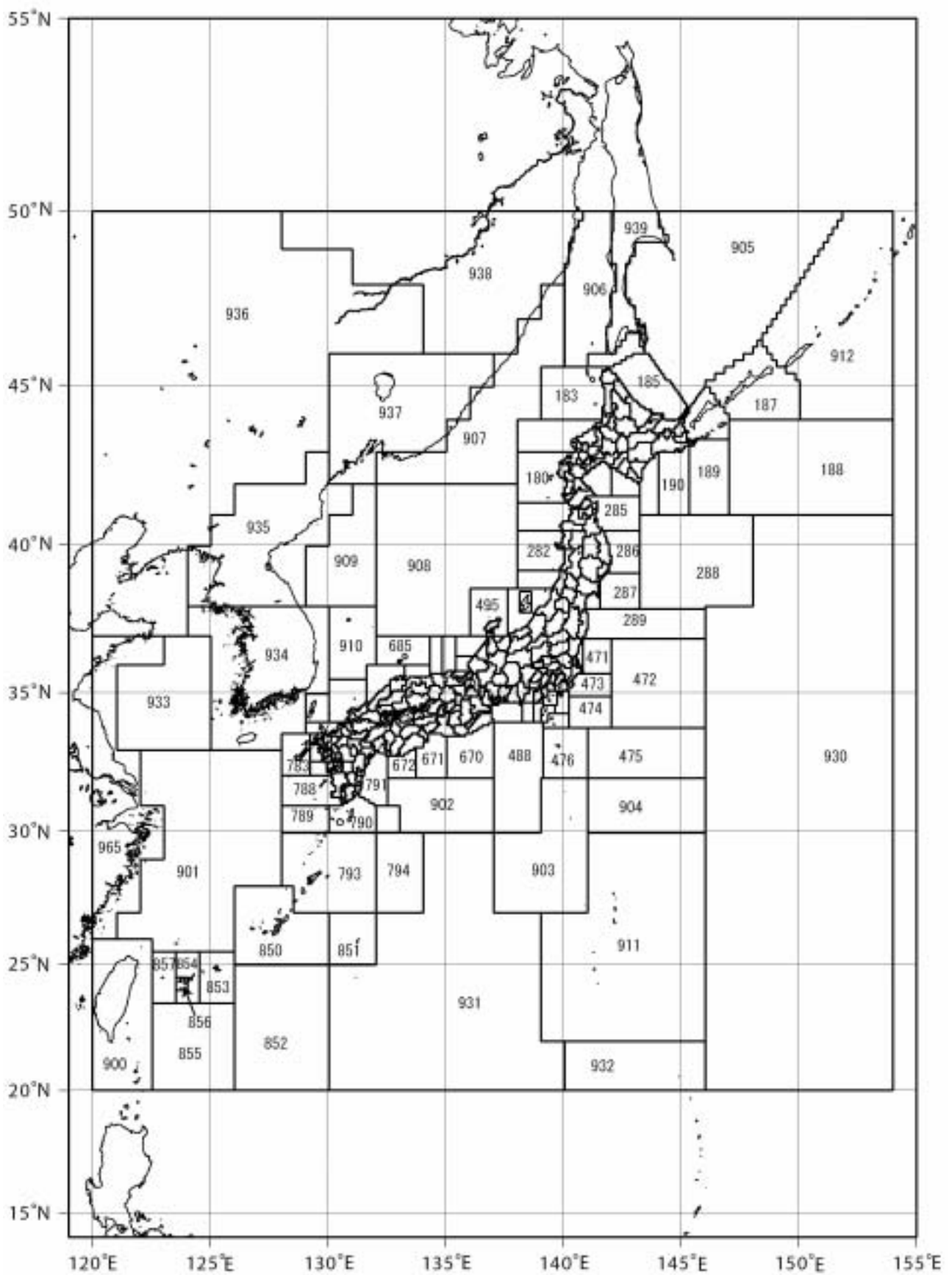
900 台湾付近
901 東シナ海
902 四国沖
903 鳥島近海
904 鳥島東方沖
905 オホーツク海南部
906 サハリン西方沖
907 日本海北部
908 日本海中部
909 日本海西部
910 日本海南西部
911 父島近海
912 千島列島
930 北西太平洋
931 フィリピン海北部
932 マリアナ諸島
933 黄海
934 朝鮮半島南部
935 朝鮮半島北部
936 中国東北部
937 ウラジオストク付近
938 シベリア南部
939 サハリン近海
965 中国東部



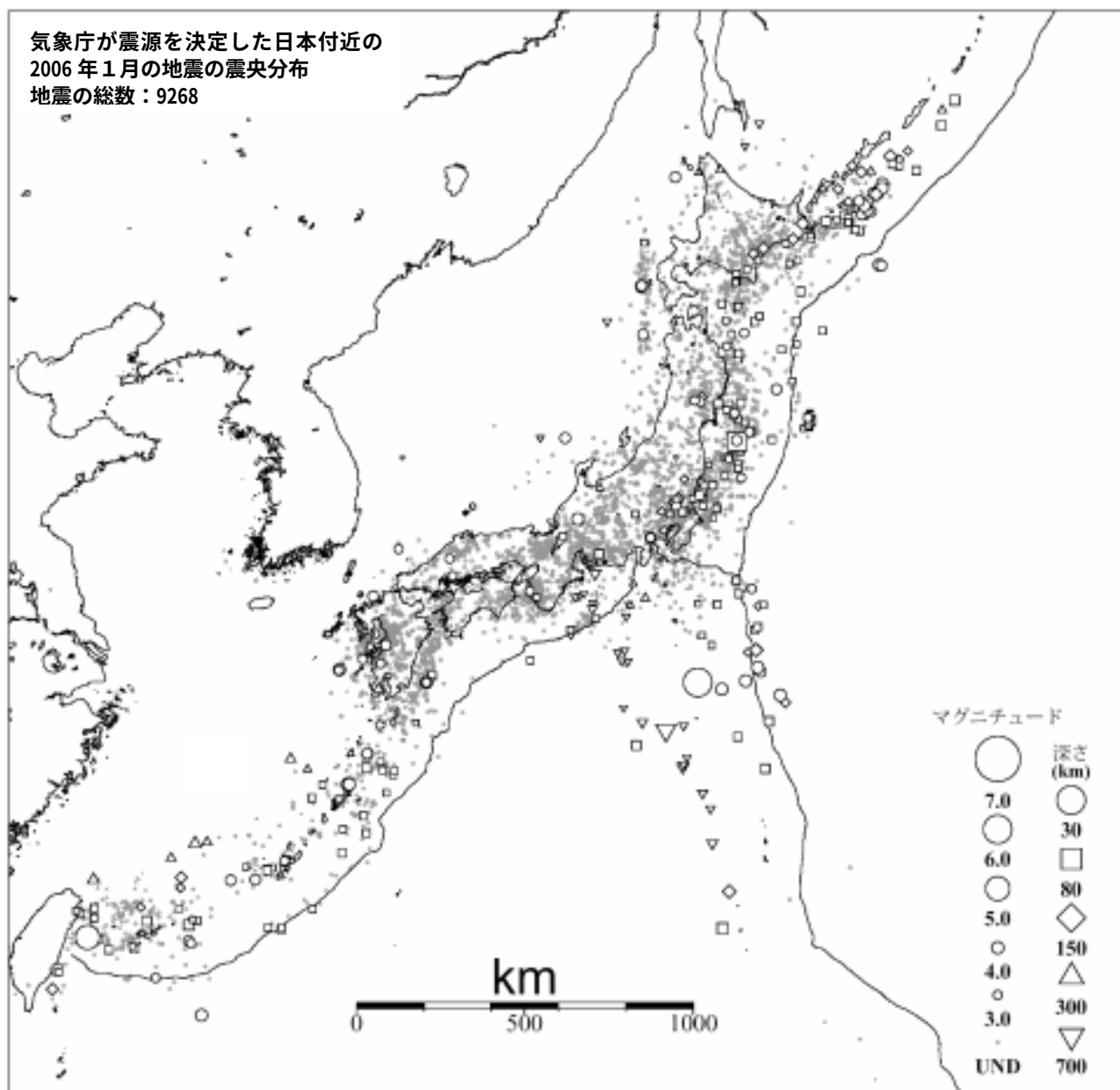








気象庁が震源を決定した日本付近の
2006 年 1 月の地震の震央分布
地震の総数：9268



M3.0 以上の地震の震央を白抜きで示す。